

2025年度

講義概要

学校法人 慈恵大学
慈恵第三看護専門学校

目 次

I. 教育課程	3
1. 教育理念・目的・目標	3
2. 卒業時の到達目標(ディプロマ・ポリシー)と 必要とされる能力(コンピテンシー)	4
3. 入学者受け入れ方針(アドミSSION・ポリシー)	6
4. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)	6
5. 主要概念の定義	8
6. 科目の構成・講義時間	9
II. 学科進度	13
III. 教育計画	17
IV. 学年別講義概要	19
1 年次	
基礎分野	23
専門基礎分野	35
専門分野	49
2 年次	
基礎分野	87
専門基礎分野	91
専門分野	99
3 年次	
基礎分野	159
専門基礎分野	161
専門分野	167
V. 臨地実習概要	177

I. 教 育 課 程

1. 教育理念・目的・目標

教育理念

本校は、明治18年創始者高木兼寛がナイチンゲール看護婦学校に範を得て、「つねに人びとの幸を願いそのために献身する」という慈恵の精神に基づき、看護教育を開始した、わが国最初の看護師教育機関です。以後、一貫して社会に貢献できる看護実践者を育成しています。

教育にあたっては、専門職として必要な知識・技術を身につけ、教育所開設当初より大切にしてきた、品位、礼儀、辞讓、温和な態度で対象である人間を尊重した看護を実践できる看護師を育成します。慈恵の看護教育を受けた看護師は、社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健福祉分野に貢献できる専門職として人々の健康に寄与します。

教育目的

慈恵の精神にのっとり看護に関する専門教育を行い、人間性の涵養につとめ社会に貢献できる有能な看護師を育成することを目的とする。

教育目標

- 1) 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う
- 2) さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う
- 3) あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う
- 4) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う
- 5) 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度を形成できる
- 6) 専門職業人として看護を探究する姿勢を養う

2. 卒業時の到達目標(ディプロマ・ポリシー)と必要とされる能力(コンピテンシー)

慈恵の看護専門学校は、卒業時到達目標に示す目標を達成し、必要な能力を身につけた学生に卒業を認め、専門士(看護)の称号を付与する。

【必要とされる能力(コンピテンシー)】

感じる力：

人間に対する心のこもった関心と思いやりを持ち、お互いの言動の意味と考えを認知・共感する力、他者の立場に立つ力、他者の考えや感情を知る力、自己の想像力

人とかかわる力：

自分の感じていることや行動傾向を知り、他者の感情や考え方、おかれている立場を理解する力である。また、他者の思いに傾聴および共感しながら自分の考えを正確に伝える力である。感じ取る力・聞く力・伝える力・内省する力

ケアする力：

看護に関する知識と技術を有し、臨床の場で活用し、実践する経験を通して看護観を育み、問題解決の能力や臨床判断能力を養い看護を実践する力

協働する力：

チーム医療に携わるうえで目的を達成するために他者に応援を求める力、自分及び他者の役割を知り、協力し合う力、交渉力、調整力である。

学び続ける力：

生涯にわたって専門職としてより質の高い看護を目指して自律的に最新の知識・技術を学び続ける力である。

【卒業時の到達目標(ディプロマポリシー)】

- 1) 人間を統合された存在として幅広く理解できる
- 2) 看護の対象者との信頼関係を形成するためのコミュニケーションができる
- 3) 豊かな人間性を備え社会的規範を理解し行動できる
- 4) 科学的根拠・倫理に基づきさまざまな健康状態に応じた看護を実践する
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種の役割を理解し連携・協働できる
- 6) 生涯にわたり継続して専門的能力を高めていくことができる

【教育目標・コンピテンシー・ディプロマポリシーの関連】

関連が強い：◎ 関連している：○

コンピテンシー	教育目標		1	2	3	4	5	6
	ディプロマポリシー		人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う	様々な人々の人権を尊重し、人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う	あらゆる人々の健康状態に応じた看護を実践する基礎的能力を養う	保健・医療・福祉を総合的に理解し多職種と連携・協働できる能力を養う	豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度が形成できる	専門職業人として、看護を探究する能力を養う
感じる力	1. 人間を統合された存在として幅広く理解できる	- 人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、個性のある存在として理解できる - 人間の尊厳とは何かについて考え、人間の存在を尊ぶ心を持つ - 人間に対する心のこもった関心と思いやりを持ち対象の反応を感じ取り受け止め、反応の意味を理解する	◎	○	◎			
	2. 看護の対象者との信頼関係を形成するためのコミュニケーションができる	- 周囲の人の心情や社会的立場、その場の状況などをふまえて品位、礼儀、辞讓、温和な態度、ふるまいができる - 他者の思いに傾聴および共感しながら自分の考えを正確に伝えることができる - 人とかかわることに喜びを感じ、自ら積極的に働きかける - 人間を全人的に捉え豊かな対人関係能力を身につけることができる	◎	◎	◎			
人とかかわる力	3. 豊かな人間性を備え社会的規範を理解し行動できる	- 人を慈しみ、幸せを願う心を持ち、豊かな人間性を養うことができる - 法令および社会規範を遵守し、誠実かつ公正な態度がとれる	◎	◎	◎		◎	
	4. 科学的根拠・倫理に基づきさまざまな健康状態に応じた看護を実践する	- 根拠に基づいて体系化された知識・技能を現場に適用できる - 対象の多様な健康課題を明らかにし、根拠に基づいた看護を計画・実施・評価できる - 対象の価値観や自己決定を尊重し、擁護的立場で支援できる		◎	◎	◎		○
ケアする力	5. 保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種の役割を理解し連携・協働できる	- 対象を取りまく多職種と協働し、看護の視点から発信できる - チームの中でリーダーシップ・メンバーシップを発揮し連携できる		○	◎	◎	◎	
学び続ける力	6. 生涯にわたり継続して専門的能力を高めていくことができる	- 看護職者として自律して学び続けることができる - 生涯を通して最新の知識・技術を探究する姿勢を身につけることができる - 自らの将来像を描き目標に向かって成長し続けることができる			○			◎

3. 入学者受け入れ方針(アドミSSION・ポリシー)

慈恵の看護専門学校は、卒業時の到達目標を達成できる学生として、入学時には次のような人材を望んでいる。

- 1) 慈恵の精神に共感し、看護実践に取り組む意欲がある人
- 2) 目標に向かって自ら学び続けることができる人
- 3) 他者の意見を聞き、自分の意見を伝えて信頼関係を作ることができる人
- 4) 看護を学ぶために必要な基礎学力を持ち学習することができる人
- 5) 人に対する関心と思いやりがもてる人
- 6) 誠実で良識ある行動ができる人

4. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

慈恵の看護専門学校は社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健医療福祉分野に貢献できる専門職を育成している。

教育課程は、教育理念、教育目標、卒業時の到達目標(ディプロマ・ポリシー)に基づいて、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で構成する。

- 1) 基礎分野と専門基礎分野は、専門領域を学ぶ上で土台となる。専門領域の基礎看護学を核とし、あらゆる対象、健康の段階、療養の場の看護を展開でき3年間で修得すべき能力を養う為に必要な学習の順序性を考え、さらに看護基礎教育と卒後教育の橋渡しとなるようカリキュラムを構成し、配置する。
- 2) 低学年時からグループ討論、演習、実習を多く取り入れ、反復と応用、体験を繰り返せるような組み合わせで配置する。
- 3) アクティブラーニング、シミュレーション学習、ロールプレイ学習など、知識だけでなく体験を通して学べるような教育方法を積極的に取り入れる。
- 4) 日常的な体験を通して、さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養えるような機会を提供する。
- 5) 豊かな人間性と、人に対する関心と思いやりをもち、誠実で良識ある行動ができるよう教科内に留まらず、学校生活のすべての場面を学びの機会とする。
- 6) 科目目標の達成度は、多様な評価方法を用いて総合的に評価する。

各分野のねらいと構成は以下のとおりである。

- (1) 「**基礎分野**」は、専門基礎分野、専門分野を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力(ICT活用能力)を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをとおして、看護を学ぶための資質を培い、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。
- (2) 「**専門基礎分野**」は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。
- (3) 「**専門分野**」は、基礎分野、専門基礎分野で学んだ土台をもとに、あらゆる人びとの健康状態に応じた看護の必要性を判断し、適切な方法で援助を実践するための能力を身につけるための科目群である。ここでは、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」を区分する。

「基礎看護学」では、人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護とは何かを考え、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

「地域・在宅看護論」では、多様な場で生活する人々と家族の暮らしを理解し、地域包括ケアシステムのなかで健康を護り、健康障害を抱えながらも自宅で過ごす人を支えるための看護を学習する。人びとの生活の基盤は地域・在宅にあることを意識づけ、暮らしを支える視点を養うため、「基礎看護学」と同様に1年次の早い段階から段階的に学習できるよう構築する。

各看護学では、さまざまなライフサイクルにある人々の特徴を理解し、健康状態に応じた看護について学び、多職種と連携・協働して適切な保健・医療・福祉を提供する能力を身につける。また、それぞれの特徴や専門性を深めながら、できるだけ包括的、横断的な観点から学べるようにする。

「看護の統合と実践」では、既習の学習を統合し、より実践に近づけて看護実践力の向上を図り、生涯にわたって継続して看護を探究するための素地を養う。これらの学びをとおして、社会に貢献できる看護師としての基礎的能力を身につけることをねらいとする。

5. 主要概念の定義

慈恵の看護専門学校は、看護、人間、健康、環境を次のように捉える。

看護とは、「その人の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」という、ナイチンゲールの提唱する看護に基づき、あらゆる人びとの成長と発達、健康の状態に応じて、持てる力を活用し、自立を助け、その人らしく日常生活が営めるように援助する活動である。看護は、人間関係を基盤とし、その対象に応じて教育的機能や相談・支持的機能・調整的機能を持つ。

人間とは、基本的人権を有し尊重される存在である。人間は、受精から死ぬまでの生命現象をもち、身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、成長しつづける存在である。人間には自然に備わった回復力、自然治癒力があり、人間は外部環境の変化に応じてバランスをとりながら内部環境を保っている存在である。

健康とは、身体的・精神的・社会的に調和がとれている状態である。健康は基本的権利の一つであり、個人のQOLに影響を与えるものである。健康とは良い状態をさすだけでなく、持てる力を十分に活用している状態で、生活過程により影響を受け、流動的かつ連続的なもので、個人の価値観に基づいて自らが創り出していくものである。

環境とは、人間を取り巻くすべてをさし、つねに相互に関連しあい、人間の成長・発達や健康に影響を及ぼしている。人間もまたその環境の一部である。

6. 科目の構成・講義時間

分 野		科 目 名	単位数・時間数		1 年	2 年	3 年
基 礎 分 野	科学的思考の基盤	人間関係論	1	15	○		
		日本語表現法	1	15	○		
		自然科学総論	1	30	○		
	人間と生活、社会の理解	生活と科学	1	30	○		
		情報科学	1	15	○		
		情報リテラシー	1	15	○		
		社会学	1	30	○		
		教育学	1	15		○	
		哲学	1	15	○		
		心理学	1	30	○		
		医療に関する英会話	1	30	○		
		医療に関する英文読解	1	30			○
		文化人類学	1	15		○	
		パフォーマンス論	1	30	○		
	小 計		14	315	11 (255)	2 (30)	1 (30)
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能	人体の構造	1	30	○		
		生命の維持機能	1	30	○		
		生体の調節機能	1	30	○		
		生活過程を整えるための形態機能学	1	15	○		
		生化学	1	30	○		
	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床生理Ⅰ	1	15	○		
		臨床生理Ⅱ	1	15	○		
		病理学	1	15	○		
		微生物と生体防御	1	30	○		
		生命の維持機能の障害と治療	1	30		○	
		生体の調節機能の障害と治療Ⅰ	1	30		○	
		生体の調節機能の障害と治療Ⅱ	1	15		○	
		薬物療法の基礎	1	30	○		
		麻酔と手術療法	1	30		○	
		リハビリテーション治療の基礎	1	15	○		
		栄養と食事療法	1	15		○	
	健康支援と社会保障制度	医療のあゆみ	1	15	○		
		公衆衛生の基本と法制度及び保健活動	1	30		○	
		社会保障制度と社会福祉活動	2	30			○
		医療と法律	1	15			○
		医療マネジメント	1	15			○
	小 計		22	480	12 (270)	6 (150)	4 (60)
専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論	1	30	○		
		看護理論と看護の歴史	1	15	○		
		看護倫理	1	15	○		
		看護基本技術	1	30	○		
		フィジカルアセスメント	1	30	○		
		日常生活の援助技術	1	30	○		
		日常生活の援助技術の実際	1	45	○		
		診療に伴う援助技術	1	30	○		
		診療に伴う援助技術の実際	1	45	○		
		看護過程の展開	1	30		○	
		臨床看護演習	1	30	○		
	小 計		11	330	10 (300)	1 (30)	

分 野		科 目 名		単位数・時間数		1 年	2 年	3 年
専 門 分 野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15	○			
		在宅療養を支える社会資源とケアシステム	1	15		○		
		在宅における援助の基本技術	1	30		○		
		在宅における生活援助技術の実践	1	30		○		
		家族看護論	1	15		○		
		がん看護	1	15		○		
	小 計		6	120	1 (15)	5 (105)		
	成人看護学	成人看護学概論	1	15	○			
		クリティカルケア看護	1	15		○		
		周手術期の看護	1	30		○		
		セルフマネジメントに向けての看護	1	30		○		
		セルフケア再獲得に向けての看護	1	30		○		
		緩和ケア・終末期の看護	1	15		○		
	小 計		6	135	1 (15)	5 (120)		
	老年看護学	老年看護学概論	1	15	○			
		老いることとその支援	1	15		○		
		老年期にある人の健やかな生活を支える看護	1	30		○		
		老年期にある人の健康状態に合わせた看護	1	30		○		
	小 計		4	90	1 (15)	3 (75)		
	小児看護学	小児看護学概論	1	15	○			
		子どもの健やかな成長・発達を支える看護	1	30		○		
		小児の疾病と病態生理	1	15		○		
		健康障害をもつ子どもの看護	1	30		○		
	小 計		4	90	1 (15)	3 (75)		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	○			
		生殖・周産期の基礎	1	15		○		
		母子の健康と看護	1	30		○		
		母子の看護技術演習	1	30		○		
	小 計		4	105	1 (30)	3 (75)		
	精神看護学	精神看護学概論	1	15	○			
		精神看護の基本技術	1	30		○		
		精神障害と治療	1	15		○		
		精神障害をもつ人の看護	1	30		○		
	小 計		4	90	1 (15)	3 (75)		
	看護の統合と実践	看護実践マネジメントと医療安全	1	30				○
		災害時看護と国際協力	1	30		○		
		看護研究	1	30				○
		臨床看護の実践	1	30				○
	小 計		4	120		1 (30)	3 (90)	
	臨地実習	生活過程を整える実習Ⅰ	1	45	○			
		生活過程を整える実習Ⅱ	2	90		○		
		地域で生活する人と生活を知る実習	2	90		○		
		生活過程を整える実習Ⅲ-1	2	90				○
		生活過程を整える実習Ⅲ-2	2	90				○
		生活過程を整える実習Ⅲ-3	2	90				○
		在宅看護論実習	2	90				○
		小児看護学実習	2	90				○
		母性看護学実習	2	90				○
		精神看護学実習	2	90		○		
		つなぐ～多職種連携・地域包括ケア～実習	2	90		○		
		統合実習	2	90				○
	小 計		23	1035	1 (45)	4 (360)	7 (630)	
	総 計		102	2910	975	1125	810	

Ⅱ. 学 科 進 度

学科進度表

		授 業 科 目	単 位 数	時 間 数	1 学年												2 学年												3 学年																				
					前期					後期							前期					後期							前期					後期															
					4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3												
基礎 分野	基礎 思考の 科学的 基盤	人間関係論	1	15																																													
		日本語表現法	1	15																																													
		自然科学総論	1	30																																													
	人間と生活、 社会の理解	生活と科学	1	30																																													
		情報科学	1	15																																													
		情報リテラシー	1	15																																													
		社会学	1	30																																													
		教育学	1	15																																													
		哲学	1	15																																													
		心理学	1	30																																													
		医療に関する英会話	1	30																																													
		医療に関する英文読解	1	30																																													
文化人類学	1	15																																															
パフォーマンス論	1	30																																															
小 計		14	315	9 (210)					2 (45)							1 (15)					1 (15)							1 (30)																					
専門 基礎 分野	構造と機能 人体の	人体の構造	1	30																																													
		生命の維持機能	1	30																																													
		生体の調節機能	1	30																																													
	疾病の成り立ちと 回復の促進	生活過程を整えるための形態機能学	1	15																																													
		生化学	1	30																																													
		臨床生理Ⅰ	1	15																																													
		臨床生理Ⅱ	1	15																																													
		病理学	1	15																																													
		微生物と生体防御	1	30																																													
		生命の維持機能の障害と治療	1	30																																													
		生体の調節機能の障害と治療Ⅰ	1	30																																													
		生体の調節機能の障害と治療Ⅱ	1	15																																													
		薬物療法の基礎	1	30																																													
		麻酔と手術療法	1	30																																													
		リハビリテーション治療の基礎	1	15																																													
	社会 健康支援と 保障制度	栄養と食事療法	1	15																																													
		医療のあゆみ	1	15																																													
		公衆衛生の基本と法制度及び保健活動	1	30																																													
社会保障制度と社会福祉活動		2	30																																														
医療と法律		1	15																																														
医療マネジメント	1	15																																															
小 計		22	480	5 (120)					7 (150)							5 (120)					1 (30)							3 (45)					1 (15)																
専門 分野	基礎看護学	看護学概論	1	30																																													
		看護理論と看護の歴史	1	15																																													
		看護倫理	1	15																																													
		看護基本技術	1	30																																													
		フィジカルアセスメント	1	30																																													
		日常生活の援助技術	1	30																																													
		日常生活の援助技術の実際	1	45																																													
		診療に伴う援助技術	1	30																																													
		診療に伴う援助技術の実際	1	45																																													
		看護過程の展開	1	30																																													
	臨床看護演習	1	30																																														
	小 計		11	330	4 (135)					6 (165)							1 (30)																																
	地域・在宅 看護論	地域・在宅看護概論	1	15																																													
		在宅療養を支える社会資源とケアシステム	1	15																																													
		在宅における援助の基本技術	1	30																																													
	成人看護学	在宅における生活援助技術の実際	1	30																																													
		家族看護論	1	15																																													
		がん看護	1	15																																													
		小 計		6	120	1 (15)					1 (15)							4 (90)																															
		成人看護学概論	1	15																																													
		クリティカルケア看護	1	15																																													
		周手術期の看護	1	30																																													
		セルフマネジメントに向けての看護	1	30																																													
		セルフケア再獲得に向けての看護	1	30																																													
		緩和ケア・終末期の看護	1	15																																													
	小 計		6	135						1 (15)							3 (60)					2 (60)																											
	看護学 老年	老年看護学概論	1	15																																													
老いることとその支援		1	15																																														
老年期にある人の健やかな生活を支える看護		1	30																																														
看護学 小児	老年期にある人の健康状態に合わせた看護	1	30																																														
	小 計		4	90						1 (15)							2 (45)					1 (30)																											
	小児看護学概論	1	15																																														
	子どもの健やかな成長・発達を支える看護	1	30																																														
	小児の疾病と病態生理	1	15																																														
	健康障害をもつ子どもの看護	1	30																																														
	小 計		4	90						1 (15)							2 (45)					1 (30)																											
	母性看護学	母性看護学概論	1	30																																													
	生殖・周産期の基礎	1	15																																														
	母子の健康と看護	1	30																																														
母子の看護技術演習	1	30																																															
小 計		4	105						1 (30)							2 (45)					1 (30)																												
看護学 精神	精神看護学概論	1	15																																														
	精神看護の基本技術	1	30																																														
	精神障害と治療	1	15																																														
	精神障害をもつ人の看護	1	30																																														
小 計		4	90						1 (15)							2 (45)					1 (30)																												
看護学 実践	看護実践マネジメントと医療安全	1	30																																														
	災害時看護と国際協力	1	30																																														
	看護研究	1	30																																														
	臨床看護の実際	1	30																																														
	小 計		4	120																		1 (30)							3 (90)																				
	臨床実習	生活過程を整える実習Ⅰ	1	45	→ →																																												
臨床 実習	地域で生活する人と生活を知る実習	2	90													→																																	
	生活過程を整える実習Ⅱ	2	90																		→																												
	つながり～多職種連携・地域包括ケア～実習	2	90																		→																												
	生活過程を整える実習Ⅲ-1	2	90																																														
	生活過程を整える実習Ⅲ-2	2	90																																														
	生活過程を整える実習Ⅲ-3	2	90																																														
	在宅看護論実習	2	90																																														
	小児看護学実習	2	90																																														
	母性看護学実習	2	90																																														
	精神看護学実習	2	90																																														
統合実習	2	90																																															
小 計		23	1035						1 (45)							2 (90)					6 (270)							12 (540)					2 (90)																
総合計		102	2910	480					975							495					540					1125							585					615					810						

Ⅲ. 教 育 計 画

教育計画

教育目標				1) 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う 2) さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う 3) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う 4) 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度を形成できる 5) 専門職業人として看護を探究する能力を養う				：基礎分野 ：専門基礎分野 ：基礎看護学 ：地域・在宅看護論 ：成人看護学 ：老年看護学 ：小児看護学 ：母性看護学 ：精神看護学 ：看護の統合と実践												
学年目標		DP1-1 看護の対象である人間を理解する DP2-1 自分の感情や意思を表現することができる DP3-1 広く物事に関心を持ち、豊かな人間性を養う DP4-1 根拠に基づいた看護技術を習得する DP5-1 仲間と協力し合うことができる DP6-1 主体的に学習する習慣を身につける		DP1-2 他者に興味・関心を持ち良好な人間関係を築くことができる DP2-2 自己理解・他者理解のためのコミュニケーション技術を身につける DP3-2 社会人としてのマナーを身につける DP4-2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な問題解決力を身につける DP5-2 自己の役割を認識し、リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる DP6-2 自己の課題を明確にでき、主体的に学習することができる		DP1-3 個別性のある存在・生活者として理解できる DP2-3 人間を全人的に捉え、豊かな対人関係能力を身につけることができる DP3-3 社会人になる自覚を持ち、良識ある態度がとれる DP4-3 倫理に基づき、対象の生活に応じた看護の展開ができる DP5-3 専門職業人としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる DP6-3 キャリアビジョンを描くことができる														
入学前		1 年次前期		1 年次後期		2 年次前期		2 年次後期		3 年次前期		3 年次後期		卒業		卒業後		慈恵看護教育が 目指す看護職者像 「機を誤らず」「声なきに聞き」「形なきに見る」力を備えた看護実践者		
入 学 者 受 け 入 れ 方 針 （ ア ド ミ ッ シ ヨ ン ポ リ シ ー）	専 門 分 野					老年期にある人の健やかな生活を支える看護 30		つなぐ実習 90						卒 業 時 の 到 達 目 標 （ デ ィ プ ロ マ ポ リ シ ー）	看 護 師 国 家 試 験 受 験	看護キャリア サポート 能力開発				
						老いることとその支援 15		災害時看護と国際協力 30												
		成人看護学概論 15		緩和ケア・終末期の看護 15		老年期にある人の健康状態に合わせた看護 30														
		老年看護学概論 15		セルフマネジメントに向けての看護 30		周手術期の看護 30														
		精神看護学概論 15		クリティカルケア看護 15		セルフケア再獲得に向けての看護 30														
		小児看護学概論 15		精神障害と治療 15		精神看護学実習 90														
		母性看護学概論 30		精神看護の基本技術 30		精神障害を持つ人の看護 30														
		生活過程を整える実習Ⅰ 45		小児の疾病と病態生理 15		健康障害をもつ子どもの看護 30														
		臨床看護演習 30		子どもの健やかな成長発達を支える看護 30		母子の看護技術演習 30														
		地域・在宅看護概論 15		看護理論と看護の歴史 15		母子の健康と看護 30		家族看護論 15		生活過程を整える実習Ⅲ－1 90										
日常生活の援助技術実際 45		診療に伴う援助技術の実際 45		生殖・周産期の基礎 15		在宅における生活援助技術の実際 30		生活過程を整える実習Ⅲ－2 90												
日常生活の援助技術 30		看護倫理 15		在宅療養を支える社会資源とケアシステム 15		在宅における援助の基本技術 30		生活過程を整える実習Ⅲ－3 90		統合実習 90										
看護基本技術 30		フィジカルアセスメント 30		看護過程の展開 30		がん看護 15		母性看護学実習 90		臨床看護の実践 30										
看護学概論 30		診療に伴う援助技術 30		地域で生活する人と生活を知る実習 90		生活過程を整える実習Ⅱ 90		在宅看護論実習 90		看護研究 30										
		微生物と生体防御 30								生活過程を整える実習Ⅲ－3 90		看護実践マネジメントと医療安全 30								
		薬物療法の基礎 30																		
		医療のあゆみ 15		生化学 30		栄養と食事療法 15														
		生活過程を整えるための形態機能学 15		リハビリテーション治療の基礎 15		麻酔と手術療法 30														
		生体の調節機能 30		臨床生理Ⅰ 15		生体の調節機能の障害と治療Ⅰ 30														
		生命の維持機能 30		臨床生理Ⅱ 15		生体の調節機能の障害と治療Ⅱ 15														
		人体の構造 30		病理学 15		生命の維持機能の障害と治療 30		公衆衛生の基本と法制度及び保健活動 30		社会保障制度と社会福祉活動 30										
		情報リテラシー 15								医療と法律 15		医療マネジメント 15								
		医療に関する英会話 30																		
		生活と科学 30																		
		社会学 30																		
		パフォーマンス論 30																		
		人間関係論 15																		
		日本語表現法 15																		
		情報科学 15		哲学 15																
		自然科学総論 30		心理学 30		文化人類学 15		教育学 15		医療に関する英文読解 30										
時間数		480		495		540		585		615		195		2910						
		975				1125				810										



教育の基盤

慈恵の精神：「つねに人びとの幸を願い そのために献身する」
大学の建学の精神：「病気を診ずして病人を診よ」

ナイチンゲール看護の継承：「生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える」

IV. 学年別講義要綱

1 年次（36期生）

基礎分野

1. 考え方

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野である各看護学を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力・ICT活用能力を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをととして、看護を学ぶための資質を培い、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。

2. 目的

人間を統合的に理解するための知識を学ぶとともに、科学的・論理的思考力、コミュニケーション能力を身につけ、豊かな感性育み、自ら学修し成長し続ける能力を養う。

3. 目標

- 1) 看護に応用できる科学的思考の基礎を身につける
- 2) 思考の形成、法則を学び、論理的思考や文章表現力を養う
- 3) 国際化・情報化社会に対応できる能力及びICTを活用するための能力を養う
- 4) 人格の形成、発達心理などについて学び、人間への理解を深める
- 5) 人間の生活や社会的役割を知り、社会的存在としての人間を理解する
- 6) 人間の存在、価値観、ものの見方を理解し、自己理解を深める

4. 科目構成

	科 目	単位数	時間数	学 年 別		
				1 年	2 年	3 年
科学的思考の基盤	人間関係論	1	15	1 (15)		
	日本語表現法	1	15	1 (15)		
	自然科学総論（生物・化学の基礎）	1	30	1 (30)		
人間と生活、社会の理解	生活と科学	1	30	1 (30)		
	情報科学	1	15	1 (15)		
	情報リテラシー	1	15	1 (15)		
	社会学	1	30	1 (30)		
	教育学	1	15		1 (15)	
	哲学	1	15	1 (15)		
	心理学	1	30	1 (30)		
	医療に関する英会話	1	30	1 (30)		
	医療に関する英文読解	1	30			1 (30)
	文化人類学	1	15		1 (15)	
	パフォーマンス論	1	30	1 (30)		

科目名	人間関係論			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期	担当者	山下美保、國廣光代、井上 隆				
設定理由	看護に携わる人として、必要な能力とは何でしょうか？ 知識や技術、それはもちろんですが、患者さんを一人の人間として尊重し大切にしようとする気持ちもまた、重要であると思います。そしてその態度を、患者さんやそのご家族に伝えるためには、言語や非言語でそれを表現する力が不可欠です。						
科目目標	将来患者さんと良好な関係を築くために必要な態度と、それを表現するためのコミュニケーションの力のうち、聴く力、話す力を身につけましょう。(DP1、DP2)						
講義内容	1. オリエンテーション 聞き方、話し方 2. アサーションを学ぶ 3. 表現の仕方を変える 4. 価値観の違いを知る① 5. 価値観の違いを知る② 6. コミュニケーションとリーダーシップ 7. 合意形成 8. まとめ						
評価方法	出席状況、小テスト、提出物、授業態度等により総合的に評価する。						
使用テキスト	なし						
備考	毎回、インタビューする、スピーチをするなどの多種の課題が設けられるので、ハードかもしれませんが、しかしそれらを通して、看護に携わる人として、そして社会人として必要なコミュニケーション能力について、ともに考えていきましょう。						

科目名	日本語表現法			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期			担当者	大場理恵子		
設定理由	日本語によるコミュニケーションの基本を理解し、演習によって身につけるため						
科目目標	1. 相手に分かりやすく伝えることができるようになる。(DP2) 2. 論理的な文章が書けるようになる。(DP2)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1	効果的な自己紹介		オリエンテーション・効果的な自己紹介をする			講義と演習	
2	メールの書き方		メールのルールを理解し、効果的なメールを書く			講義と演習	
3	伝えるコツ		伝えるコツを使って文章を書く			講義と演習	
4	論理的文章		論理的文章作成のポイントを理解し、文章を書く			講義と演習	
5	スピーチのコツ		構成のしっかりしたスピーチをする			講義と演習	
6	レポート作成の基本①		レポートの構成を知る			講義と演習	
7	レポート作成の基本②		構成のしっかりとしたレポートを作成する			講義と演習	
8	レポート作成の基本③		学習したことを振り返る			講義と演習	
評価方法	レポート、課題、小テスト等により総合的に評価する。						
使用テキスト	配布資料						
参考図書	授業中に紹介する						
留意点	成績は、授業中の課題への取り組み、宿題、テストなどを総合して判定する。						

科目名	自然科学総論			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期			担当者	岡野 孝、平塚理恵		
設定理由	医療現場を含めたこの世界は、数限りない化学物質で満たされています。人体自体が化学物質の塊であるということです。この世界を「分子」という言葉で表現するのが「化学」です。分子は見ることはできませんが、分子がどのようにできていて、どのようにふるまうと、現実として目に見えるものになるのか、目の前に起こっていることを理解できるようになるのかを考えるのが化学です。化学の講義では、化学の基礎と有機化学の基礎を学びます。この後に学ぶ生化学や薬理学で出てくる幾多の物質を、呪文のように覚えるのではなく化学の言葉で理解できるようになりましょう。 生物の形態や生活様式は多種多様ですが、どの生きものも起源は共通の原始細胞であり、40億年の遺伝情報の受け渡しによって今日に至っています。そのため細胞レベルでの生命現象は類似し、すべての生物に適応可能な共通性も存在します。生物学の講義では、こうした生命の普遍的な成り立ちを学ぶとともに、高等脊椎動物の生命現象の基本について学修することで、生命現象を科学的に理解する能力を養います。						
科目目標	1. 物質の物理的・化学的性質と化学反応を理解し、生命現象を構成する原理を学ぶ。(DP1) 2. 生命の普遍的な成り立ちを理解し、高等脊椎動物の生命現象の基本を学ぶ。(DP1)						
講義内容	化学の基礎	1. 原子 2. イオン性化合物と分子性化合物、化学反応と定量 3. 気体、溶液 4. 反応速度と平衡 5. 酸と塩基 6. 炭化水素と化合物命名法 7. アルコール・フェノール、チオール、エーテル 8. アルデヒド・ケトン・キラル化合物 9. カルボ酸とエステル 10. アミンとアミド					
	生物学の基礎	11. 細胞のプロフィール 12. 呼吸と光合成 13. 細胞の増殖 14. 遺伝のしくみ 15. 恒常性（ホメオスタシス）					
評価方法	筆記試験(化学の基礎70点、生物学の基礎30点)						
使用テキスト	化学：アメリカの看護教育で使われている教科書(Structure of Life：生命の構造)の一部を抄訳したプリントを配布する。 生物学：やさしい基礎生物学 第2版 南雲保 編著 今井一志他 著 羊土社						
備考							

科目名	生活と科学			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期		担当者	野村宏次			
設定理由	私たちが日常生活で出会う物質や身近な現象を科学的な視点から取り上げて、理解しやすいかたちで解説する。						
科目目標	暮らしの中のいろいろなことを科学的に見ることによって、科学を身近に感じ、「科学好き」になってもらえることを目的にしたい。(DP1)						
講義内容	1. 暮らしを科学する 「地球規模」で考え、具体的な行動は「足元」の一步から 2. 食生活の科学 食と環境問題／スーパーマーケットから食の生活を考える 3. 飲料水の科学 おいしい水とは／ミネラルウォーター／清涼飲料水 4. 衣生活の科学 衣と環境問題／衣料用防虫剤／紫外線カット加工繊維製品 5. 住生活の科学 冬暖かく夏涼しい家／住まいと健康 6. 洗剤の科学 酸性・アルカリ性洗剤の混合に注意／用途別洗剤は必要か 7. 大量消費型生活とごみ問題 ごみから暮らしを考える／リサイクルと再利用 8. エネルギーと環境問題 省エネが地球を救う／クリーンエネルギーの可能性 9. 暮らしの中の石油 衣食住を石油が支える／石油資源の寿命 10. 自動車と環境問題 工場汚染から自動車汚染へ／ディーゼル車は環境にやさしい？ 11. 「なぜ」の科学 なぜ薬をお茶で飲んではいけないのか／なぜ二日酔いは起こるのか、他 12. 環境ホルモン ホルモンと内分泌攪乱化学物質／ヒトへの影響は？ 13. 化粧品の科学 化粧品の全成分表示／サンスクリーン(UVカット)化粧品 14. ダイエットの科学 遺伝子とダイエット／ファストフードと肥満／早食いは太る？ 15. 人間と暮らしと環境のつながり						
評価方法	出席状況、授業態度、課題レポートの結果から、総合的に評価する。						
使用テキスト	なし						
備考	参考資料を随時配布する。						

科目名	情報科学			単位数	1	時間数	15
開講時期	1 年次 前期		担当者	中原直哉			
設定理由	医療の分野でも他の分野と同様に様々なIoT 対応機器や AI の理解が必要となっており、その基本となる情報リテラシーを初めとした知識の習得は必須のものとなる。また、臨床看護の過程で得た知識・経験を他者と共有するためには報告書や発表資料等を適切に作る能力も必要となる。 これらの基本事項について実際に演習を中心とした授業で体験しながら、実践的な知識として身に付ける必要がある。						
科目目標	1．情報リテラシーの知識を習得し、新しい機器等に対応できる基礎的能力を養う。(DP1) 2．情報端末を使いこなし、情報共有等に活用できるようになる。(DP1)						
講義内容	1．慈恵 Web Mail の使い方 2．e-learning の使い方、ZOOM の使い方 3．Word の基本操作 その 1 4．Word の基本操作 その 2 5．Excel の基本操作 6．Power Point の基本操作 7．Word、Excel、Power Point の応用						
評価方法	演習課題と出席により総合的に評価する						
使用テキスト	なし						
備考							

科目名	情報リテラシー			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期		担当者	葛谷辰枝 他			
設定理由	インターネットやスマートフォンなどの急速な拡大により、「知識量」よりも「的確に情報を選び取る力」が求められる。一方、「真偽不確かな情報の増加」「個人による情報発信の容易化」「無料アプリやソフトの安易なダウンロード」に伴うトラブルが増加している。情報をうまく活用するための能力である「情報リテラシー」、その中でも特にインターネットのリテラシーを理解し、情報を使いこなすため、インターネットでのトラブル事例を通して自己の活用能力を高めていく。						
科目目標	1. 医療とメディア情報リテラシーのつながりを理解する。(DP2、DP3) 2. メディアを通じて得た情報の読み解きや、メディアを通じた情報の適切な表現や発信ができる。(DP2、DP3)						
講義内容	1. 情報リテラシーとは 2. なぜ情報リテラシーが必要か 3. ソーシャルメディアの上手な活用について考えよう 1) だいじょうぶ？あなたのレポート・論文の作り方 2) 事例検討 ①「ソーシャルメディアを利用した情報収集」 ②「ソーシャルメディアで発信するメリット」 4. ソーシャルメディアのトラブルについて考えよう 事例検討 ①「ソーシャルメディアが生み出す誤解」 ②「ソーシャルメディアでの情報漏洩」 ③「ソーシャルメディアに上げられた写真」 5. 健康医療情報と患者支援について考えよう 事例検討 ①「信頼できる情報」とは ②「個人の体験談」とは 6. 自己のソーシャルメディアの活用方法を振り返り今後の活用の仕方を考える						
評価方法	課題と出席により総合的に評価する						
使用テキスト							
備考							

科目名	社会学			単位数	1	時間数	30
開講時期	1 年次 前期		担当者	島村賢一			
設定理由	社会学的なものの見方は、看護領域にとっても今後ますます必要になっていくだろう。看護するということが、病気やケガだけではなく、患者の家族構成や、患者と家族の関係、また病院という組織や地域社会における看護職の役割、さらにそれらの日本や世界での位置付けなど、まさに人と人との間の問題、個人と社会という問題を考えていかざるを得ないからである。人間の生活は他者との関係性なしには成り立たない。						
科目目標	1. 社会的存在としての人間について、家族・地域社会・職場・市場・国家・グローバル化等と具体的に関連させながら理解を深め、社会への洞察力を育成する。(DP1) 2. 社会的視点を身につけ今後の看護活動に生かす。(DP3)						
講義内容	1. 社会学とは何か 2. 社会学の歴史と近代社会 3. 社会学の歴史－巨匠との対話その 2 4. 社会調査の基礎 5. 調査票の作成とデータの収集・分析 6. 質的調査の基礎 7. 社会学原論その 1－行為論の基礎 8. 社会学原論その 2－行為論の補足と社会過程論 9. 社会学原論その 3－集団論・社会構造論 10. 家族　－その基礎概念と歴史的位相 11. ジェンダー論の基礎 12. 少子高齢社会 13. 労働世界の変容 14. 民族問題と移民の社会学 15. 総まとめ						
評価方法	出席状況、レポート、終講時課題						
使用テキスト	・毎回の講義で逐次配布するレジュメ ・『テキスト現代社会学〈第4版〉』 松田健著　ミネルヴァ書房　2022年						
備考							

科目名	哲 学			単位数	1	時間数	15
開 講 時 期	1 年次 後期		担当者	野村宏次			
設 定 理 由	哲学の授業が、これから看護に関わる者にとって、有用な意義を持つものであることを認識してもらえることに重点を置く。						
科 目 目 標	哲学的な考え方、自らの身近な問題としてとらえ、興味を持って学んでもらえるような授業にしたい。(DP1、DP2、DP3)						
講 義 内 容	1. ソクラテスの哲学 思想(「無知の地」、「アレテー」)/産婆術/ソクラテスの弁明 2. プラトンの哲学 「イデア論」/倫理学的思考/プラトンの哲学の後世への影響 3. アリストテレスの哲学 論理学/自然学/4つの「原因」/万学の祖/後世への影響力 4. わたしの人生哲学 「生あるかぎり夢を追い続けるロマン」 5. 老年の生き方 老年になる技術/老歳のたしなみ/老年のおもしろ味 6. 尊厳死を考える 尊厳死とは何か/尊厳死と安楽死の違い/リビング・ウィル 7. 終末期の患者を支える人間関係 患者を知る/患者の反応に対する看護師のケア/その人らしさの尊厳 8. 哲学から見た看護 ナイチンゲールの言葉/看護と表現/看護者と患者の「近さ」と「隔たり」						
評 価 方 法	出席状況、授業態度、課題レポートの結果から、総合的に評価する。						
使用テキスト	なし						
備 考	参考資料を随時配布する						

科目名	心理学			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期		担当者	荒井 志世			
設定理由	魅力的な生きものである人間について、様々な角度から近づいてみたいと思います。 心理学は、人間とはどんな存在なのか、という興味から出発し、人間の行動を、手がかりにして、科学的なやり方で、人間を知ろうとしている学問です。 対人間の仕事をする時に大切なことは、人間についての十分な理解を持っていることではないかと考えます。なかでも看護は、患者の肉体的な健康をとりもどすことを目ざすと同時に、大きなストレスを受けているであろう患者の精神的な支えになることも求められる仕事であり、人間を理解することを、最も求められる仕事かも知れません。 深い人間理解と、そこから生まれる自分自身への理解の上に立った、よりよい人間関係を築く力を学ぶ。						
科目目標	人間の形成・知能・発達心理などについて学び人間及び自己への理解を深める。(DP1、DP2)						
講義内容	1. 人間を心理学から理解する 「認知」からの人間理解 感覚・知覚、記憶・想起、言語とコミュニケーションから人間理解を深める 「行動」からの人間理解 欲求・動機づけ、葛藤とフラストレーション、学習と行動から人間理解を深める 「発達」からの人間理解 他の哺乳類に比べると、生理的早産といわれるような、未熟な状態で生まれてしまった人間が、人間らしく成長していく過程、人間は人間社会の中で、人間となっていくといわれるのはどんなことなのか、発達段階と発達課題を通して人間理解を深める、 「パーソナリティ」からの人間理解 パーソナリティとは、知能とは性格の理解を通して人間理解を深める 2. 自己理解からの人間を理解する 知能、性格、自己と自己意識、パーソナリティから人間理解を深め自己理解に繋げていく						
評価方法	筆記試験、レポート						
使用テキスト	基礎科目 心理学 メヂカルフレンド社						
備考							

科目名	医療に関する英会話		単位数	1	時間数	30
開講時期	1 年次 前期	担当者	HAMASAKI CHAD			
設定理由	学習者に将来役立つ看護師のための英会話について聴き、読み、話す活動、さらに意見や情報を書く活動を通して、英語の受容・発信力を高める。					
科目目標	医療・看護に関する語彙・表現を学び、英語の受容・発表力を養う。(DP1、DP2)					
講義内容	「看護師のための英会話ハンドブック」 東京化学同人 この教材は実践的な病院での看護師と患者との会話に必要な語彙、表現が盛り込まれている。場面に応じた会話表現を学ぶことができる。 授業では毎時以下の項目を扱う ① 総合案内—初診者への対応 ② 総合案内—受診科相談 ③ 総合案内—院内順路案内 ④ 問診・症状確認 ⑤ 診察介助 ⑥ 救急外来 ⑦ 入院—自己紹介 ⑧ 入院—病棟案内 ⑨ オリエンテーション ⑩ 退院準備					
評価方法	出席状況、ミニスピーキングテスト、レポート、授業での発表、筆記試験で総合的に評価する。					
使用テキスト	看護師のための英会話ハンドブック 東京化学同人					
備考	1. 毎回小テストをするので授業の復習をしてくること。 2. 忘れ物をしないこと。 3. 不要なものは机に置かないこと。					

科目名	パフォーマンス論				単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期			担当者	中村良枝、伊藤百合子			
設定理由	パフォーマンス論は、様々なパフォーマンスに接して、「感性」を磨く講義である。パフォーマンスとは何か、なぜ人間は言語だけでなく、身体を使い、曖昧とも思える表現方法を取るのか。様々なパフォーマンスを通してその意味を考える。							
科目目標	1. パフォーマンスとは何か理解できる 2. 様々なパフォーマンスに触れ、自己・他者の行動の意味について考えることができる。 3. TPOに応じた魅力ある自己表現の仕方を考えることができる（DP1、DP2、DP3）							
講義内容	回数	単元目標	学 習 内 容				講義形態	
	1回	パフォーマンスとは何かについて理解する	1. パフォーマンスとは	1. なぜ「パフォーマンス」が必要なのか 2. 表現することが言語だけではないのはなぜか 3. 感情当てゲーム 4. 表情・しぐさについて考える				講義 演習
	2回	医療者に必要な接遇・マナーについて理解する	2. 接遇力を磨く 医療接遇	1. 接遇・マナーとは 2. 見られていることを意識しよう 1) 求められる身だしなみについて考える 2) 挨拶の方法：どのように見えるか比較しよう 3) 看護学生としてなぜ必要なのか考える				演習
	3回	自己の特徴を言語化し自己表現ができる	3. 自己理解とセルフプレゼンテーション	1. 「わたしの取り扱い説明書」トリセツをつくってみよう 2. トリセツをつくって相手にプレゼンテーションしてみよう（自分の魅力を相手に伝える）				演習
	4回 5回	様々な感情の表現方法から、自己と他者の行動の意味を理解する。	4. 身体を使って表現する	1. 様々な感情を表現してみよう 喜び・悲しみ・怒り・恐怖・驚きなどの感情を、言語以外で表現してみる。				演習
	6～ 12回	合唱を通して相手に伝わる表現方法を身につける。	5. 発 声：オペラ・合唱・ミュージカルの発声方法・表現方法	1. 発声方法 2. 合唱				演習
	13～ 15回	相手の立場に立った表現方法を理解する	6. 相手の立場になって自己表現する	1. 様々な状況の人への表現方法を実践する				演習
	評価方法	レポート、GW、発表など総合的に評価する						
使用テキスト	なし							
備 考								

専門基礎分野

1. 考え方

専門基礎分野は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。

2. 目的

人体の構造と機能を学び、看護ケアに必要な日常生活行動の仕組みと意味を理解する。また、健康から疾病に至る変化のプロセスと回復を促進させるメカニズムを理解するとともに、対象の健康生活を支える保健医療福祉についての理解を深め、看護実践に必要な基礎的知識を養う。

3. 目標

- 1) 人体の構造と機能および機能障害と回復の促進について理解する
- 2) 系統別疾患の病態、検査、治療について理解する
- 3) 保健医療福祉の動向と制度を理解し、保健医療福祉に関係する職種の役割を理解する
- 4) 医療従事者に関する法律を知り、医療従事者としての義務と責任を理解する

4. 科目構成

	科 目	単位数	時間数	学 年 別		
				1 年	2 年	3 年
人体の構造と機能	人体の構造	1	30	1 (30)		
	生命の維持機能	1	30	1 (30)		
	生体の調節機能	1	30	1 (30)		
	生活過程を整えるための形態機能学	1	15	1 (15)		
	生化学	1	30	1 (30)		
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床生理Ⅰ	1	15	1 (15)		
	臨床生理Ⅱ	1	15	1 (15)		
	病理学	1	15	1 (15)		
	微生物と生体防御	1	30	1 (30)		
	生命の維持機能の障害と治療	1	30		1 (30)	
	生体の調節機能の障害と治療Ⅰ	1	30		1 (30)	
	生体の調節機能の障害と治療Ⅱ	1	15		1 (15)	
	薬物療法の基礎	1	30	1 (30)		
	麻酔と手術療法	1	30		1 (30)	
	リハビリテーション治療の基礎	1	15	1 (15)		
	栄養と食事療法	1	15		1 (15)	
健康支援と社会保障制度	医療のあゆみ	1	15	1 (15)		
	公衆衛生の基本と法制度及び保健活動	1	30		1 (30)	
	社会保障制度と社会福祉活動	2	30			1 (30)
	医療と法律	1	15			1 (15)
	医療マネジメント	1	15			1 (15)

科目名	人体の構造			単位数	1	時間数	30
開講時期	1 年次 前期			担当者	岡部正隆、重谷安代		
設定理由	看護をアセスメントするためには、生命の維持において重要臓器の構造と機能の基本的な知識を学ぶ必要がある。人体の構造では、人体がその機能を発揮するための基本的な人体の構造を学修する						
科目目標	1. 人体の構造を、解剖用語を使って説明できる。(DP1) 2. 諸器官の形態と機能を系統別に整理して説明できる。(DP1) 3. 器官系間の相互連携を機能と関連付けて説明できる。(DP1) 4. 正常な構造・機能が破綻した場合、どのような病態が出現するか説明できる。(DP1)						
講義内容	1. 解剖学総論 2. 骨格系 3. 筋系 4. 中枢神経系 5. 末梢神経系 6. 感覚器系 7. 見学解剖実習 1 8. 見学解剖実習 2 9. 循環器系・呼吸器系 10. 血液、リンパ系、免疫 11. 消化器系 12. 泌尿器、内分泌系 13. 生殖器系、発生 14. 見学解剖実習 3 15. 見学解剖実習 4						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	坂井健雄/橋本尚詞「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版						
備考	1. 登校授業は15分以上の遅刻は欠席とする。 2. 提出課題へのフィードバックは、Moodle 上にて個別に行う。 3. 講義資料で、当該領域の全容を把握し、指定教科書の指定ページを熟読し、知識を深め提出課題に取り組むこと。 4. 知識を十分に定着させるために、復習のための学修時間は各講義あたり60分程度が望ましい。 5. 疑問点や理解できなかった点は、積極的にeラーニング上で質問して解決すること。						

科目名	生命の維持機能			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期		担当者	渋谷まさと			
設定理由	看護をアセスメントするためには、生命維持においての重要臓器の構造と機能の基本的な知識を学ぶ必要がある。						
科目目標	1. 呼吸器系・循環器系の構造と機能について理解する。(DP1) 2. 腎・泌尿器系の構造と機能について理解する。(DP1) 3. 血液・体液・電解質について理解する。(DP1) 4. 内分泌系の構造と機能について理解する。(DP1) 5. 内部環境の恒常性について理解する。(DP1)						
講義内容	1. 呼吸の生理学 2. 血液の生理学 3. 循環の生理学 4. 腎機能と排尿の生理学 5. 消化吸収の生理学 6. 内分泌の生理学 7. 自律神経系と生体の機能 8. まとめ						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	「一步一步学ぶ生命科学」の一部を慈恵eラーニング上に掲載する						
備考							

科目名	生体の調節機能			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期		担当者	山口真紀 他			
設定理由	看護をアセスメントするためには、ヒトの身体の仕組みを学ぶ必要がある。この科目では、生体を調節する機能、具体的にはヒトを動物として特徴づける機能(神経・筋・感覚・中枢)と、体温調節生殖機能を学ぶ。						
科目目標	1. ヒトを動物として特徴ける機能(神経・筋・感覚・中枢)と、体温調節、生殖機能について関わる疾患を構造と機能の関連の視点から理解できるようになる。(DP1) 2. 講義毎課題のまとめに対する教員からのフィードバックもとに、自らの学修態度を振り返り修正できる (DP1)						
講義内容	1. ホメオスタシスと健康、中枢・末梢神経系の概要 2. 興奮の伝導と伝達 3. 中枢神経系の機能的構成 4. 骨格筋の収縮機構 5. 骨格筋の収縮調節 6. 脊髄の反射・体性感覚 7. 嗅覚と視覚 8. 聴覚・平衡感覚・味覚 9. 中枢高次機能 10. 自律神経系の原則 11. 体温調節 12. 生殖 13. 妊娠と分娩 14. まとめ						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	坂井建雄／橋本尚詞「ぜんぶわかる 人体解剖図」成美堂出版						
参考図書	医学書院 系統看護学：解剖生理学 人体の構造と機能：坂井建夫、岡田隆夫						
備考	1. 予習に関して：使用テキストの図とその説明をまず理解するように努めることよい。インターネットからの情報を利用することは避けたほうが良い 2. 予習・講義・復習の時にしっかりと教科書に書き込みをして親しんでおくことよい。学年が進んで忘れかけたことがあっても教科書に戻れば理解を取り戻すことができるし、定期試験にも役立つからである 3. 「課題まとめ」に対するフィードバックを活用すること						

科目名	生活過程を整えるための形態機能学			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期			担当者	専任教員		
設定理由	対象の生活過程を整えるための日常生活の援助は日常生活行動の変化の理解を土台とし、構築される。医学的枠組みである「人体の構造」「生命の維持機能」「生体の調節機能」で学習した人のからだについて日常生活行動に重きを置いた看護の枠組みで見直し、日常生活の援助技術の根拠や留意点につなげることができるようにする。						
科目目標	1. 「生きる」「生活する」ことの視点から日常生活行動の意義が理解できる。(DP1、DP4) 2. 日常生活行動がどのような形態機能によって行うことができているのか理解できる。(DP1、DP4) 3. 「生きる」「生活する」ことを支える形態機能が日常生活の中でどのように行われているか理解できる。(DP1、DP4)						
講義内容	回数	単元目標	学 習 内 容			講義形態	
	1	看護に活かす形態機能学	1. 形態機能学とは 2. 「ヒト」と「人」、「生きる」ことと「生活する」こと 3. 生命維持と生活行動			講義	
	2	息をする	1. 人はなぜ息をするのか 2. 人はどのように息をしているのか 3. 人は日常生活の中でどのように息をしているのか			講義	
	3	動く・活動する	1. 人はなぜ動き、活動をするのか 2. 人はどのように動いているのか 3. 人は日常生活の中でどのように動き、活動しているのか			講義	
	4	休息する・眠る	1. 人はなぜ休息し、眠るのか 2. 人はどのように眠っているのか 3. 人は日常生活の中でどのように休息したり、眠ったりしているのか			講義	
	5	コミュニケーションをとる 思考する	1. 人はなぜコミュニケーションをとるのか 2. 人はどのようにしてコミュニケーションをとっているのか 3. 人は日常生活の中でどのようにコミュニケーションをとっているのか			講義	
	6	身体をきれいにする 身だしなみを整える	1. 人はなぜ身体をきれいにし、身だしなみを整えるのか 2. 人は日常生活の中でどのように身体をきれいにし、身だしなみを整えているのか			講義	
	7	食べる	1. 人はなぜ食べるのか 2. 人はどのように食べているのか 3. 人は日常生活の中でどのように食べているのか			講義	
	8	排泄する	1. 人はなぜ排泄をするのか 2. 人はどのように排泄しているのか 3. 人は日常生活の中でどのように排泄しているのか			講義	
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 人体の構造と機能③ 形態機能学 メヂカルフレンド社						

科目名	生化学			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期			担当者	高田耕司		
設定理由	人間は様々な分子・化学物質でつくられ、それらの正常な働き・化学反応によって健康に生きることができる。病気はこの現象に特有の変化をもたらすため、これを読み解くことは、医療の基本となる。生化学はこうした「生体分子の営み」を理解するための学問である。						
科目目標	1. 生体成分(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸等)の構造と機能を説明できる。 2. 酵素の働きについて説明できる。 3. 生体成分(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸等)の代謝について説明できる。 4. 三大栄養素の代謝とエネルギー代謝の関係について説明できる。 5. 遺伝子とゲノムについて説明できる。 6. 遺伝子の発現(転写：RNAの合成、翻訳：タンパク質の合成)について説明できる。 7. ホルモンの種類と機能を説明できる。 8. 呼吸器系や泌尿器系等での化学物質の働きや動態について説明できる。						
講義内容	1. 細胞の基本構造と機能、セントラルドグマ 2. 生体成分の構造と機能－Ⅰ 糖質 3. 生体成分の構造と機能－Ⅱ 脂質 4. 生体成分の構造と機能－Ⅲ アミノ酸とタンパク質 5. 生体成分の構造と機能－Ⅳ 核酸とビタミン 6. 酵素と代謝、エネルギー代謝 7. 糖質の代謝 8. 脂質の代謝 9. アミノ酸とタンパク質の代謝、三大栄養素と代謝 10. 核酸等の代謝 11. ゲノムと遺伝子、DNAの複製と修復 12. RNAの合成(転写) 13. タンパク質の生合成(翻訳) 14. ホメオスタシスとホルモン 15. 臓器の生化学						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	生化学 医学書院						
備考	教科書を利用した自主的な予習・復習を勧めます。解らないところは、積極的に質問してください。メールでの質問も受け付けます(担当者：takada@jikei.ac.jp)。						

科目名	臨床生理Ⅰ			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期			担当者	葛谷辰枝		
設定理由	一人ひとりの患者の症状は、即時の援助を求めている明らかなシグナルである。本科目は、Ⅰ・Ⅱを通して、解剖生理学で学習した内容を看護のアセスメントに活かすために、その症状を発生させている原因、誘因がどのようなメカニズムで発生、悪化させているのか、日常生活全体にどのような影響を及ぼしているのか分析できる能力を養うことを目的とする。						
科目目標	1. 主な症候を病態生理学的にとらえ、その症状がどのようなしくみで出現するかが理解できる。(DP1、DP4) 2. 症候のメカニズムを学ぶことで健康障害の理解や看護ケアの根拠を深めることができる。(DP1、DP4)						
講義内容	回数	単元目標	学 習 内 容			講義形態	
	1回	食物を消化・吸収する働きの障害が起こるメカニズムとその症候、異常が理解できる。	1) 排便の異常：下痢・便秘 2) 栄養状態の異常：肥満・痩せ 3) 食欲不振 悪心・嘔吐 4) 腹痛(腹部膨満)			講義	
	2回						
	3回						
	4回	内部環境を維持する働きの障害が起こるメカニズムとその症候、異常が理解できる	体液・電解質バランス 1) 尿の異常：多尿・乏尿、無尿 2) 浮腫・胸水・腹水 3) 脱水 4) 黄疸 5) 発熱・うつ熱 6) 高体温・低体温			講義	
	5回						
	6回						
	7回	生命を維持する働きの障害が起こるメカニズムとその症候、異常が理解できる。	1) 呼吸困難 2) チアノーゼ 3) 咳嗽・痰、咯血 4) 胸痛			講義	
	8回						
	評価方法	筆記試験					
使用テキスト	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研						
参考図書	看護 形態機能学－生活行動からみるからだ－ 菱沼典子 日本看護協会出版会						
備考							

科目名	臨床生理Ⅱ			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期			担当者	葛谷辰枝		
設定理由	一人ひとりの患者の症状は、即時の援助を求めている明らかなシグナルである。本科目は、Ⅰ・Ⅱを通して解剖生理学で学習した内容を看護のアセスメントに活かすために、その症状を発生させている原因、誘因がどのようなメカニズムで発生、悪化させているのか、日常生活全体にどのような影響を及ぼしているのか分析できる能力を養うことを目的とする。						
科目目標	1．主な症候を病態生理学的にとらえ、その症状がどのようなしくみで出現するかが理解できる。(DP1、DP4) 2．症候のメカニズムを学ぶことで健康障害の理解や看護ケアの根拠を深めることができる。(DP1、DP4)						
講義内容	回数	単元目標	学 習 内 容			講義形態	
	1回	統一体を支える血液の破綻による障害のメカニズムとその症候、異常が理解できる。	1) 貧血 2) 出血傾向 3) ショック			講義	
	2回						
	3回	人間を統合する脳の働きの障害が起こるメカニズムとその症候、異常が理解できる。	1) 意識障害 2) 睡眠障害 3) 頭痛			講義	
	4回						
	5回	行動範囲を拡大する働き・生活をつくりだす働きの障害が起きるメカニズムとその症候、異常が理解できる。	1) 運動麻痺 2) 感覚障害 3) 言語障害			講義	
	6回						
	7回	外界と個との不適応現象による障害が起きるメカニズムとその症候、異常が理解できる。	易感染性の起こるメカニズム 1) 感染症成立 2) 生体防御			講義	
	8回		Ⅰ・Ⅱ 総まとめ			講義	
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研						
参考図書	看護 形態機能学－生活行動からみるからだ－ 菱沼典子 日本看護協会出版会						
備考							

科目名	病理学			単位数	1	時間数	15
開講時期	1 年次 後期		担当者	原田 徹 他			
設定理由	看護師は科学的な視点を持つことが重要であり、そのためには、正常な人体の構造と機能を理解したうえで、病気の成因・発生機序・病態について正確な知識を持つ必要がある。病理学は、看護師が科学的根拠に基づいた看護行う上での土台となる学問である。						
科目目標	病変による人体の変化を理解し、系統別疾患の病態生理を理解することができる。(DP1)						
講義内容	1. 病理学とは 進行性病変、退行性病変 2. 先天異常(奇形) 3. 変性・代謝障害 4. 循環障害 5. 炎症 6. 免疫 7. 感染症 8. 腫瘍						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	疾病の成り立ち回復の促進(1) 病理学 医学書院						
備考							

科目名	微生物と生体防御			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期		担当者	関 啓子			
設定理由	看護教育における微生物学は、看護の職業についた時、感染症の患者から自らの身を守る方法や、患者の感染症の発症を防ぐ方法、治療法を科学的に理解するための基礎的な知識学ぶためのものである。したがって、病原体(主として病原微生物)並びに免疫学の基礎的な知識を学ぶことになる。						
科目目標	微生物の特徴と人体に及ぼす影響を学び、感染予防の重要性と予防方法を理解する。(DP1)						
講義内容	1) 微生物とは 微生物の概念、病原微生物の分類、主要な病原微生物 2) 消毒、滅菌、無菌操作： 消毒と滅菌の概念、無菌操作、各種滅菌法、各種消毒法 3) 感染と生体防御のしくみ、発病について： 感染と発病の概念、外因感染と内因感染、顕性感染と不顕性感染、潜伏感染と持続感染、日和見感染、常在細菌叢と菌交代症 4) 化学療法と薬剤耐性： 化学療法の基本概念、薬剤耐性菌出現の機構 5) 免疫の基本知識： 免疫の概念、体液性免疫と細胞性免疫、抗原と抗体、免疫とリンパ系細胞、血清反応、移植免疫と腫瘍免疫、自己免疫疾患 6) 過敏症反応： 過敏症反応の概念、過敏症反応の分類 7) 予防接種と血清療法：4時間予防接種と血清療法の違い、ワクチンの種類						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	疾病の成り立ちと回復の促進(4) 微生物学 医学書院						
備考							

科目名	薬物療法の基礎			単位数	1	時間数	30
開講時期	1 年次 後期		担当者	西 晴久			
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、主要な治療法である薬物療法の基礎的知識を学ぶ必要がある。						
科目目標	薬物の特徴、作用機序、人体に及ぼす影響を理解し、取り扱いや管理方法を学ぶ。(DP1、DP4)						
講義内容	1. 薬物学総論 1) 薬とはどのようなものか 2) 薬が効く仕組み(薬理作用) 3) 薬物の体内動態 4) 薬効に影響を及ぼす要因 5) 薬物の有害作用 6) 薬物の適用と処方 2. 薬物学各論 1) 中枢神経系に作用する薬物 2) 末梢神経系に作用する薬物 3) 心臓・血管系に作用する薬物 4) 炎症に対する薬物 5) 内分泌系に作用する薬物・ビタミン 6) 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 7) アレルギーに対する薬物 8) 抗感染症薬・抗がん薬 9) その他の薬物						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	疾病の成り立ちと回復の促進[2]・薬理学 医学書院						
備考							

科目名	リハビリテーション治療の基礎			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期		担当者	医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士			
設定理由	さまざまな疾病や外傷により生じる生活機能の障害の特徴について学習し、リハビリテーションの観点から看護の役割を理解する必要がある。リハビリテーション療法の基礎的知識を学ぶ。						
科目目標	1. リハビリテーションの概念を理解し、各疾患による障害とその治療を学ぶ。(DP1、DP4) 2. リハビリテーション技術を学ぶ。(DP1、DP4)						
講義内容	リハビリテーション 1) リハビリテーションの概念 2) リハビリテーションの対象の理解 高次機能障害 内部疾患 リンパ浮腫 脳卒中、嚥下障害 3) リハビリテーションの実際 ① 理学療法について ② 言語聴覚療法について ③ 作業療法について						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	別巻 リハビリテーション看護 医学書院						
備考							

科目名	医療のあゆみ			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期	担当者	栗原 敏、山田恭輔、中村 敬、平本 淳、 染谷泰寿				
設定理由	医療人としての意識を高めるとともに、医療における看護のあり方と考え方を深める。						
科目目標	医学の発達、医療体系とその機能を理解し、現代社会における医療のあり方を考える。 (DP1、DP2、DP3、DP4、DP5、DP6)						
講義内容	1. 医、医学、医療とは何か 2. 医学の歴史 3. ストレスと心の健康 4. わが国の医療システム 5. 現代医療の直面する様々な問題 6. 地域医療 7. 技術社会の高度化と医療～セーフティマネジメント～ 8. 高木兼寛と慈恵医大						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	なし						
備考							

基礎看護学

1. 考え方

基礎看護学は、基礎科目・専門基礎科目での学びを基に看護学を展開する上での礎となる科目であり、看護学の帰結点となる科目である。また、学生にとっては、看護を学ぶ最初の専門科目である。

今まで、基礎分野・専門基礎分野で看護の対象である「人間」について理解してきたが、さらに看護の対象としての「人間」についての理解を深めていく。また、「健康」の概念や人間をとりまく「環境」について理解し、「看護とは何か」の理解につなげていく。

基礎看護学は、講義・実技・実習で構成し、これらで習得した知識・技術・態度がその後に続く各領域の看護および臨床判断能力の基盤となる。基礎看護学の講義・実技の終了後、臨床看護演習(シュミレーション)で今までの学習内容を統合、応用しながら看護実践を行う機会をつくり、自己の課題を明確にしてこの先に続く専門領域の学習ができるようにする。

2. 目的

看護の対象としての人間、人間にとっての環境、人間のライフサイクルにおける健康の意義、看護の概念と保健医療福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

3. 目標

- 1) 看護をとりまく主要概念(看護・人間・健康・環境)を理解し、保健医療福祉における看護の役割を理解する。
- 2) 看護を実践するための基礎となる知識・技術・態度を理解する。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
看護学概論	1	30	1 (30)		
看護理論と看護の歴史	1	15	1 (15)		
看護倫理	1	15	1 (15)		
看護基本技術	1	30	1 (30)		
フィジカルアセスメント	1	30	1 (30)		
日常生活の援助技術	1	30	1 (30)		
日常生活の援助技術の実際	1	45	1 (45)		
診療に伴う援助技術	1	30	1 (30)		
診療に伴う援助技術の実際	1	45	1 (45)		
臨床看護演習	1	30	1 (30)		
看護過程の展開	1	30		1 (30)	
合 計	11	330	10(300)	1 (30)	

科目名	看護学概論			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期			担当者	加邊隆子		
設定理由	看護とは何かという問いに取り組み、そこから、人として、また専門職として、対象に向き合うことに伴う役割、責任、理論を考えるものとする。また、現代の保健医療における看護の課題等、看護の位置づけを広い視野から考えていく。						
科目目標	1. 看護の基礎概念を学び看護の位置づけと役割の重要性を理解する。(DP6) 2. 看護の対象である人間を身体的精神的社会的な側面から理解する。(DP1) 3. 健康の定義や動向を理解する。(DP3)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	看護とは：導入		1) 学問としての看護 2) 「患者中心」の看護とは 3) 「何のため」の看護か			講義	
2 3	看護とは何かを考える		1) 看護の本質 2) 看護学の発展 3) 看護の対象 4) 看護とは何か 看護理論に触れる			講義	
4	看護の過去から現在まで		1) ナイチンゲールが登場するまで 2) 近代看護への道 ・クリミア戦争とナイチンゲールの活躍 3) 海外における職業的看護の発展 ・赤十字の創立、ICNの創設 ・戦争と看護			講義	
5			4) 我が国の職業的看護の発展 ・明治維新までの医療 ・明治維新から第2次世界大戦まで ・第2次世界大戦～現在 ・GHQ、保助看法、看護教育カリキュラム			講義	
6	看護の対象理解 (1) 人間とは		1) 人間とは ・人間の理解：身体的発育、心理・社会 (1) 基本的ニード：マズロー (2) 成長発達理論：エリクソン、ハヴィガースト			講義	
7 8			(3) ホメオスタシスとストレス ・ストレスコーピング (4) 全体的存在、人間の共通性と個性 ・生活者としての人間、暮らし・家族				

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容	学 習 形 態
9	(2) 健康とは	(1) 健康とは何か ① 概念の歴史的変遷：WHO の概念 ② 病気に関連した言葉の意味 ③ 基本的人権としての健康	講義
10		(2) 看護における健康の概念 (3) 国民の健康状態 ・国民衛生の動向から国民の健康や生活を考える ・国民のライフサイクル	
11	専門職としての看護	1) 専門職とは 2) 専門職としての役割と自律 3) 専門職としての責任	講義
12	看護における倫理	1) 法的・倫理的責任 ① 保健師助産師看護師法 ② 倫理綱領：守秘義務、個人情報保護法	講義
13	看護実践の方法	1) 看護技術 ・技能と技術、科学的根拠 2) 看護過程 ・ヘンダーソン、科学的看護論 3) 臨床判断	講義
14 15	看護の役割と機能	1) 看護が機能する場 ・医療施設、地域・在宅、介護老人保健施設、職場・学校 ・医療における安全 2) 保健・医療・福祉の連携 ・医療保険制度、福祉制度、チーム医療、地域包括ケア 3) 看護の役割 ・専門職としての看護 ・キャリア、ベネター	講義
評 価 方 法	筆記試験、レポート課題		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 医学書院 ワークブックで学ぶナイチンゲール「看護覚え書」 メヂカルフレンド社		
参 考 図 書	国人衛生の動向 厚生労働統計協会		
受 講 上 の 留 意 点			

科目名	看護理論と看護の歴史			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期			担当者	加邊隆子、蝦名總子		
設定理由	看護の成り立ちと意義を理解するために、看護発展の歴史的経緯や看護理論家たちの足跡やその理論を学ぶ。						
科目目標	1. 看護の理論を理解し看護の考えを深める。(DP6) 2. 看護の変遷と動向を理解し、今後の看護のあり方を考える。(DP6)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	看護理論を学ぶ意義について理解する		看護理論とは	1) 看護理論とは 2) 看護理論の歴史的発展			講義
2	フローレンス・ナイチンゲールを知る		8つの功績	1) フローレンスナイチンゲールについて ① 生い立ち ② 8つの功績 ③ 看護覚え書とは			講義
3	ナイチンゲール看護論の概要が理解できる		ナイチンゲールと看護覚え書	看護覚え書			講義 GW
4・5	主な理論家の概念について理解する		各理論家の特徴	主な理論家の概念 ① ヴァージニア・ヘンダーソン ② ドロセア・オレム ③ シスター・カリスタ・ロイ ④ その他理論家			講義 GW
6	科学的看護論の概要が理解できる。		科学的看護論	1) 看護をどうとらえるか 2) 人間のとらえ方			講義
7	慈恵における看護の歴史が理解できる。		1) 慈恵史	1) フローレンス・ナイチンゲールと慈恵の看護 2) 有志共立東京病院看護婦教育所の誕生 3) 初期のことの看護実践 4) 産婆教育と保健婦教育 5) 慈恵第三看護専門学校の開講			講義
8							
評価方法	グループワーク参加状況と発表内容、筆記試験						
使用テキスト	慈恵看護教育130年史 慈恵看護教育130年史編集委員会 慈恵大学 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 医学書院 科学的看護論 薄井坦子 日本看護協会出版会 看護覚え書き フロレンス・ナイティンゲール 日本看護協会出版会 ワークブックで学ぶナイチンゲール『看護覚え書』 メヂカルフレンド社						
参考図書							
受講上の留意点							

科目名	看護倫理			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期			担当者	加邊隆子		
設定理由	患者の権利とその擁護、人間の尊厳、看護職の責務と倫理原則など看護を実践する上で必要な倫理に関する基本的な知識を身に付けることをねらいとする。また、実習場面における倫理的問題について考察し、自他の倫理的な態度や判断についての学びを深める。						
科目目標	1. 看護倫理について理解し、看護における倫理の重要性を理解する。(DP2) 2. 実習場面の倫理的問題について考察し、看護者としての責任を自覚する。(DP2)						
回数	単元目標	学習内容				学習形態	
1	倫理についての基礎知識および看護を実践する上で必要な倫理に関する規定が理解できる。	看護と倫理	1. 倫理の基礎 2. 職業としての看護倫理 3. 看護職の責任			講義	
2			1. 看護倫理の本質としての患者の権利擁護 2. 看護専門職組織の役割と倫理綱領			講義	
3・4	実習場面における倫理的問題について多角的に考察し、自他の倫理的態度や判断についての学びを深める。	看護者の倫理綱領	グループ討議 「看護者の倫理綱領」の各条文の意味を理解する			GW	
5・6		事例検討	グループ討議 場面を振り返り、看護者としての責任について考える			GW	
7・8			各グループの事例発表・意見交換			GW	
評価方法	演習参加状況・レポート等で総合的に評価する。						
使用テキスト	「看護倫理」 学研						
参考図書	東京医科大学看護専門学校著 「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社						
受講上の留意点							

科目名	看護基本技術			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期			担当者	河野直美、伊藤百合子、那須詠子 高橋沙織、須藤夕紀		
設定理由	看護技術の学習の導入として看護技術とは何か、看護を実践していく上での共通となる基本技術を理解しその後の各論(具体)につなげることにより、看護技術が単なるテクニックではなく看護として位置づけられるようにする。						
科目目標	1. 看護技術とは何かを理解する。(DP2、DP3) 2. 看護を実践していく上での共通となる基本技術を理解する。(看護場面に共通な基本技術)(DP2、DP3)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	看護における技術の意味について考えることができる。看護場面に共通する基本技術について理解できる。		看護技術とは(総論)		1. 看護技術の意義 2. 看護技術の基本的要素 3. 看護技術の特徴 4. 看護技術の基本原則		講義
2	看護における安全・安楽の意義と重要性について理解できる。		安全を守る技術 安楽をはかり効率を高める技術		1. 看護における安全・安楽の意義 2. 安全・安楽を阻害する要因		講義
3	感染予防策の概要を理解し、標準予防策が適切にできる。		感染を予防するために必要な技術		1. 感染と感染予防の基礎知識 1) 感染の基礎知識 2) 感染予防策の基礎知識 3) 感染予防における看護師の責務と役割 4) 標準予防策の基礎知識		講義
4					2. 標準予防策の実践 1) 衛生的手洗い 2) 個人防護用具(PPE)の着脱		演習
5・6	認識論を踏まえた看護にとってのコミュニケーションの目的と効果的なコミュニケーション技術が理解できる。		看護とコミュニケーション		1. コミュニケーションとは 2. 看護におけるコミュニケーションとは 1) 目的 2) 特徴 3) 重要性 3. コミュニケーションの要素と成立過程 4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5. 効果的なコミュニケーションの技術 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術		講義
7・8					6. 人の認識と看護 1) 認識とは 2) 認識の立体構造(抽象化・具体化) 3) 看護の過程と認識 4) 人の認識に働きかける技術		

回数	単元目標	学習内容		学習形態
9・10	看護における観察の意義・目的について理解できる。看護活動に必要な観察内容が理解できる。	観察	1. 観察の意義 2. 観察の目的 3. 観察の方法と手段 4. 観察の思考過程 5. 効果的な観察を行うための留意点 6. 観察の視点と内容	講義
11・12	バイタルサインの意義・測定方法を理解し正確にバイタルサイン測定ができる。	バイタルサインの測定	1. バイタルサインの測定 1) バイタルサインの意義 2) 体温・脈拍・血圧・呼吸・意識状態のアセスメント	講義 GW
13・14			2. バイタルサインの測定の実際 1) 血圧測定の方法 2) 体温・脈拍・呼吸回数の測定 3) 意識レベルの確認 4) 温度表への記入	演習
15	看護における記録・報告の意義・目的について理解できる。	記録・報告	1. 記録 1) 看護における記録の意義 2) 記録の構成要素 3) 記録記載の原則と留意事項 4) 記録の取り扱い 2. 報告 1) 報告の意義 2) 報告のタイミング 3) 報告の方法	講義
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 科学的看護論 薄井坦子著 日本看護協会出版会			
参考図書				
受講上の留意点				

科目名	日常生活の援助技術			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期			担当者	齋藤友紀子、立花春香、高橋沙織 小池 幸、西島真梨		
設定理由	日常生活の援助技術は〈実体にはたらきかける技術〉の一つである。看護の対象である人間は、生きるために活動し栄養を摂取し、排泄する。また環境と影響しあいながら生活を営んでいる。看護の役割のひとつはこれらの生活過程を整え、その人らしく生活することを支えることである。それら生活を整える技術の根拠を理解し、その人に合った援助を行う方法を学ぶ。						
科目目標	1. 日常生活を整えるための援助の必要性和看護の役割が理解できる。(DP3) 2. 対象にあわせた日常生活の援助技術について理解する。(DP3)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	生活環境を構成する要素と健康のつながりを理解し、療養者にとってよい生活環境をととのえるための援助を理解する。		よい生活環境をととのえるための援助技術		Ⅰ. 人間をとりまく環境と健康 環境の概念と意義		講義
Ⅱ. 環境が果たす役割と条件 環境の諸要素とその調整					講義		
2					Ⅲ. 病床を整える援助 環境を整えるための アセスメントと方法		講義
3							
4	人間にとっての運動や休息の意義を理解し、対象に応じた活動と休息のバランスをととのえるための援助を理解する。		運動・休息のバランスをととのえるための援助技術		Ⅰ. 活動の意義 1. 「動く」とは 2. 活動するための機能 3. 動くことはなぜ大切なのか 4. 活動を支援する看護師の役割		講義
Ⅱ. 安楽な体位 1. 看護における「安楽」とは 2. ボディメカニクス 3. 姿勢と体位の保持					講義		
5					Ⅲ. 移動・移送の援助 1. 車椅子移送 2. ストレッチャー移送 3. 歩行の援助		講義
6					Ⅳ. 休息の意義 1. 休息と睡眠 2. 援助の方法		講義
7							

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容			学 習 形 態
8	清潔の意義と効果を理解し、対象に応じた清潔・衣生活をととのえるための援助を理解する。	清潔・衣生活をととのえるための援助技術	I．清潔の意義 1．生理的な意義 2．心理・社会的な意義 3．清潔における看護師の役割	講義	
9			II．対象に応じた清潔の援助 1．清潔援助の対象 2．援助方法の種類と選択 3．洗浄剤の仕組みと選択	講義	
10			III．清潔援助の方法 1．入浴 2．部分浴 3．全身清拭 4．洗髪 5．口腔ケア 6．整容 7．衣生活	講義	
11	人間にとっての食事の意義を理解し、対象に応じた食事と栄養摂取への援助を理解する。	食と排泄のバランスをととのえる援助技術Ⅰ	I．食事・栄養摂取の意義としくみ アセスメント	講義	
12			II．対象に応じた食事の援助	講義	
13	人間にとっての排泄の意義を理解し、対象に応じた排泄への援助を理解する。	食と排泄のバランスをととのえる援助技術Ⅱ	I．排泄の意義としくみ アセスメント	講義	
14			II．自然排泄の援助 1．排泄援助の目的 2．排泄援助の原則 3．対象に応じた排泄援助 4．自然排泄を促す援助	講義	
15			III．排泄障害の援助 1．排泄障害の種類 2．排泄に影響を及ぼす因子 3．排便障害時の援助	講義	
評 価 方 法		筆記試験			
使用テキスト		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参 考 図 書					
受 講 上 の 留 意 点					

科目名	日常生活の援助技術の実際			単位数	1	時間数	45
開講時期	1年次 前期		担当者	齋藤友紀子、立花春香、高橋沙織 小池 幸、西島真梨			
設定理由	日常生活援助技術の講義と連動して演習で援助の実践を行うことで、単なるテクニックではなく対象の状況にあわせた日常生活の援助を実践するための基礎とする。						
科目目標	日常生活の援助技術を習得する。(DP2、DP3)						
回数	単元目標	学習内容			学習形態		
1	寝心地の良いベッドを一人で作成できる。 患者の安全・安楽に配慮し、一人でシーツ交換ができる。	ベッドメイキング	1. リネン類の取り扱い 2. 角の作り方		実技		
2・3		ベッドメイキング	1. クローズドベッドの作成 2. オープンベッドの作成		実技		
4・5	ボディメカニクスを活用し、安全・安楽に考慮しながら体位変換ができる。	体位変換	1. 枕の入れ方・外し方 2. 仰臥位でのベッド上の水平移動 3. 仰臥位から側臥位への移動 4. 仰臥位から立位へ移動 5. 安楽な体位の整え方		実技		
6・7	就床患者の病床環境を整えることができる。	病床整備(臥床患者のシーツ交換)	1. 就床患者の病床整備 2. 下シーツの交換		実技		
8・9	ボディメカニクスを活用し、安全・安楽に考慮しながら移動・移送ができる。	移動・移送	1. 車椅子移動・移送 2. ストレッチャー移動・移送 3. 歩行の介助		実技		
10～13	対象に応じた援助の目的と方法を理解し、安全・安楽に清潔の援助(全身清拭・寝衣交換、洗髪、足浴、口腔ケア)ができる。	臥床患者の清拭・寝衣交換	1. 全身清拭(熱布清拭) 2. 寝衣交換		実技		
14～17		臥床患者の洗髪	1. 洗髪		実技		
18・19		臥床患者の足浴・口腔ケア	1. 足浴(爪切り) 2. 口腔ケア		実技		
20・21	対象に応じた食事の援助ができる。	臥床患者の食事介助	1. 食事介助		実技		

回数	単元目標	学習内容		学習形態
22・23	対象に応じた排泄の援助ができる。	床上排泄の援助	1. 便器介助 2. 尿器介助 3. ポータブルトイレの使用	実技
評価方法	実技試験(記録物の提出を含める)			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考図書	ビジュラン・ナーシングスキル 等			
受講上の留意点	1. 演習時間内だけで技術を習得することはできない。 主体的に自己学習に取り組み、技術の習得に努める。 2. 演習は実習室で行う。 氏名章・指定のユニフォーム・ナースシューズを着用する。 爪・髪型・清潔な身なりを整え、装飾品の着用はしない。 演習内容によってユニフォーム以外の指定がある場合もある。 3. 事前学習(ビジュラン、ナーシングスキル等の視聴、事前課題)をした上で演習に臨む。 (自分一人で実施できる状態で演習に臨む) 4. 演習開始前にはベッドメイキングなどの必要な準備をする。 5. 3～5人のグループとなり、看護師・患者・観察者の役割を交替して実施する。 患者役はパジャマ・和式寝衣・膝下スパッツを用意する。 6. 演習終了後は事後課題に取り組み、指定された期日までに提出する。			

科目名	診療に伴う援助技術			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期		担当者	河野直美、伊藤百合子、齋藤友紀子 高橋沙織、須藤夕紀			
設定理由	診療に伴う援助技術は〈実体にはたらきかける技術〉の一つである。医療現場における医療行為、特に治療・処置・検査には危険が伴い、技術が進歩し複雑になればなるほどそのリスクは高くなる。現在は、診療に伴う援助技術を看護師が実施する範囲も拡大している。そこで患者の安全を保証できる、看護技術の基本を学ぶ。						
科目目標	1. 診療に伴う援助の必要性和看護の役割が理解できる。(DP3) 2. 対象にあわせた診療に伴う援助技術について理解する。(DP3)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	感染を予防するための具体的方法を理解する。	感染予防策	1. 感染経路別予防策 （接触予防策・飛沫予防策・空気予防策） 2. 汚染区域と清潔区域の往来時の感染対策 3. 感染源への対策 （洗浄・消毒・滅菌） 4. 無菌操作 5. 感染性廃棄物の取り扱い			講義	
2	創傷管理に必要な基礎知識と方法が理解できる。	創傷管理技術	Ⅰ. 創傷の処置 1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷の種類 3. 創傷の治癒過程 4. 創傷処置の方法 5. ドレッシング材の種類 Ⅱ. 包帯法 1. 包帯法の原則 2. 包帯の基本的な取り扱い			講義	
3	「生命の脅かしの看護に必要な技術」としての電法の意義と方法が理解できる。	体温・循環調節のための援助技術	1. 電法の意義 2. 温度刺激と生体への影響 3. 電法の種類と効果 4. 方法 5. 禁忌と医療事故			講義	
4	自然排泄が困難な場合の援助方法を理解する。	排泄に関する処置技術Ⅰ	Ⅰ. 浣腸 1. 浣腸の目的 2. 浣腸の種類 3. 浣腸の禁忌 4. 浣腸実施上の原則と留意点 5. 浣腸の方法			講義	
5		排泄に関する処置技術Ⅱ	Ⅱ. 導尿 1. 導尿の目的 2. 導尿の種類 3. 導尿の禁忌 4. 導尿実施上の原則と留意 5. 導尿の方法			講義	

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容			学 習 形 態
6	検査における看護の役割と検査時の看護が理解できる。	検査に伴う援助技術Ⅰ	Ⅰ．検査に伴う看護と検査の種類 1．検査の意義 2．検査の種類 3．検査を受ける対象の理解 4．看護の役割	講義	
7		検査に伴う援助技術Ⅱ	Ⅱ．各種検査の方法 1．検体検査 2．生体検査	講義	
8	「生命の脅かしの看護に必要な技術」としての呼吸管理技術の意義と方法が理解できる。	呼吸の管理に必要な援助技術Ⅰ	Ⅰ．呼吸の意義と呼吸を楽にする援助 1．呼吸の意義 2．呼吸を整える援助の基本	講義	
9		呼吸の管理に必要な援助技術Ⅱ	Ⅱ．酸素吸入療法 1．酸素吸入療法の基礎知識 2．酸素吸入療法の実際	講義	
10		呼吸の管理に必要な援助技術Ⅲ	Ⅲ．気道分泌物の排出の援助 1．排痰ケアとは 2．排痰に必要なポイント 3．排痰ケアの実際 4．一時的吸引	講義	
11	薬物療法における看護の役割と安全で適切な与薬を行うための方法が理解できる。	与薬の援助技術Ⅰ	Ⅰ．与薬に関する基礎知識 1．与薬とは 2．薬物療法の基礎知識 3．与薬の援助の基本	講義	
12・13		与薬の援助技術Ⅱ	Ⅱ．与薬法 1．経口与薬法 5．点眼法 2．口腔内与薬法 6．点耳法 3．直腸内与薬法 7．点鼻法 4．塗布・塗擦法 8．吸入法	講義	
14		与薬の援助技術Ⅲ	Ⅲ．注射法 1．注射法とは 2．注射法の基礎知識 3．注射法実施時の原則と留意点 4．注射法の種類と特徴 5．注射法の実施方法	講義	
15		与薬の援助技術Ⅳ	Ⅳ．輸血療法 1．輸血療法とは 2．輸血療法の基礎知識 3．輸血療法の方法	講義	
評 価 方 法		筆記試験			
使用テキスト		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参 考 図 書					
受 講 上 の 留 意 点					

科目名	診療に伴う援助技術の実際				単位数	1	時間数	45
開講時期	1年次 後期			担当者	河野直美、伊藤百合子、齋藤友紀子 高橋沙織、須藤夕紀			
設定理由	診療に伴う援助技術の講義と連動して演習で援助の実践を行うことで、単なるテクニックではなく対象の状況にあわせた診療に伴う援助を実践するための基礎とする。							
科目目標	診療に伴う援助技術を習得する。(DP2、DP3)							
回数	単元目標	学習内容				学習形態		
1・2	原理・原則をふまえ、無菌操作ができる。	感染予防のための援助技術 無菌操作	1. 滅菌包装の開き方 2. 滅菌物の取り出し方 3. 受け渡し方 4. 滅菌包の開き方 5. 滅菌手袋の装着 6. 消毒薬の作り方				実技	
3・4	創傷治癒を促進するための創傷管理ができる。	創傷管理のための援助技術 創傷処置・包帯法	1. 創傷の観察 2. 創傷の洗浄 3. 創傷の保護 4. 包帯法				実技	
5・6	対象に応じて適切な電法が安全にできる。	体温・循環調節のための援助技術 温電法・冷電法	1. 湯たんぽの貼用 2. 氷枕・氷のうの貼用				実技	
7・8	対象の状況に応じて安全・適切に浣腸の援助ができる。	排泄に関する処置技術 浣腸	1. グリセリン浣腸				実技	
9・10	対象の状況に応じて安全・適切に導尿の援助ができる。	排泄に関する処置技術 導尿	1. 一時的導尿法				実技	
11・12	安全・安楽に配慮し、確実な静脈内採血ができる。 正確に尿検査ができる。	検査に伴う援助技術 静脈採血 尿検査	1. 静脈採血 2. 尿検査				実技	
13・14	安全で効果的な酸素吸入ができる。	呼吸の管理に必要な援助技術 酸素吸入法	1. 酸素ボンベの取り扱い 2. 酸素吸入 (鼻腔カニューレ法、マスク法)				実技	

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容		学 習 形 態
15・16	安全・安楽に配慮し、効果的な吸引ができる。	呼吸の管理に必要な援助技術 一時的吸引法	1. 口腔内・鼻腔内吸引 2. 気管内吸引 3. 体位ドレナージ 4. 噴霧吸入 (ジェットネブライザー) (超音波ネブライザー)	実技
17・18	対象に適した方法で安全に経口与薬・直腸内与薬ができる。	与薬の援助技術 経口与薬法 直腸内与薬法	1. 経口与薬法 2. 直腸内与薬法	実技
19・20	安全に筋肉内注射ができる。	与薬の援助技術 筋肉内注射	1. 筋肉内注射	実技
21～23	安全に点滴静脈内注射ができる。	与薬の援助技術 点滴静脈注射	1. 点滴静脈注射	実技
評 価 方 法	実技試験(記録物の提出を含める)			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参 考 図 書	ビジュアル・ナーシングスキル 等			
受 講 上 の 留 意 点	1. 演習時間内だけで技術を習得することはできない。 主体的に自己学習に取り組み、技術の習得に努める。 2. 演習は実習室で行う。 氏名章・指定のユニフォーム・ナースシューズを着用する。 爪・髪型・清潔な身なりを整え、装飾品の着用はしない。 演習内容によってユニフォーム以外の指定がある場合もある。 3. 事前学習(ビジュアル、ナーシングスキル等の視聴、事前課題)をした上で演習に臨む。 (自分一人で実施できる状態で演習に臨む) 4. 演習開始前にはベッドメイキングなどの必要な準備をする。 5. 3～5人のグループとなり、看護師・患者・観察者の役割を交替して実施する。 患者役はパジャマ・和式寝衣・膝下スパッツを用意する。 6. 演習終了後は事後課題に取り組み、指定された期日までに提出する。			

科目名	フィジカルアセスメント			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期			担当者	須藤夕紀、齋藤友紀子、高橋沙織		
設定理由	〈実体にはたらきかける技術〉の一つであるフィジカルアセスメントの技術では対象の身体状況を看護の視点から、客観的かつ正確に把握するための技術(フィジカルイグザミネーション)を習得し、身体の状態を評価・査定できる力(フィジカルアセスメント力)を養うことで臨床推論につなげる。						
科目目標	1. 基礎的なフィジカルイグザミネーション技術を習得することができる。(DP2、DP3) 2. 対象の身体状況をアセスメントすることができる。(DP3)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	フィジカルアセスメントの意義・必要性が理解できる。		フィジカルアセスメントとは	1. フィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの基本技術 3. 一般状態のアセスメント			講義
2	呼吸のアセスメント方法を理解し、実施できる。 循環器のアセスメント方法を理解し、実施できる。		呼吸器のアセスメント 循環器(心臓・血管系)のアセスメント	1. 呼吸器のアセスメント 1) 胸部形態と外観 2) 肺(呼吸音・振盪音・打診音)			講義
2. 心臓・血管系のアセスメント 1) 胸部の外観 2) 頸静脈、動脈 3) 振動、最大拍動点、心音				講義			
3				3. 呼吸器・循環器(心臓・血管系)のアセスメントの実際			演習
4・5							
6	腹部のアセスメント方法を理解し、実施できる。 乳房・腋窩のアセスメント方法が理解できる。		腹部のアセスメント 乳房・腋窩のアセスメント 頭・頸部のアセスメント 感覚器のアセスメント 皮膚・爪のアセスメント	1. 腹部のアセスメント 1) 腹部全体 2) 動脈・腸管・肝臓・脾臓・腎臓 2. 乳房・腋窩のアセスメント			講義
7	頭・頸部のアセスメント方法が理解できる。 感覚器のアセスメント方法を理解し、実施できる。 皮膚・爪のアセスメント方法が理解できる。			3. 頭・頸部のアセスメント 1) 頭部 2) 顔面 3) 頸部 4. 感覚器のアセスメント 1) 眼 2) 耳・鼻 3) 口腔 5. 皮膚・爪のアセスメント			講義
8・9				6. 腹部・感覚器のアセスメントの実際			演習

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容		学 習 形 態
10	神経系・骨格筋系のアセスメント方法を理解し、実施できる。	神経系・筋骨格のアセスメント	1. 神経系のアセスメント 1) 各反射 2) 知覚、小脳機能 2. 筋・骨格のアセスメント 1) 関節 2) 四肢の筋力 3) 脊柱及び下肢の形態と歩行	講義
11・12			3. 神経系・筋骨格のアセスメントの実際	演習
13・14 15	事例の身体状況を総合的にアセスメントできる。	事例のアセスメント	事例の観察・アセスメント グループワーク・発表	GW 演習
評 価 方 法	筆記試験とグループワークで評価する。			
使用テキスト	横山美樹著 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社			
参 考 図 書	小野田千枝子監修 実践フィジカルアセスメント 金原出版			
受 講 上 の 留 意 点	1. 事前学習(ナーシングスキル又はDVDの視聴と課題)をした上で演習に臨む。 人体の構造と機能、臨床生理Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学等で学んだ知識・技術を活用して自己学習する。 2. 各回の演習では、2～3人が一組となり、対象者と看護師の役割を交互に行う。 3. 演習終了後は事後課題に取り組み、指定された期日までに提出する。 4. 服装は、学校で指定したポロシャツとパンツを着用する。 演習内容によってはハーフパンツを必要とする。			

科目名	臨床看護演習				単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期			担当者	那須詠子 他			
設定理由	一年次の総まとめとして、今まで修得した知識・技術を使い、健康障害の状態に応じた患者への看護を演習で実践する。特に臨床生理で学んだ症状の発生機序、検査および身体所見をもとにアセスメントして、根拠に基づいた技術の提供ができるようにする。							
科目目標	1. 健康障害の状態に応じた患者への看護を考え実践できる。(DP2、DP3) 2. 一次救命処置が必要な対象の状況を理解し実施できる。(DP3) 3. 医療機器を安全に取り扱う方法が理解できる。(DP3、DP4)							
回数	単元目標		学習内容				学習形態	
1・2	医療機器の取り扱いが理解できる		医療機器の取り扱い	1. 医療機器使用の実際 1) 医療機器とは 2) 輸液ポンプ、心電図モニターなどの使用の実際				演習
3・4	一次救命処置が実施できる		心肺蘇生法	1. 一次救命処置の(BLS)の実施 1) 胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)使用法 2) 心停止・死戦期呼吸の認識 3) 緊急通報				演習
5・6	健康障害を持つ対象と看護の方法を理解できる。		健康障害と看護	1. 健康障害の経過からみる看護 1) 急性期を経験している患者 (1) 急性期とは (2) 急性期にある患者の治療と特徴 2) 回復期を経験している患者 (1) 回復期とは (2) 回復期にある患者の治療と特徴 3) 慢性期を経験している患者 (1) 慢性期とは (2) 慢性期にある患者の治療と特徴 4) 人生の最終段階にある患者 3. 生命維持と日常生活に影響を及ぼす障害/主要な症状を示す対象者への看護 4. 臨床判断とは 1) ベナーによる定義 2) 臨床判断モデル				講義

回 数	単 元 目 標	学習内容		学習形態
7～13	健康障害に応じた看護実践ができる	健康障害に応じた看護（演習）	1．事例紹介 2．情報収集・整理 3．情報の意味づけ 4．問題の抽出 5．看護計画の立案・発表 6．根拠に基づく援助の実際（技術練習）	GW
14・15			1．根拠に基づく援助の実際 2．援助の評価	演習 GW
評 価 方 法		平常考査		
使用テキスト		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 看護過程に沿った対症看護 Gakken		
参 考 図 書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学		
受 講 上 の 留 意 点		〈健康障害の状態に応じた患者への看護〉 1．GWを行うにあたって 1) GWに臨む際は、必ず自己学習し、資料を持参する 2) グループリーダー、GW 毎の司会・書記(輪番制)を決定しておく 3) その日討議したことは、書記がまとめ教員へ提出する 4) グループメンバーの参加状況を毎回評価する 2．発表を行うにあたって 1) 進行は司会・タイムキーパーを決め、学生主体で実施する 〈心肺蘇生法・医療機器の取り扱い〉 1．演習時は、トレーニングウェアもしくは動きやすい服装とし、必ずナースシューズを着用する。 2．その他演習時の注意事項に準じ、髪型・爪切り等身だしなみを整えておく。 3．事前準備があるため、担当教員に従い準備を行う。 4．教科書・筆記具を持参し演習に臨むこと。		

地域・在宅看護論

1. 考え方

日本において少子・高齢社会が進展し、人口減少、生産年齢人口の減少が課題となり、人口および疾病構造の変化に応じた医療体制の整備が急務であり、従来の病院完結型の医療から、地域で「治し支える医療」へと転換し、地域包括ケアシステムの構築を推進している。これからの看護師には、その中で役割を遂行することが求められる。同時に、人々との関係も医療従事者主導ではなく、地域で生活する人々が主体となり、その人々と医療従事者とのパートナーシップに基づくものに、変化する必要がある。

このような社会情勢の変化に伴い、地域・在宅看護論では、地域包括ケアシステムを軸に切れ目のない看護を提供するために、地域で生活するあらゆる人々とその家族、またさまざまな健康の段階にある人々の健康と生活を理解し、それらを支えるための制度やマネジメント、多職種連携・協働をすることの意義、地域における多様な場での看護の基礎を学ぶことをねらいとする。

2. 目的

地域で生活する人々とその家族の特性を理解し、地域での健康と生活を支えるために必要な知識・技術・態度を習得する。

3. 目標

- 1) 地域で生活する人々と家族の健康と生活を支援する方法を理解できる。
- 2) 地域で生活する人々と家族の健康状態と生活環境に応じた援助を理解できる。
- 3) 地域・在宅看護に対する社会的ニーズ及び動向について知り、看護の役割について理解できる。
- 4) 地域で生活する人々を支える社会資源と多職種について理解できる。
- 5) 地域で生活する人々の多様な価値観について理解できる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
地域・在宅看護概論	1	15	1 (15)		
在宅看護を支える社会資源とケアシステム	1	15		1 (15)	
家族看護論	1	15		1 (15)	
在宅における援助の基本技術	1	30		1 (30)	
在宅における生活援助技術の実際	1	30		1 (30)	
がん看護	1	15		1 (15)	

科目名	地域・在宅看護概論			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期			担当者	伊藤百合子		
設定理由	地域・在宅看護の対象は地域で生活するすべての人々である。地域で生活する人々の生活の場やあり様を知り、人々がそれぞれの健康段階に応じてどのように支援を受けているのかを学び、地域・在宅看護に求められる看護について理解する。						
科目目標	1. 地域で生活する人々の生活を理解する(DP1) 2. 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する(DP1、DP5)						
回数	単元目標	学習内容				学習形態	
1	日本の在宅看護が推進される社会的背景を理解できる	人々の暮らしと地域・在宅看護	1. 地域・在宅看護の変遷と社会背景 2. 暮らしとは 3. 地域・在宅看護とは				講義
2	地域で生活するとはどういうことか考えられる	暮らしの基盤としての地域の理解	1. 暮らしと地域				講義 GW
3・4	生活圏・生活環境を知り、生活環境が健康に与える影響を理解する	地域の環境と生活への影響	1. 地域の生活環境を考える 2. 生活環境が健康に与える影響				GW
5	地域・在宅で看護の対象を理解できる	地域・在宅看護の対象	1. 年齢・疾患・障害からみた対象者 2. 療養状態からみた対象者				講義
6	地域包括ケアシステムの意義と概念について理解できる	健康と生活を支える「地域包括ケアシステム」	1. 地域包括ケアシステムとは 2. 地域包括ケアシステムと保健・医療・福祉の連携 3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割				講義
7	地域で生活する人々を支える多職種との連携・協働について理解できる	健康と生活を支える「多職種連携」	1. 多職種連携と協働の意義と方法				講義
8	在宅看護に特有の倫理的問題について理解できる	在宅看護における倫理	1. 在宅看護における倫理と基本理念 2. 在宅看護において知っておきたい考え方 (権利擁護、意思決定、ヤングケラー等の家族の権利)				講義
評価方法	筆記試験、グループワーク、レポート等で総合的に評価する						
使用テキスト	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 医学書院						
参考図書	渡辺裕子監修 家族看護を基盤とした在宅看護論 第5版 日本看護協会出版会						
留意点	30分上の遅刻は欠席とする						

成人看護学

1. 考え方

成人期は成長・成熟・衰退の過程にあり、人生の中で最も長く、変化に富んだ時期である。また、身体的特性、生活特性、個人に課せられた役割期待などが統合された社会的存在である。成人の健康は生活習慣や環境・労働ストレスに影響を受けやすく、それらによって引き起こされる様々な健康問題を抱えている。対象は、成人期の役割を果たすために、患者役割を遂行しながら多様な役割と責任を果たしていく存在である。

そこで、成人看護学では、多様な健康状態に合わせ、生活スタイルや価値観、家族背景を踏まえ、その人らしい生活が営めるよう支援するための知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目的

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護実践できる知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 成人各期の特徴を捉え、成人看護の役割を考えられる。
- 2) 健康問題を持つ成人への看護に必要な知識・技術が習得できる。
- 3) 成人期の健康障害を理解し、対象とその家族に応じた看護が考えられる。
 - (1) 手術や救命救急治療により、健康の危機状況にある人への看護が理解できる。
 - (2) 慢性的な疾患をもつ人のセルフマネジメントに向けての看護が理解できる。
 - (3) 中途障害を受けた人のセルフケア再獲得に向けての看護が理解できる。
 - (4) 緩和ケア・終末期ケアを必要とする人への苦痛の緩和とQOLの維持に向けた看護が理解できる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
成人看護学概論	1	15	1 (15)		
クリティカルケア看護	1	15		1 (15)	
周手術期の看護	1	30		1 (30)	
セルフマネジメントに向けての看護	1	30		1 (30)	
セルフケア再獲得に向け得ての看護	1	30		1 (30)	
緩和ケア・終末期の看護	1	15		1 (15)	

科目名	成人看護学概論			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期			担当者	葛谷辰枝		
設定理由	成人は、多様な役割をもち社会と関わりながら様々な価値観・生活習慣・ライフスタイルをもつ。これらは成人の健康問題と密接に関連している。また現代の保健と健康の動向を通して、社会情勢を理解し、成人の生きる社会と看護の役割機能を学ぶ。						
科目目標	1. 成人期にある人の特徴と、成人看護の意義と役割を理解する。(DP1、DP4、DP5) 2. 成人保健の動向を通して、成人期の健康保持増進対策を理解する。(DP1、DP4、DP5)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1	成人期にある人の理解	1. 成人期の年齢区分 2. 成人期の特徴 3. 現代日本における成人期のライフサイクルとライフスタイル 4. 成人に対する看護の視点				講義	
2 3 4	成人各期の特徴と保健問題	5. 各成人期 1) 青年期の特徴と保健問題 2) 壮年期の特徴と保健問題 3) 向老期の特徴と保健問題				講義 GW	
5 6	成人保健の動向と課題	6. 成人保健の動向 生活習慣病に関連する健康問題と予防 生活ストレスに関連する健康障害と予防・緩和 7. 保健政策と成人健康教育 8. 成人保健とセクシャリティ 9. 労働者の保健問題の動向とその対策職業に関連する健康問題とその予防				講義 GW	
7	看護実践における倫理的判断	10. 医療の場における倫理的課題				講義	
8	成人の健康障害と看護	11. 成人の健康障害と看護				講義	
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 国民衛生の動向						
留意点							

老年看護学

1. 考え方

老年期は、人間の成長発達の最終段階である。老年期を生きる人は、長い人生経験と知恵を持った存在であり、そこから形成された価値観や生活、健康状態、家族関係の一つとして同じものはない。また加齢現象による心身の変化は、生活に影響を及ぼし、自分なりにこだわって生活してきたことを変化させなければならなくなる。

我が国は2007年に超高齢社会を迎え、今後さらに高齢化率は高くなることが予測されている。高齢者を取り巻く保健医療福祉制度は社会のニーズに合わせ変遷している。そして、飛躍的に長くなった老年期を迎え、高齢者には出来る限り自立した生活を送るための健康づくりが求められている。しかしながら、老年期の健康状態は個人差が大きく、保健医療福祉制度のサービスやケアを受けながら生活を送る場合もある。その為、あらゆる健康の段階にあっても本人(家族)が望む生活を実現する支援が必要である。

老年看護学では老年期を生きる人の特徴と生活・生活する社会を理解し、かけがえのない存在として尊重し健やかに老いること、その人が望む生活を送るための看護に必要な知識・技術・態度を学ぶことをねらいとする。

2. 目的

老年期を生きる人の特徴、加齢による生活への影響を理解し、あらゆる健康段階にあってもその人が望む生活を支える看護の基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) 老年期を生きる人の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。
- 2) 老年期を生きる人の保健・医療・福祉制度の動向と諸問題が理解できる。
- 3) 加齢に伴う生活の変化を理解し、生活を支えるための知識と技術が習得できる。
- 4) 老年期を生きる人の健康問題を理解し、あらゆる健康の段階に応じた看護を理解できる。
- 5) 老年期を生きる人の個人史について理解を深め、自己の老年観を持つことができる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
老年看護学概論	1	15	1 (15)		
老いることその支援	1	15		1 (15)	
老年期にある人の健やかな生活を支える看護	1	30		1 (30)	
老年期にある人の健康状態に合わせた看護	1	30		1 (30)	

科目名	老年看護学概論			単位数	1	時間数	15
開講時期	1 年次 後期			担当者	河野直美		
設定理由	高齢化の進んだわが国では病院でも地域でも看護の対象は圧倒的に老年期にある人が多い。本科目では、加齢による身体、精神、社会的な特徴とそれに伴う生活の変化など老年期にある人について理解する。また、高齢者を取り巻く社会動向や健康問題など幅広く老年期にある人をとらえ老年看護の役割を考える。						
科目目標	1. 加齢による身体、精神、社会的特徴とそれに伴う生活の変化が説明できる。(DP1、DP2) 2. 老年期にある人の健康問題と健康づくりに関する保健医療福祉制度について説明できる。(DP5) 3. 高齢社会の現状をふまえ、老年看護の役割と目標について考えることができる。(DP1、DP4、DP5) 4. 老年期にある人の人権とその問題、権利擁護のための制度について説明できる。(DP3、DP5) 5. 老年期にある人の生きてきた時代背景を知ることにより、高齢者の理解を深めることができる。(DP1、DP2)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1	老いるとは？ 老年看護の特徴		1. 老年期とは 2. 老化と加齢 3. 老年期における健康 4. 老年看護の役割			講義	
2・3	老年期にある人の特性 1		1. 加齢に伴う身体的特徴			講義	
4	老年期にある人の特性 2		1. 加齢に伴う精神的特徴 2. 加齢に伴う社会的特徴				
5・6	老年期にある人を取り巻く緒問題		1. 高齢者の健康の特徴 2. 高齢者の健康問題 3. 保健・医療・福祉の動向と対策			講義	
7	老年期にある人の人権と法制度		1. 高齢者の人権 2. 高齢者の倫理的問題 3. 高齢者の権利を守る制度			講義	
8	老年期にある人のライフヒストリー		1. 高齢者の時代背景を知る 2. 老年看護における理論・概念			GW	
評価方法	筆記試験、レポート						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾病論 医学書院 国民衛生の動向						
留意点	国民衛生の動向は「老年期にある人を取り巻く諸問題」の単元から使用する。						

小児看護学

1. 考え方

子どもは、自らのもてる力と環境との相互作用のなかで、社会的存在として人間への絶え間ない成長・発達を遂げる時期である。子どもは、食事や排泄、睡眠などの基盤となる生活習慣を家庭のなかで確立し、成長・発達には家族の関わりが大きく影響する。小児期に確立した健康観や生活習慣は、その後の生活に長期的な影響を及ぼす。しかし、近年子どもを取り巻く環境は急激に変化し、心と身体の健康問題や社会問題が増加している。子どもの養育環境はさまざまであり、それぞれの子どもと家族にとって最適な生活環境を整えるためには、そのときどきの社会情勢や教育機関、地域の医療・福祉サービスに着目し、社会全体で子どもと家族に目を向ける必要がある。

子どもの特性を十分に理解し、大切に育み、権利を守り、成長・発達を阻害する因子を可能な限り取り除くこと、子どもの体験の積み重ねや感じ方を尊重しながら成長・発達過程を支えることに小児看護の役割がある。小児看護学では、現代の子どもと家族の特徴を理解し、子どもの健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての子どもがより健康的な成長・発達を遂げられるよう子どもと家族に対する看護を学ぶ。

2. 目的

小児各期の特徴および対象とその家族を理解し、健康段階に応じて対象がその子らしい成長・発達を遂げるために必要な知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 小児各期の成長・発達の特徴を理解し、小児看護の役割を理解する。
- 2) 小児の健やかな成長・発達を支えるための、日常生活援助に必要な基礎的知識と技術を習得する。
- 3) 小児各期に特有な健康問題と健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。
- 4) 健康障害をもつ小児と家族に必要な看護援助を理解する。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
小児看護学概論	1	15	1 (15)		
子どもの健やかな成長・発達を支える看護	1	30		1 (30)	
小児の疾病と病態生理	1	15		1 (15)	
健康障害をもつ子どもの看護	1	30		1 (30)	
合 計	4	90	1 (15)	3 (75)	

科目名	小児看護学概論			単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期			担当者	立花春香、MSW		
設定理由	子どもは絶えず成長・発達を続けている。したがって健康障害とそれに伴う問題も、成長・発達の過程の中でとらえなければならない。まず、小児看護の対象である子どもの特徴を学び、子どもの健康のとらえ方と小児看護の役割について理解する必要がある。						
科目目標	1. 小児看護の対象の特性を学び、小児看護の役割が理解できる。(DP1) 2. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉の動向を理解できる。(DP5)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1・2	子どもの特徴や子どもと家族をめぐる環境が理解できる。		1. 小児期の区分 2. 子どもの特性 3. 子どもを取り巻く環境 4. 諸統計からみた子どもと家族の健康問題 5. 母子保健と子育て支援			講義 GW	
3	子どもの成長・発達が理解できる。		1. 成長発達の原則と影響因子 2. 形態的成長			講義	
4	子どもの成長・発達が理解できる。		1. 機能的発達 2. 心理・社会的発達			講義	
5	子どもの成長・発達の評価が理解できる。		1. 成長の評価 2. 心理・社会的発達の評価			講義	
6	子どもにとっての栄養の意義を理解できる。		1. 子どもにとっての栄養の意義・目的 2. 小児期の発達段階別の栄養の特徴 3. 小児期の発達段階別の栄養問題			講義	
7	小児看護の概念が理解できる。		1. 小児看護の対象と目標 2. 小児看護の機能と役割 3. 小児看護の課題と展望			講義	
8	小児看護における倫理が理解できる。		1. 子どもの権利と変遷 2. 子どもの権利条約 3. 権利擁護(アドボカシー) 4. インフォームドアセント 5. 子どもの権利の尊重と倫理の問題			講義	
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向						
留意点							

母性看護学

1. 考え方

母性の本質は、生命の創造と育成である。したがって、母性看護学において重要なことは、生命尊重の態度および生命誕生のすばらしさを学ぶことにある。また、この生命尊重の価値観や態度は看護師としてだけでなく、女性自らがその価値観や態度を有することが重要である。

そこで、母性看護学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基本に女性の生涯にわたる健康に目を向け身体的特徴や心理・社会的な特徴を理解し、健康の保持増進、疾病予防のためのセルフケアへの援助を中心とした看護の役割を学ぶ。近年、少子化が進み、母性を取り巻く社会も変化している。少子化となり、子を産む、育てることの価値観の変化や生命誕生に関わる倫理観の多様化など、母性としての役割、父性としての役割と考え方が時代とともに変化している。また、働く女性が増加し、母性機能を健全に果たすためにも妊娠・分娩・産褥・育児について、法律や制度の仕組みを理解する必要がある。このような社会の変化に即した看護のあり方についても考えられることを目的とする。

2. 目的

女性をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から全人的視点でとらえ、主として思春期から更年期までのライフステージにおける健康上の特性を理解し、健康の維持・増進を目標として、看護するために必要な知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) リプロダクティブ・ヘルス、母性の概念がわかる。
- 2) 母性看護の特性及び母性看護の意義がわかる。
- 3) 生殖及び周産期に関連する生理及び健康問題と対策が理解できる。
- 4) 妊娠・分娩・産褥期における母児の特性がわかり、健康問題解決のための方法が理解できる。
- 5) ライフサイクルに応じた健康問題の特性がわかり、問題解決のための方法が理解できる。
- 6) 社会資源の活用や健康教育を通して、母性看護の対象に対する母子保健支援システムの理解ができる。
- 7) 自己の母性性ならびに父性性を認識し、健全な母性ならびに父性の形成及び成熟のための学習機会とする。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
母性看護学概論	1	30	1 (30)		
生殖・周産期の基礎	1	15		1 (15)	
母子の健康と看護	1	30		1 (30)	
母子の看護技術演習	1	30		1 (30)	

科目名	母性看護学概論			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期			担当者	末延睦与、西 佳子		
設定理由	母性の特性を理解した上で、母性看護の概念、機能と役割、母性看護の現況と動向を理解する。対象のライフサイクル各期の発達に応じて、身体的・社会的・心理的側面から多面的に捉え、急速な社会の変化に対応した母性看護の課題や必要性を考える。						
科目目標	1. リプロダクティブヘルス／ライツの意義・目的がわかる。(DP4) 2. 母性看護の変遷と現状がわかる。(DP4) 3. 母子保健統計の動向と法律がわかる。(DP4) 4. ライフサイクルに応じた健康問題及び看護の概要がわかる。(DP4)						
回数	単元目標		学習内容				学習形態
1	リプロダクティブヘルス／ライツ (性と生殖に関する健康と権利) の概念		1. リプロダクティブヘルス／ライツとは (性と生殖に関する健康と権利)				講義
2. リプロダクティブヘルス／ライツと健康問題 (わが国や諸外国における現状とその対応)				講義			
3～4	母性看護の変遷と現状		1. 子どもが産まれるということ(母性とは、母性の対象と目標)				講義
2. 出産と習俗				講義			
5～6			3. 世界の出産ケア				講義
4. 妊娠・出産と家族 (母子関係と家族発達)				講義			
7	母子保健統計の動向と法律		1. 母性看護の現況と動向育児不安、虐待、喫煙 (医療・環境・社会的要因、母子保健統計)				講義
8			2. 母性看護に関連する法律と母子保健施策 1) 母子保健法 2) 母体保護法 3) 労働基準法 4) 男女雇用機会均等法 5) 育児・介護休業法 6) 戸籍法				講義

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容	学習形態
9	ライフサイクルに応じた健康問題と看護	1. 人間の性のシステム (人間の性行動の特徴、脳の性差)	講義
10～11		2. 思春期・成熟期・更年期のセクシュアリティと看護に関するグループ課題の検討 1) 若年妊娠と高齢妊娠 2) 少子化 3) 不妊症 4) 出生前診断 5) 国際化 6) 虐待 7) 月経前症候群(PMS) 8) 人工妊娠中絶 9) LGBT(セクシュアルマイノリティ) 10) 代理出産 5～6名×10G 上記に関するテーマをグループ毎に決定し、GWをする。資料を作成し、発表へつなげる(問題の背景、現状、看護的支援についてグループ内で討論したことや考えをプレゼンテーションする)。	GW
12～13			
14～15		3. グループ課題の発表 (1 G10分×10G、質疑応答20分×3) 4. 母性看護に関連する倫理的課題 (20分)	発表 まとめ 講義
評価方法	筆記試験60% グループワーク学習と発表40%		
使用テキスト	母性看護学概論 母性看護学① 医学書院		
参考図書			
留意点	時事問題に目を向けて、問題意識を持ち参加するように。 30分を過ぎての遅刻は、欠課とする。		

精神看護学

1. 考え方

人間の認識はその人の発達段階・生活過程のあり方に規定され、対象を尊重するためには、その人の表現の意味を発達段階・生活過程から捉え、認識を想像する必要がある。

ストレッサーは常に私たちのまわりに存在し、ストレスは誰にでも起こり得ることである。現代は、学校のスケジュールの過密化や雇用システムの変化がある中、社会構造の変化によってコミュニティが減り、ストレスに対処する力が減ってきている。そのため、学校や職場におけるメンタルヘルスケアが必要とされている。精神疾患の患者数は増加し、今や5大疾病の1つと言われている。患者の回復を支える援助の基盤として、患者-看護師関係が重要である。精神病床数の削減と社会的入院の解消がなかなか進展していないことや、障害の有無に関わらずすべての人々が地域の一員として社会に参画していく権利があるという考えが浸透したことによって、地域を基盤とした精神保健福祉への転換が強化されている。

そこで、精神看護学では、その人の認識や表現の意味を捉え、情報化する力を養いつつ、現代社会に生きる人々の心の健康について理解し、心の健康の保持・増進および回復を支える看護に必要な知識・技術・態度を学ぶことをねらいとする。

2. 目的

その人の認識や表現の意味をふまえ、心の健康の保持・増進および回復を支える看護に必要な知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 心の発達と健康について理解できる。
- 2) 精神保健医療の変遷を学び、現状や課題が理解できる。
- 3) 精神障害をもつ人の地域における支援が理解できる。
- 4) その人の認識や表現の意味を捉え、対象を尊重できる。
- 5) 患者-看護師関係を構築する技術を修得できる。
- 6) 精神障害とその治療を理解し、精神障害をもつ人の看護が理解できる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
精神看護学概論	1	15	1 (15)		
精神看護の基本技術	1	30		1 (30)	
精神障害と治療	1	15		1 (15)	
精神障害を持つ人の看護	1	30		1 (30)	
合 計	4	90	1 (15)	3 (75)	

科目名	精神看護学概論				単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期			担当者	岡田陽子			
設定理由	ストレッサーは常に私たちのまわりに存在し、ストレスは誰にでも起こり得ることである。現代は、学校のスケジュールの過密化や雇用システムの変化がある中、社会構造の変化によってコミュニティが減り、ストレスに対処する力が減ってきている。そのため、学校や職場におけるメンタルヘルスケアが必要とされている。そこで、現代社会に生きる人々の心の健康について理解した上で、精神看護の基本的な考え方について学ぶ。また、精神保健医療の変遷と現在の課題を理解し、人権擁護について学ぶ。							
科目目標	1. 心の発達と健康について理解できる。(DP 1) 2. 精神保健医療の変遷や、現状と課題を理解できる。(DP 1、DP 3) 3. 精神保健活動と看護師の役割が理解できる。(DP 5)							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1	精神の健康とは、精神看護とはどういうことか理解できる	1) 講義ガイダンス 2) 精神の健康、精神看護とは 3) 心のはたらき	1) 講義ガイダンス 2) 精神の健康、精神看護とは (1) 精神の健康とは (2) リカバリー (3) 精神看護とは 3) 心のはたらき (1) 意識と認知機能 (2) 感情 (3) 学習と行動 (4) 知能				講義	
2	精神看護の基盤である理論を理解できる	1) 心のしくみと人格の発達	(1) 精神保健における危機状況 (2) 人格と気質 (3) フロイトの性的発達論、心の構造 (4) 防衛機制 (5) クラインの対象関係論 (6) エリクソンの漸成的発達理論 (7) ボウルビィの愛着理論 (8) 各発達段階における危機状況と精神保健				講義	
3								
4	生活の場での精神保健を理解できる	1) 生活の場での危機状況と精神保健	(1) 学校での危機状況と精神保健 (2) 地域での危機状況と精神保健				講義	
5	自分のストレスコーピングに必要なことを理解できる	1) ストレスコーピング 2) 看護師のメンタルヘルス	1) 危機理論とストレスコーピング (1) 危機理論 (2) ストレスとコーピング 2) 看護師のメンタルヘルス (1) 感情労働と看護 (2) 燃え尽き症候群 (3) 看護師のメンタルヘルスの支援				講義	

回数	単元目標	学 習 内 容		学習形態
6	精神保健医療の変遷や、現状と課題を理解できる	1) 精神保健医療の変遷 2) 現状と課題	(1) 諸外国における精神保健医療の現状 (2) 日本における精神保健医療の変遷 (3) 日本における精神保健医療の現状と課題、看護師の役割	講義
7	精神保健活動、法・制度を理解できる	1) 精神保健活動 2) 精神障害を持つ人を守る法・制度	1) 精神保健活動 (1) 精神科リハビリテーション 2) 精神障害を持つ人を守る法・制度 (1) 精神保健福祉法（入院形態含む） (2) 障害者基本法 (3) 障害者総合支援法 (4) その他の法・制度	講義
8	精神障害を持つ人の人権擁護とはどういうことか理解できる	1) 精神障害を持つ人の人権擁護について	(1) アドボカシー (2) 隔離・拘束 (3) 事例を通して、精神障害を持つ人の人権擁護とはどういうことか理解する	講義 GW
評価方法	筆記試験、平常考査、レポート等で総合的に評価する			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 2 医学書院			
参考図書	国民衛生の動向			

2 年次（35期生）

基礎分野

1. 考え方

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野である各看護学を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力・ICT活用能力を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをととして、看護を学ぶための資質を培い、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。

2. 目的

人間を統合的に理解するための知識を学ぶとともに、科学的・論理的思考力、コミュニケーション能力を身につけ、豊かな感性育み、自ら学修し成長し続ける能力を養う。

3. 目標

- 1) 看護に応用できる科学的思考の基礎を身につける。
- 2) 思考の形成、法則を学び、論理的思考や文章表現力を養う。
- 3) 国際化・情報化社会に対応できる能力及びICTを活用するための能力を養う。
- 4) 人格の形成、発達心理などについて学び、人間への理解を深める。
- 5) 人間の生活や社会的役割を知り、社会的存在としての人間を理解する。
- 6) 人間の存在、価値観、ものの見方を理解し、自己理解を深める。

4. 科目構成

	科 目	単位数	時間数	学 年 別		
				1 年	2 年	3 年
科学的思考の基盤	人間関係論	1	15	1 (15)		
	日本語表現法	1	15	1 (15)		
	自然科学総論（生物・化学の基礎）	1	30	1 (30)		
人間と生活、社会の理解	生活と科学	1	30	1 (30)		
	情報科学	1	15	1 (15)		
	情報リテラシー	1	15	1 (15)		
	社会学	1	30	1 (30)		
	教育学	1	15		1 (15)	
	哲学	1	15	1 (15)		
	心理学	1	30	1 (30)		
	医療に関する英会話	1	30	1 (30)		
	医療に関する英文読解	1	30			1 (30)
	文化人類学	1	15		1 (15)	
	パフォーマンス論	1	30	1 (30)		

科目名	教育学			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 後期		担当者	野村宏次			
設定理由	看護という営みの水準を上げるためには、教育学的教養を身につけてもらうための授業が必要である。						
科目目標	教育学を学ぶことが、将来、看護師としての水準を高めることにつながるとの認識を持ってもらえるための一助となるような授業にしたい。(DP1、DP2、DP3)						
講義内容	1. 人間の成長と教育の意義 教育は「人間」を相手にする／意図的な人間形成作用としての教育 2. 教育の目的 教育目的における個人と社会／包括的目的から具体的目標へ 3. 家庭教育 家庭での教育の性格／現代の家庭と教育の問題 4. 生涯学習支援の社会教育 学習社会から生涯学習社会へ／人間性の回復と社会教育 5. 学習指導 学習指導の意義／学習指導の原理／学習指導の形態 6. 生活指導 目標にそった方法／人間的ふれあいが基盤／集団指導 7. 教育評価 教育評価の意義と目的／自己評価とフィードバック 8. 看護と教育						
評価方法	出席状況、授業態度、課題レポートの結果から、総合的に評価する。						
使用テキスト	なし						
備考	参考資料を随時配布する。						

科目名	文化人類学			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期			担当者	杉井 純一		
設定理由	グローバル化の時代、日本でも普通の人たちが世界中の人々と日常空間を共にするのが当たり前になっています。本講義では、文化人類学の諸テーマの内、特に生命と宗教をめぐる諸問題に焦点を当てながら、多様な文化を持つ人々との共存について各自が考えていくきっかけを作っていけたらと考えています。						
科目目標	さまざまな文化を学び、多様な文化・社会・価値観があることを理解する。国際社会と日本文化・社会・価値観を比較考察する。(DP1、DP2、DP4)						
講義内容	1. 人間と文化 1) 文化人類学とは何か 2) 文化とは何か 2. アイデンティティとジェンダー 1) アイデンティティ 2) ジェンダー 3) セクシュアリティ 3. 婚姻と家族 1) 婚姻 2) 家族 4. 人生と通過儀礼 1) 儀礼の種類と構造 2) 人生儀礼 5. 宗教と世界観 1) 呪術と病気 2) 神話とコスモロジー 6. 健康・病気・医療 1) 健康と病気 2) 医療の文化的体系 7. 人間と死 1) 医療と死 2) 死者儀礼と不浄観念 8. 健康リスク						
評価方法	成績は、終講試験と平常点(感想文)から総合的に判断します。						
使用テキスト	使用しません。授業時にプリントを配ってそれに基づいて講義を進めます。また、適宜、関連する映像を視聴し、その感想文を書くことがあります。						
参考図書	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 波平恵美子編 医学書院						

専門基礎分野

1. 考え方

専門基礎分野は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。

2. 目的

人体の構造と機能を学び、看護ケアに必要な日常生活行動の仕組みと意味を理解する。また、健康から疾病に至る変化のプロセスと回復を促進させるメカニズムを理解するとともに、対象の健康生活を支える保健医療福祉についての理解を深め、看護実践に必要な基礎的知識を養う。

3. 目標

- 1) 人体の構造と機能および機能障害と回復の促進について理解する。
- 2) 系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。
- 3) 保健医療福祉の動向と制度を理解し、保健医療福祉に関係する職種の役割を理解する。
- 4) 医療従事者に関する法律を知り、医療従事者としての義務と責任を理解する。

4. 科目構成

	科 目	単位数	時間数	学 年 別		
				1 年	2 年	3 年
人体の構造と機能	人体の構造	1	30	1 (30)		
	生命の維持機能	1	30	1 (30)		
	生体の調節機能	1	30	1 (30)		
	生活過程を整えるための形態機能学	1	15	1 (15)		
	生化学	1	30	1 (30)		
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床生理Ⅰ	1	15	1 (15)		
	臨床生理Ⅱ	1	15	1 (15)		
	病理学	1	15	1 (15)		
	微生物と生体防御	1	30	1 (30)		
	生命の維持機能の障害と治療	1	30		1 (30)	
	生体の調節機能の障害と治療Ⅰ	1	30		1 (30)	
	生体の調節機能の障害と治療Ⅱ	1	15		1 (15)	
	薬物療法の基礎	1	30	1 (30)		
	麻酔と手術療法	1	30		1 (30)	
	リハビリテーション治療の基礎	1	15	1 (15)		
	栄養と食事療法	1	15		1 (15)	
健康支援と社会保障制度	医療のあゆみ	1	15	1 (15)		
	公衆衛生の基本と法制度及び保健活動	1	30		1 (30)	
	社会保障制度と社会福祉活動	2	30			1 (30)
	医療と法律	1	15			1 (15)
	医療マネジメント	1	15			1 (15)

科目名	麻酔と手術療法			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期		担当者	ハシチウオヴィッチトマシュ、岡本友好 儀武路雄、加藤直樹、下村達也			
設定理由	各重要臓器の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療について理解を深め、看護のアセスメントに活かしていく。						
科目目標	1. 各疾患をもつ患者の身体アセスメントの基礎的知識を学ぶ。(DP1、DP4) 2. 各疾患をもつ患者の病態生理と主な症状を理解する。(DP1、DP4) 3. 各疾患をもつ患者の主な検査と治療法を理解する。(DP1、DP4)						
講義内容	1. 麻酔療法：6時間 1) 外科的侵襲と生体反応 2) 麻酔 3) 酸素療法と人工換気 4) 疼痛管理 2. 消化器系疾患の主な症状と病態、検査と手術療法：8時間 (食道がん、胃がん、肝臓がん、膵臓がん、大腸がん) 3. 呼吸器系疾患・乳腺疾患の主な症状と病態、検査と手術療法：4時間 (肺がん、乳がん) 4. 循環器系疾患の主な症状と病態、検査と手術：4時間 (心筋梗塞、弁膜症) 5. 腎・泌尿器系の主な症状と病態、検査と手術療法：4時間 (腎がん、膀胱がん、前立腺がん) 6. 脳神経系疾患の主な症状と病態、検査と手術療法：4時間 (脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳腫瘍、頭部外傷)						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	別巻 臨床外科看護総論 医学書院 新体系看護学全書 成人看護学② 呼吸器 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学③ 循環器 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑤ 消化器 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑥ 脳・神経 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑦ 腎・泌尿器 メヂカルフレンド社						
備考							

科目名	生命の維持機能の障害と治療			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期		担当者	齊藤 健、山下 諒、森本 智、平野景太 他			
設定理由	各重要臓器の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療について理解を深め、看護のアセスメントに活かしていく。						
科目目標	1. 各疾患をもつ患者の身体アセスメントの基礎的知識を学ぶ。(DP1、DP4) 2. 各疾患をもつ患者の病態生理と主な症状を理解する。(DP1、DP4) 3. 各疾患をもつ患者の主な検査と治療法を理解する。(DP1、DP4)						
講義内容	1. 呼吸器系疾患の主な症状と病態、検査と治療：6時間 (肺炎、気管支炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息) 2. 循環器系疾患の主な症状と病態、検査と治療：8時間 (心不全・ショック、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、高血圧、閉塞性動脈硬化症) 3. 血液・造血器系疾患の主な症状と病態、検査と治療：4時間 (多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、白血病) 4. 腎・泌尿器系疾患の主な症状と病態、検査と治療：6時間 (腎炎、腎不全、慢性腎臓病、 5. 感染症・アレルギー系疾患の主な症状と病態、検査と治療：6時間 (自己免疫疾患、膠原病、関節リュウマチ)						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	新体系看護学全書	成人看護学②	呼吸器	メヂカルフレンド社			
	新体系看護学全書	成人看護学③	循環器	メヂカルフレンド社			
	新体系看護学全書	成人看護学④	血液・造血器	メヂカルフレンド社			
	新体系看護学全書	成人看護学⑦	腎・泌尿器	メヂカルフレンド社			
	新体系看護学全書	成人看護学⑨	感染症/アレルギー・免疫/膠原病	メヂカルフレンド社			
備考							

科目名	生体の調節機能の障害と治療Ⅰ			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期		担当者	藤本 啓、小池和彦、伊藤寿啓、竹内哲也、山口雅人			
設定理由	各重要臓器の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療について理解を深め、看護のアセスメントに活かしていく。						
科目目標	1. 各疾患をもつ患者の身体アセスメントの基礎的知識を学ぶ。(DP1、DP4) 2. 各疾患をもつ患者の病態生理と主な症状を理解する。(DP1、DP4) 3. 各疾患をもつ患者の主な検査と治療法を理解する。(DP1、DP4)						
講義内容	1. 消化器系疾患の主な症状と病態、検査と治療：10時間 （潰瘍性大腸炎、クローン病、炎症性腸疾患、胃・十二指腸潰瘍、胆道疾患、膵臓疾患、肝炎、肝硬変、肝癌） 2. 内分泌・代謝系疾患の主な症状と病態、検査と治療：6時間 （高尿酸血症、脂質異常症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患） 3. 運動器系の疾患の主な症状と病態、検査と治療：10時間 （整形外科総論、炎症・変性疾患、外傷と骨折、脊髄損傷、股関節疾患） 4. 皮膚系疾患の主な症状と病態、検査と治療：4時間 （アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、悪性黒色腫、熱傷）						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	別巻 臨床外科看護総論 医学書院 新体系看護学全書 成人看護学⑤ 消化器 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑧ 内分泌/栄養・代謝 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑪ 運動器 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑫ 皮膚/眼 メヂカルフレンド社						
備考							

科目名	生体の調節機能の障害と治療Ⅱ			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期		担当者	仙石鍊平、加畑好章 他			
設定理由	各重要臓器の正常な構造と機能を理解し、その機能が障害を起こす際の病態生理、臨床における検査や治療について理解を深め、看護のアセスメントに活かしていく。						
科目目標	1. 各疾患をもつ患者の身体アセスメントの基礎的知識を学ぶ。(DP1、DP4) 2. 各疾患をもつ患者の病態生理と主な症状を理解する。(DP1、DP4) 3. 各疾患をもつ患者の主な検査と治療法を理解する。(DP1、DP4)						
講義内容	1. 脳神経系疾患の主な症状と病態、検査と治療：6時間 (脳疾患、重症筋無力症、ギランバレー症候群、筋萎縮性側索硬化症) 2. 耳鼻咽喉系疾患の主な症状と病態、検査と治療：4時間 (咽頭がん、喉頭がん、難聴、メニエール病) 3. 眼科系疾患の主な症状と病態、検査と治療：4時間 (網膜症、緑内障、白内障、角膜疾患) 4. 歯科疾患の主な症状と病態、検査と治療：2時間 (う歯、歯周疾患、口内がん)						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 成人看護学⑥ 脳・神経 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑬ 耳鼻咽喉/歯科・口腔 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 成人看護学⑫ 皮膚/眼 メヂカルフレンド社						
備考							

科目名	栄養と食事療法			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期		担当者	小沼宗大			
設定理由	対象者の食生活や栄養状態をアセスメントし、適切な看護援助を行うために必要な栄養療法の基本的知識を学習する。						
科目目標	健康にとっての栄養の意義および病態と栄養について理解する（DP1、DP4）						
講義内容	1．栄養の成り立ち 2．各栄養素の役割 3．臨床栄養の意義と食事療法 4．臨床栄養学各論 疾患別食事療法の実際 ① 内分泌疾患 ② 腎疾患 ③ 血液疾患 ④ 骨粗鬆症 ⑤ アレルギー疾患 ⑥ 栄養欠陥 ⑦ 代謝疾患 ⑧ 術前・術後患者の食事療法 ⑨ 経腸栄養法 ⑩ 静脈栄養法 5．調理演習						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	なし						
備考							

科目名	公衆衛生の基本と法制度および保健活動			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期		担当者	白土 健			
設定理由	公衆衛生は、人々の命を衛(まも)ることを意味し、公衆衛生学は、人々の命を脅かす疾病や障害を予防するための方法や技術を探究する学問である。社会環境の急速な変化と共に人々の健康リスクも多種多様化する中、公衆衛生(学)が果たす役割は益々大きくなっている。保健師助産師看護師法では、看護師の資質向上が公衆衛生の普及向上に繋がるとしている。本科目では、生活の場やライフステージに応じた様々な健康リスクから人々をまもるために整備されてきた保健医療事業とそれらを規定する法制度を学ぶことによって、人々の健康を保持・増進するための保健活動を担う上で看護師として必要な基礎的能力を涵養する。						
科目目標	1. 健康に影響を及ぼす環境要因について学習した上で、疾病・障害のリスク要因を検証するための科学的手法を理解する(DP3、DP5) 2. 保健統計データを参照し、保健・医療の現状を理解すると共に今後の動向を考察する(DP3、DP5) 3. 地域、職場、学校における組織的な保健活動の具体的な取組みと法制度を理解する(DP3、DP5)						
講義内容	1. 公衆衛生学概論 2. 健康と環境、疫学的方法 3. 健康の指標 4. 感染症とその予防 5. 食品保健と栄養 6. 生活環境の保全 7. 医療・介護の保障制度 8. 地域保健活動 9. 母子保健 10. 産業保健 11. 学校保健 12. 精神保健福祉 13. 生活習慣病(成人保健) 14. 生活習慣病(老人保健)・難病対策 15. まとめ						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	系統看護学講座 健健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生 医学書院						
備考							

基礎看護学

1. 考え方

基礎看護学は、基礎科目・専門基礎科目での学びを基に看護学を展開する上での礎となる科目であり、看護学の帰結点となる科目である。また、学生にとっては、看護を学ぶ最初の専門科目である。

今まで、基礎分野・専門基礎分野で看護の対象である「人間」について理解してきたが、さらに看護の対象としての「人間」についての理解を深めていく。また、「健康」の概念や人間をとりまく「環境」について理解し、「看護とは何か」の理解につなげていく。

基礎看護学は、講義・実技・実習で構成し、これらで習得した知識・技術・態度がその後に続く各領域の看護および臨床判断能力の基盤となる。基礎看護学の講義・実技の終了後、臨床看護演習(シュミレーション)で今までの学習内容を統合、応用しながら看護実践を行う機会をつくり、自己の課題を明確にしてこの先に続く専門領域の学習ができるようにする。

2. 目的

看護の対象としての人間、人間にとっての環境、人間のライフサイクルにおける健康の意義、看護の概念と保健医療福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

3. 目標

- 1) 看護をとりまく主要概念(看護・人間・健康・環境)を理解し、保健医療福祉における看護の役割を理解する。
- 2) 看護を実践するための基礎となる知識・技術・態度を理解する。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
看護学概論	1	30	1 (30)		
看護理論と看護の歴史	1	15	1 (15)		
看護倫理	1	15	1 (15)		
看護基本技術	1	30	1 (30)		
フィジカルアセスメント	1	30	1 (30)		
日常生活の援助技術	1	30	1 (30)		
日常生活の援助技術の実際	1	45	1 (45)		
診療に伴う援助技術	1	30	1 (30)		
診療に伴う援助技術の実際	1	45	1 (45)		
臨床看護演習	1	30	1 (30)		
看護過程の展開	1	30		1 (30)	
合 計	11	330	10(300)	1 (30)	

科目名	看護過程の展開				単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期			担当者	河野直美、専任教員			
設定理由	看護を実践することは、対象者に実在または潜在する健康問題と生活過程に対する反応を判断し対処していくことである。そのためには、問題解決思考に基づくアセスメント、問題の特定、計画、実施、評価というステップを踏む必要がある。看護の実践とケアの質を高めるためには、問題解決思考に基づく技術の習得が必要である。 本講義ではナイチンゲール看護論と科学的看護論を使い、看護過程の展開方法を理解する。							
科目目標	看護過程の展開に必要な知識・技術を習得し、看護過程が展開できる。(DP3)							
回数	単元目標	学 習 内 容					学習形態	
1～8	看護過程の意義と構成要素・基本的な考え方を理解する。	看護過程の意義 看護過程の展開方法	1. 看護過程とは 1) 看護過程の意義 2) 看護過程の構成要素 3) 看護過程の展開に必要な知識と技術 2. 看護過程の展開方法 1) 情報の収集(No.1-1・2) 2) 情報の分析(No.2-1・2) 3) 目標設定(No.2-3) 4) 看護計画(No.3) 5) 実施 6) 評価					講義
9～15	事例を通して看護過程の展開ができる。	事例展開	1. 情報の収集(No.1-1・2) 1) 記録からの情報収集 2) 模擬患者からの情報収集(演習) 2. 情報の分析 1) 回復するために必要な条件(No.2-1) 2) 日常生活の規制と援助の方向性(No.2-2) 3. 目標設定(No.2-3) 1) 優先順位の決定 2) 中位目標・上位目標の設定 4. 看護計画(No.3) 1) 下位目標の立案					GW (演習)

評価方法	課題の状況・グループワークの参加度を統合して評価する。
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 科学的看護論 薄井坦子著 日本看護協会出版会
参考図書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能1 新体系 看護学全書 成人看護学② 呼吸器 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 成人看護学⑤ 消化器 メヂカルフレンド社
受講上の留意点	1. 受持ち患者記録用紙は、ファイルに綴じて提出または持参する。 2. GW(演習)は、自己学習および事前課題を提出した上で臨む。

地域・在宅看護論

1. 考え方

日本において少子・高齢社会が進展し、人口減少、生産年齢人口の減少が課題となり、人口および疾病構造の変化に応じた医療体制の整備が急務であり、従来の病院完結型の医療から、地域で「治し支える医療」へと転換し、地域包括ケアシステムの構築を推進している。これからの看護師には、その中で役割を遂行することが求められる。同時に、人々との関係も医療従事者主導ではなく、地域で生活する人々が主体となり、その人々と医療従事者とのパートナーシップに基づくものに、変化する必要がある。

このような社会情勢の変化に伴い、地域・在宅看護論では、地域包括ケアシステムを軸に切れ目のない看護を提供するために、地域で生活するあらゆる人々とその家族、またさまざまな健康の段階にある人々の健康と生活を理解し、それらを支えるための制度やマネジメント、多職種連携・協働をすることの意義、地域における多様な場での看護の基礎を学ぶことをねらいとする。

2. 目的

地域で生活する人々とその家族の特性を理解し、地域での健康と生活を支えるために必要な知識・技術・態度を習得する。

3. 目標

- 1) 地域で生活する人々と家族の健康と生活を支援する方法を理解できる。
- 2) 地域で生活する人々と家族の健康状態と生活環境に応じた援助を理解できる。
- 3) 地域・在宅看護に対する社会的ニーズ及び動向について知り、看護の役割について理解できる。
- 4) 地域で生活する人々を支える社会資源と多職種について理解できる。
- 5) 地域で生活する人々の多様な価値観について理解できる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
地域・在宅看護概論	1	15	1 (15)		
在宅看護を支える社会資源とケアシステム	1	15		1 (15)	
家族看護論	1	15		1 (15)	
在宅における援助の基本技術	1	30		1 (30)	
在宅における生活援助技術の実際	1	30		1 (30)	
がん看護	1	15		1 (15)	

科目名	在宅療養を支える社会資源とケアシステム				単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期			担当者	遠山寛子			
設定理由	地域・在宅で療養する人々を支える社会資源について学び、地域で生活し続けるためのマネジメントについて理解する。							
科目目標	在宅療養を支える社会資源やケアシステムについて学び、地域・在宅看護の役割を理解する。(DP1、DP5)							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1	在宅療養の対象を理解できる	在宅看護対象者	1. ガイダンス 2. 医療機器を装着している療養者を理解する(PEG、HOT、ポート、IVH)				講義 DVD視聴	
2	在宅療養を支える家族を理解できる	在宅療養を支える家族	1. 認知症高齢者を支える家族を理解する 2. 終末期の療養者				講義 DVD視聴	
3	在宅療養を支える社会資源について理解できる	在宅療養で活用する社会資源－1	訪問看護を支える制度(介護保険・医療保険)を理解する				講義	
4	在宅療養を支える社会資源について理解できる	在宅療養で活用する社会資源－2	障がい者総合支援法、難病支援事業について理解する				講義	
5	ケアシステムにおける看護師の役割を理解できる	ケアマネジメント－1	1. 在宅療養に関わる多職種について理解する 2. 多職種の連携について理解する				講義	
6	ケアシステムにおける看護師の役割を理解できる	ケアマネジメント－2	1. 事例についての基礎知識の確認をする 2. 事例を通して、ケアマネジメントを理解する				演習 講義	
7	療養者を取りまく地域包括ケアシステムについて理解できる	関連図を書こう①	1. 事例に関する関連図を作成する 2. 作成した関連図から、課題とそれを解決しうる支援を理解する				GW	
8	在宅療養を支える社会資源やケアシステムの中での看護師の役割について理解できる	関連図を書こう②	1. 各グループで作成した関連図を統合し、全体を理解する 2. まとめ				GW 発表	

評価方法	筆記試験
使用テキスト	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論② 医学書院
参考図書	症状別看護過程(照林社)
留意点	積極的発言をしてください

科目名	在宅における援助の基本技術				単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期			担当者	伊藤百合子、総合医療支援センター師長 訪問看護認定看護師			
設定理由	在宅において療養者とその家族に対する看護をするために必要な、基本的態度や面接技術について学ぶ。その中で、在宅療養者とその介護者との人間関係づくりのプロセスについて考える。健康レベルに応じた看護や場の移行に伴う看護について学び、切れ目のない看護のあり方について考える。							
科目目標	1. 健康レベルに応じた看護や場の移行に伴う看護について理解する(DP1、DP4、DP5) 2. 在宅看護の基本姿勢と家庭を訪問するときの看護師のあり方を理解する(DP2、DP3) 3. 在宅における看護過程を理解する(DP4)							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1～3	地域において看護が提供される場と、地域における看護の役割について理解できる。	看護が提供される多様な場	看護が提供される多様な場について考えよう 地域にある療養通所介護事業所、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、地域包括支援センターなどを調べる				個人ワーク GW	
4	在宅療養の場における外来受診期の支援について理解できる。	切れ目のない看護の提供「外来受診期」	1. 外来での在宅療養支援				講義	
5	療養の場の移行時において看護師が行う支援について理解できる。	切れ目のない看護の提供「療養の場への移行」	1. 退院調整、退院支援				講義	
6	在宅療養の場の移行期における病状の変化と在宅療養の場におけるリハビリテーションの意義と援助方法、生活過程を整える援助について理解できる	切れ目のない看護の提供「在宅療養の移行期」「在宅リハビリテーション」	1. 在宅療養移行期のアセスメント 2. 在宅看護におけるケアマネジメント 3. 生活リハビリテーションの基本 4. 障害や状態に応じた生活リハビリテーション				講義	
7	病状変化のアセスメントと急性増悪期の援助と在宅における終末期の看護について理解できる。	切れ目のない看護の提供「終末期・在宅での見取りの実際」	1. 症状アセスメント 2. 終末期ケアの実際 3. 見取りのケア				講義	
8・9	訪問看護導入のプロセスと在宅療養者および家族との信頼関係成立の方法を、グループワークを通して、理解できる。	家庭訪問・初回訪問を考える(演習)	鈴木太郎さん宅への初回訪問を考えよう ・訪問看護計画の立案 ・看護師の行動計画の立案				GW	
10・11		家庭訪問・初回訪問を考える(発表)	ロールプレイ・まとめ(在宅実習室)				発表	

回数	単元目標	学 習 内 容		学習形態
12～14	訪問看護における看護過程の特徴と記録の意義や留意点について理解できる	在宅における看護過程	在宅看護過程を考える 鈴木太郎さんの初回訪問で得られた情報から、看護過程を考える。	講義 個人ワーク GW
15		ケアマネジメント (サービスの調整)	療養者と家族が望む暮らしの確保と継続のためのケアマネジメントについて考える。	GW
評価方法	演習【レポート20点 初回訪問20点 看護過程15点】 筆記試験【45点】			
使用テキスト	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論② 医学書院			
参考図書	臺有桂 他編者 ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版			
留意点	30分以上の遅刻は欠席とする			

科目名	在宅における生活援助技術の実際				単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期			担当者	伊藤百合子、栄養サポートチーム専門療法士、皮膚・排泄ケア認定看護師			
設定理由	療養者および家族とともに管理する視点を持ち、生活の場で行われる援助技術、治療と看護の実際について学ぶ							
科目目標	1. 在宅における日常生活の援助技術の方法を理解する(DP4) 2. 在宅療養に必要な治療と看護の方法を理解する(DP4)							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1	在宅におけるフィジカルアセスメントの意義を理解できる	在宅におけるフィジカルアセスメント	1. 在宅におけるフィジカルアセスメントの意義と方法 2. 在宅における観察の技術とは				講義	
2	療養の場における環境調整と活動の意義を理解できる	療養環境調整と活動と移動の援助方法	1. 在宅における療養環境の特徴と調整 2. 在宅における活動と移動の援助法				講義	
3～4	片麻痺患者の療養者にあった安全な移動への援助ができる	活動と移動の実際	1. 片麻痺患者の移動方法を考える				演習	
5～6	在宅療養の場における食を支えることの意義と、嚥下障害を有する人のアセスメントと支援について理解できる	食事と栄養管理の援助方法	1. 在宅での食生活の特徴 2. 摂食・嚥下障害のある人への援助 3. 経管栄養法(PEGの管理を含む) 4. 中心静脈栄養の管理				講義	
7～8	嚥下障害を有する人のアセスメントと援助ができる	嚥下調整食援助の実際	1. おいしく食べることを支える 2. 加齢に伴う変化 3. 嚥下障害時の食事援助の実際				演習 講義	
9	在宅療養の場における排泄及びその支援について理解できる	排泄援助の方法	1. 在宅における排泄とその援助(浣腸・排便を含む) 2. 在宅での膀胱留置カテーテルの管理				講義	
10	在宅療養における清潔のアセスメントと援助方法を理解できる	清潔の援助方法	1. 在宅における清潔援助方法(清拭・陰部洗浄・洗髪・入浴介助の注意点)				講義	
11～12	褥瘡の特徴とアセスメントについて理解し、褥瘡の状態に応じたケアについて実施できる	褥瘡の予防と看護	1. 褥瘡の特徴と要因 2. アセスメント リスク・状態・治癒過程 3. 褥瘡予防 4. 褥瘡の状態に応じたケア				講義 演習	

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容		学習形態
13	在宅療養の場における呼吸管理の意義と在宅酸素療法の援助方法について理解できる	安楽な呼吸への援助方法①	1. 呼吸のアセスメントとセルフケアのため援助 2. 在宅酸素療法 (HOT) を受ける療養者の援助	講義
14		安楽な呼吸への援助方法②	1. 在宅人工呼吸療法 (HMV) を受ける療養者の援助	講義
15	在宅看護における危機管理の原則と基本、災害時の支援について理解できる	在宅における安全と健康危機管理	1. 在宅における危機管理 2. 日常生活における安全管理 3. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義
評 価 方 法	筆記試験			
使用テキスト	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論② 医学書院			
参 考 図 書	角田直枝著 よくわかる在宅看護 改訂第3版 学研 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社			
留 意 点	30分以上の遅刻は欠席とする			

科目名	家族看護論				単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期			担当者	家族支援専門看護師・専任教員			
設定理由	在宅看護では、家族を援助の対象としてとらえ、家族に対する理解が欠かせない。家族看護の基本的な考え方、現代の家族の特徴、理論を活用した家族のとらえ方、家族の病気体験を理解する視点、主要な看護アプローチなどについて学ぶ。							
科目目標	1．現代家族の特徴と健康問題を知り、家族看護の必要性を理解する(DP1、DP2) 2．家族看護の基盤となる家族看護理論とその実践への活用方法を理解する。(DP1、DP2)							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1	家族という存在が持つ特徴と現代の家族とその課題について理解する	家族看護とは	1．家族とは 2．家族構造 3．現代の家族とその課題				講義	
2	家族看護の基盤となる家族看護理論とその実践への活用方法を理解できる	家族看護を考える理論と介入方法	1．家族を理解するための理論 ・家族発達理論 ・家族システム理論 2．家族の変化を把握するための理論 ・家族ストレス対処理論				講義	
3	家族の健康問題を解決する家族アセスメントの方法について理解できる	家族看護展開の方法	1．家族看護過程の実践 2．家族アセスメントモデル				講義	
4	事例の家族の病気体験を分析し、事例の家族の援助方法について理解できる	家族看護の実際① 病気の急変に直面している患者の家族	1．急性期にある成人患者と家族				講義	
5		家族看護の実際② 終末期にある療養者と家族	1．在宅で終末期を迎える療養者と家族				講義	
6		家族看護の実際③ 認知症の高齢者と家族	1．在宅で療養する認知症の高齢者と家族				講義	
7		家族看護の実際④ 精神疾患を持つ療養者と家族	1．在宅で療養する精神疾患を持つ療養者と家族				講義	
8		家族看護の実際⑤ 長期にわたり病と付き合っている家族	1．長期の療養が必要な小児療養者と家族				講義	

評価方法	筆記試験
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 医学書院（精神疾患を持つ療養者と家族で使用）
参考図書	鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子著 家族看護学 理論と実践 第5版 日本看護協会出版会
留意点	30分上の遅刻は欠席とする

科目名	がん看護			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 後期		担当者	専任教員、放射科医師、 がん化学療法看護認定看護師、 がん放射線療法看護認定看護師			
設定理由	日本における死因の第1位はがんである。診断・治療の著しい進歩により、がんを経験しながら生きている人たち(がんサバイバー)が増加し、地域で生活しながら療養している。がん患者の治療過程における様々な問題と、その人らしい生活を継続するための看護援助方法について学ぶ。						
科目目標	1. がんとがん治療に伴う問題と看護援助の方法について理解できる(DP4) 2. がん患者の意思決定と支援のあり方について理解できる(DP4)						
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態	
1	がん疾患の現状とがん患者の支援のあり方について理解できる	がん看護とは	1. 日本におけるがん医療・看護の歩み 2. がんの統計・原因と予防 3. がんと共に生きる患者と家族 4. がん患者の意思決定			講義	
2	がん放射線療法について理解できる	放射線療法を受ける人の看護①	がんと放射線治療法			講義	
3		放射線療法をうける人の看護②	1. 画像診断 2. 放射線防護の基本			講義	
4		放射線療法を受ける人の看護③	1. 放射線療法における看護の実際			講義	
5	がん化学療法について理解できる	化学療法を受ける人の看護①	1. 化学療法 2. 化学療法の効果と有害事象の対策 3. 安全な投与へのケア 4. 日常生活指導			講義	
6		化学療法を受ける人の看護②	1. 血液・造血器腫瘍の看護			講義	
7	がんの進展に伴う症状とマネジメントについて理解できる	がんの進展に伴う症状と症状マネジメント	1. がんの症状マネジメント 2. 緊急病態に対する症状マネジメント			講義	
8	在宅でがんを抱える人と援助の実際について理解できる	在宅におけるがん患者への看護	1. 在宅でのがん患者への援助 2. がんと共に生きる患者と家族への支援			講義	

評価方法	筆記試験
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
参考図書	
留意点	30分以上の遅刻は欠席とする

成人看護学

1. 考え方

成人期は成長・成熟・衰退の過程にあり、人生の中で最も長く、変化に富んだ時期である。また、身体的特性、生活特性、個人に課せられた役割期待などが統合された社会的存在である。成人の健康は生活習慣や環境・労働ストレスに影響を受けやすく、それらによって引き起こされる様々な健康問題を抱えている。対象は、成人期の役割を果たすために、患者役割を遂行しながら多様な役割と責任を果たしていく存在である。

そこで、成人看護学では、多様な健康状態に合わせ、生活スタイルや価値観、家族背景を踏まえ、その人らしい生活が営めるよう支援するための知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目的

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護実践できる知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 成人各期の特徴を捉え、成人看護の役割を考えられる。
- 2) 健康問題を持つ成人への看護に必要な知識・技術が習得できる。
- 3) 成人期の健康障害を理解し、対象とその家族に応じた看護が考えられる。
 - (1) 手術や救命救急治療により、健康の危機状況にある人への看護が理解できる。
 - (2) 慢性的な疾患をもつ人のセルフマネジメントに向けての看護が理解できる。
 - (3) 中途障害を受けた人のセルフケア再獲得に向けての看護が理解できる。
 - (4) 緩和ケア・終末期ケアを必要とする人への苦痛の緩和とQOLの維持に向けた看護が理解できる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
成人看護学概論	1	15	1 (15)		
クリティカルケア看護	1	15		1 (15)	
周手術期の看護	1	30		1 (30)	
セルフマネジメントに向けての看護	1	30		1 (30)	
セルフケア再獲得に向け得ての看護	1	30		1 (30)	
緩和ケア・終末期の看護	1	15		1 (15)	

科目名	クリティカルケア看護			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期		担当者	齋藤友紀子、集中ケア認定看護師 臨床工学士、救急看護認定看護師 大谷 圭(救急部医師)			
設定理由	クリティカルな患者に対して、生命の危機から脱することができるように、生体反応を緩和し、現在ある機能を最大限に高める治療が集中的に行われる。その目的を果たすために医療チームである医師・看護師・臨床工学技士などがそれぞれの専門性を発揮し、医療を提供する。ここでは、成人にとって健康を脅かす危機について理解し、重度の急性機能障害を最小限にとどめ、回復を促進するために必要な看護について学ぶ。						
科目目標	救命救急治療を必要とする人の健康危機状況と看護の特徴を理解できる。(DP1、DP4)						
回数	学 習 内 容						学習形態
1	クリティカルケア看護の特徴	1. クリティカルケア看護とは 1) クリティカルケア看護の定義 2) 生命の危機状況を引き起こす原因 3) クリティカルケア看護における看護師の役割 4) クリティカルケアにおける医療チーム 5) クリティカルケアにおける倫理的課題 2. 危機状況にある人の心理的・精神的混乱(危機)への看護 1) 危機発生のプロセス 2) 危機理論(フィンの危機モデル、アギュララとメズイックの危機モデル) 3) 心理的・精神的反応に対する看護					講義
2	救急医学と救急処置	1. 救急が主に担当する医療 1) 心停止 2) 各種重症疾患とその初期対応 3) 応急処置(外傷、熱傷、熱中症など) 4) 災害医療(コロナ感染症を含む)					講義 大谷
3 4	救急救命の必要な状況にある人の看護	1. 救急救命と救急看護 2. 死の概念と脳死判定 3. 救急看護の観察とアセスメント 1) 全身状態の基本的観察と評価 2) 緊急度と重症度の評価とトリアージ					講義 認定看護師
5	集中治療の場と生命危機を回避するための援助	1. 集中治療とは 2. 集中治療を受ける患者の特徴 3. 集中治療での看護師の役割 4. 集中治療を受ける患者の看護 1) 循環管理(スワン-ガンツカテーテル、IABPなど) 2) 呼吸管理と人工呼吸器装着中の管理					講義 認定看護師

回 数	学 習 内 容		学習形態
6	特徴的な病態・疾患の看護	I. ショック状態にある患者への看護 1. ショックとは 2. 各ショックに対する看護 3. ショックの判断 4. ショック時の対応 II. 熱傷を受けた患者の看護 1) 熱傷の重症度判定(熱傷深度と熱傷面積) 2) 熱傷各期の病態と援助	講義
7	クリティカルケア看護に必要な看護技術	人工呼吸器の取り扱い	臨床工学士
8		人工呼吸器装着中の看護 (点滴静脈内注射中の患者の寝衣交換含む)	講義・演習
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	臨床外科看護総論 医学書院、臨床外科看護各論 医学書院		
参考図書	周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ、 高齢者と成人の周手術期看護 1、2、3、医歯薬出版株式会社		
留意点			

科目名	周手術期の看護			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期～後期		担当者	齋藤友紀子、手術室看護師、 脳卒中リハビリテーション認定看護師			
設定理由	手術療法という侵襲的治療は、個人にとって大きな危機であり、日常の周囲のサポートやセルフケアだけでは、危機を回避できない。ここでは、手術療法を必要とする人が、その治療を受け入れられるような精神状態を築き、手術侵襲に対し生体のもつ治癒力で克服し、回復を促進できるようにその時期に応じた看護について学ぶ。 また、成人期の特徴をふまえて、看護の立場から対象の健康に関わる問題を明らかにし、その問題を解決していく過程を学び、周手術期にある人の看護において必要な看護技術が習得できるよう演習を実施していく。						
科目目標	手術による侵襲的治療を受ける人の健康危機状況と看護の特徴を理解できる。(DP4)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1	侵襲的治療としての手術療法の 特徴	1. 手術と周手術期看護 2. 手術侵襲と生体の反応 3. 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割				講義 (臨床外科 総論)	
2	手術による身体機能の悪化の予 測とその状況に応じた準備	1. 手術に向けた心理・身体準備 1) 手術療法を受ける人の意思決定を支える看護 2) 患者が最良の状態で手術に臨むための準備 (術前アセスメント) 3) 術後の回復の促進、術後合併症を予防するた めの準備(術前オリエンテーション、術前訓練) 2. 手術前日・当日の看護				講義 (臨床外科 総論)	
3	手術侵襲を最小にとどめるため の援助	1. 手術室看護の特徴と役割 1) 器械出し看護師と外まわり看護師 2) 手術室における医療チーム 3) 手術室における安全管理 2. 手術室看護の実際 1) 手術室入室時の看護 2) 麻酔導入から手術中の看護 (術中モニタリング、体温管理、体位管理など) 3) 手術終了時の看護 4) 回復室における看護				講義 (臨床外科 総論) 手術室看護 師	
4	順調な回復を促進するための援助	1. 手術後患者のアセスメント 2. 術後合併症予防のための看護 (無気肺、急性循環不全、術後出血・創感染・縫合 不全(創傷管理・ドレーン管理)、静脈血栓塞栓症 (DVT、PTE)、術後腸閉塞、術後せん妄) 3. 手術侵襲からの回復の促進 (術後ベッド、疼痛コントロール、早期離床) 4. 退院に向けての看護				講義 (臨床外科 総論)	
5							

回 数	学 習 内 容	学習形態
6	開腹術を受ける人の回復への援助 1. 開腹術の特徴 2. 胃切除を受ける患者の看護 1) 胃切除・再建方法と生理的機能の変化 2) 胃切除術後の合併症とその予防 3) 障害された機能に応じた食事指導	講義 (臨床外科各論)
7	内視鏡下の手術を受ける人の回復への援助 1. 内視鏡下手術の特徴 2. 腹腔鏡下胆嚢摘出術を受ける患者の看護 1) 腹腔鏡下手術の特徴 2) 腹腔鏡下手術の合併症とその予防	講義 (臨床外科各論)
8	開胸術を受ける人の回復への援助 1. 開胸術の特徴 2. 肺切除術を受ける患者の看護 1) 肺切除術の特徴 2) 肺を再膨張させるための援助(胸腔ドレーン)	講義 (臨床外科各論)
9	開頭術を受ける人の回復への援助 1. 開頭術の特徴 2. 脳腫瘍摘出術を受ける患者の看護 1) 頭蓋内圧亢進症状とアセスメント 2) 開頭術後の合併症とその予防	講義 (臨床外科各論) 認定看護師
10	周手術期看護演習 1. 演習オリエンテーション 2. 術直後の看護 1) 術直後の看護の計画①	GW
11		2) 術直後の看護の計画② GW
12		3) 術直後の看護の実践 4) 術直後の看護の評価 演習 GW
13		3. 周手術期にある患者の看護過程の展開 1) 看護過程の展開① GW
14		2) 看護過程の展開② GW
15		3) 看護過程の展開③ 発表会 発表会
評価方法	筆記試験、提出物	
使用テキスト	臨床外科看護総論 医学書院、臨床外科看護各論 医学書院	
参考図書	周手術期看護論 ノーヴェルヒロカワ、 高齢者と成人の周手術期看護 1、2、3、医歯薬出版株式会社	
留意点		

科目名	セルフマネジメントに向けての看護			単位数	1	時間数	30
開 講 時 期	2 年次 前期		担当者	加邊隆子、那須詠子、他 糖尿病認定看護師 腎不全看護認定看護師 心不全看護認定看護師			
設 定 理 由	成人期にある対象が、何らかの慢性的な病をもった時に、生活者として病気と家庭生活・社会生活の折り合いをつけながら、自分らしく生きていくことが出来るように支援していくことが大切である。そこで、成人期にあり慢性的な健康障害をもつ対象の特徴や対象及び家族が抱える問題についても理解を深め、その人らしい生活を送るための看護方法を学ぶ。						
科 目 目 標	1. セルフマネジメントの考え方や理論・方法が理解できる。 2. 慢性的な疾患を持つ人が病気に対するセルフマネジメントを行いながら、その人らしい生活を送るための看護方法について理解できる。 3. 事例を通して、セルフマネジメントを支援する実践的な看護方法を理解する。						
回 数	学 習 内 容					学習形態	
1	セルフマネジメントとは		1. セルフマネジメントの概念 2. セルフマネジメント支援の構成要素 3. 病みの軌跡からみた看護の目標			講義	
2	対象理解		1. 身体的特徴 1) 慢性疾患の特徴 2) 疾患の経過の特徴と課題 2. 心理・社会的特徴 1) 疾病の受容過程 2) 疾病受容に伴う課題 3) セルフケアの行動変化ステージ			講義	
3	セルフマネジメントのための教育的支援		1. 成人教育の特徴 2. 自己効力理論 3. エンパワメントアプローチ			講義	
4	セルフマネジメントにおける看護の役割		1. 看護の役割 2. 疾病受容への援助 3. 疾病コントロールのために援助方法 4. 意思決定支援			講義	
5	健康に生きることを支える学習支援		1. 様々な場で行われる学習支援 家庭・学校・職場・地域社会 2. 健康状態の変化に伴う学習支援 外来・入院時・退院時 3. 学習支援の実際 個人・家族・集団			講義	

回 数	学 習 内 容		学習形態
6	血糖調節機能障害のある人の看護	1. 治療と看護 1) 目的と原則 2) 糖尿病治療の指標 3) 食事療法、運動療法、薬物療法 4) 合併症予防に対する援助	講義
7	1. 健康に生きることを支える学習支援 1) 糖尿病患者・家族への支援の実際		講義
8 9	肝機能障害のある人の看護	1. 肝臓の機能 2. 肝生検と看護 3. 肝炎のある人の看護 1) インターフェロン療法と看護 4. 肝硬変のある人の看護 1) 食道・胃静脈瘤の破裂予防 2) 肝性脳症の予防 5. 肝細胞癌のある人の看護	講義
10 11	腎機能障害のある人の看護	1. 腎臓の機能 2. 検査と看護 3. 治療と看護 1) 薬物療法、食事療法、安静療法 2) 透析療法 ・血液透析と腹膜透析	講義
12 13	循環機能障害のある人の看護	1. 心臓の機能 2. 検査・治療と看護 3. うっ血性心不全 1) 急性期と慢性期の看護 2) 心機能を低下させる日常生活の要因と看護	講義
		1) 薬物治療と看護 2) ペースメーカー植え込み患者の看護	講義
14 15	セルフマネジメントが必要な人の看護技術	1. 教育的な関わりを考える 1) 血糖測定の実際 2) インスリン注射の実際 2. 患者指導の実際(ロールプレイ)	演習 GW
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	成人看護技術 慢性看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	病気がみえる シリーズ MEDIC MEDIA		
留意点	「疾病と治療」の講義内容を復習してから臨むこと		

科目名	セルフケア再獲得に向けての看護			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期		担当者	那須詠子、齋藤友紀子、小池 幸 西島真梨、須藤夕紀 皮膚・排泄ケア認定看護師 乳がん看護認定看護師			
設定理由	成人は自立・自律できる存在であり、セルフケア能力が最も高い時期である。しかし中途障害により従来と同じセルフケアを続けることが出来なくなってしまう場合、新たなセルフケアを獲得するまでには、本人やその支援者も多大な努力が必要となる。従って、ここでは成人期にある人がセルフケアを再獲得する支援法について学習する。						
科目目標	1. 成人のセルフケア再獲得とリハビリテーションについて理解できる。(DP4) 2. 中途障害、あるいは身体機能の一部を喪失した機能回復・セルフケア再獲得に向けての看護が理解できる。(DP4)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1 2	成人期にある人のセルフケア再獲得	成人とセルフケア再獲得することの意味 1) セルフケアの低下した成人 2) 中途障害とセルフケア再獲得看護 (1) 「喪失」体験のセルフケア再獲得への意欲 (2) 学習の困難さに合わせた支援 (3) 人的・物的環境の整備				講義 GW	
3	セルフケア再獲得プロセスにおける心理・精神的変化	1. セルフケア再獲得とリハビリテーション看護 1) リハビリテーションの定義 2) 国際障害分類(ICIDH) 3) リハビリテーション看護の方法 2. 障害受容に関する理論とその援助 1) コーンの危機・障害受容モデル 2) 価値転換理論				講義 GW	
4	神経・筋系に障害をもつ対象の看護①	1. 身体を動かす仕組みとは 2. 神経・筋が障害される疾患 3. ALS(筋委縮性側索硬化症)とは 4. 障害とリハビリテーション看護 5. 合併症予防と管理				講義	
5	神経・筋系に障害をもつ対象の看護②	1. 脊髄損傷とは 2. 脊髄損傷のリハビリテーション 3. 障害とリハビリテーション看護 4. 合併症予防と管理				講義	
6	運動器系の障害をもつ対象の看護①	1. 骨折とは 2. ギプス固定時の看護 3. ADL拡大に向けての看護				講義	
7	運動器系の障害をもつ対象の看護②	1. 四肢を喪失するとは 2. 四肢切断術を受ける人の看護 3. 合併症の予防と管理				講義	

回 数	学 習 内 容	学習形態
8	循環器系の障害をもつ対象の看護 1. 虚血性心疾患による心身・生活への影響 2. 心臓リハビリテーションと看護 3. 心機能障害にある対象の生活支援と生活指導	
9	呼吸器系障害をもつ対象の看護 1. 慢性呼吸不全による心身・生活への影響 2. 呼吸リハビリテーションと看護 3. 呼吸機能障害にある対象の生活支援と生活指導	
10	食道を喪失した対象の看護 1. 食道切除・再建方法と生理的機能の変化 再建臓器と再建経路 2. 食道切除術を受けた対象への看護	講義
11	膵臓を喪失した対象の看護 1. 膵臓切除・再建方法と生理的機能の変化 2. 膵頭十二指腸切除術による合併症 3. 退院後の生活に向けた看護 ドレーン管理、栄養管理、退院指導	講義 GW
12	感覚器障害をもつ対象の看護 I. 感覚器障害を持つ対象 1. 感覚器とその役割 2. 感覚器障害を持つことによる影響 II. 頭頸部の手術を受ける対象の看護 1. 喉頭全摘術と生理的機能の変化 2. 喉頭全摘術の合併症とその予防 3. 無喉頭者症候群による生活への影響と看護	講義
13	排泄経路を変更した対象の看護 I. 大腸の手術を受ける患者の看護 1. 大腸切除の術式とそれに伴う生理的機能の変化 2. 大腸切除に伴う合併症と看護	認定看護師 講義
14	II. 人工肛門(ストーマ)を造設する患者の看護 1. 人工肛門の種類 2. 人工肛門造設に向けた看護 (ストーマサイトマーキング、心理的・社会的支援) 3. 人工肛門造設に伴う合併症と看護 4. 人工肛門造設後の社会生活の適応に向けた看護	
15	乳房を喪失した対象の看護 1. 乳がん患者の意思決定を支える看護 2. 乳房切除の術式とそれに伴う問題と看護 (ドレーン管理、上肢の機能障害、リンパ浮腫) 3. ボディーイメージの変容に対する看護	認定看護師 講義
評価方法	筆記試験	
使用テキスト	リハビリテーション看護 医学書院 臨床外科各論 医学書院 成人看護学②③⑥⑫	
参考図書	健康危機状況／セルフケア再獲得 成人看護② メディカ出版	
留意点		

科目名	緩和ケア・終末期の看護			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期		担当者	葛谷辰枝、西島真梨 緩和ケア専門看護師(CNS)			
設定理由	多死社会を迎える社会の要請に伴い、終末期におけるクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上が重要視されている。緩和ケアでは疾患の診断早期から人間が体験する苦痛を全人的にとらえ、その人や家族にとってのQOLを高める看護を学ぶ。						
科目目標	積極的治療が困難な成人とその家族に対する全人的苦痛の緩和、QOLを高めるための看護が理解できる。(DP4)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1	生と死について考える		1. 生とは死とは何か 2. 死生観			講義	
2	エンディングの実際		映画：「エンディングノート」視聴			DVD視聴	
3	緩和ケアの現状と課題		1. 緩和ケア・ホスピスケア・ターミナルケアとは 2. ホスピス、緩和ケアの歴史			講義	
	緩和ケアをめぐる倫理的課題		1. インフォームド・コンセントとインフォームド・チョイス 2. アドバンス・ケア・プテンニング、リビングウィル 3. 安楽死と尊厳死			講義	
4	精神的苦痛の緩和		1. 死にゆく人の心理過程 (キューブラ・ロス、バックマン) 2. 精神的ケア(ケアリング、コミュニケーション)			講義	
	社会的苦痛の緩和スピリチュアルペインの緩和		1. 社会的苦痛へのアプローチ 2. 社会資源の活用(経済的援助他) 3. スピリチュアルペインへのケア				
5	身体的苦痛の緩和		1. がんの痛みのマネジメント (痛みのアセスメント、マネジメント、WHOがん性疼痛治療の5原則)			専門看護師 講義	
2. 代表的な鎮痛薬の種類と使用方法 (モルヒネの副作用、オピオイドローテーション、レスキュー) 3. チームアプローチの実際			専門看護師 講義				

回 数	学 習 内 容		学習形態
7	家族・遺族ケアの概念と援助	1. 家族・遺族ケア 2. 家族の精神的、社会的苦痛 3. 家族の死への気づき 4. 悲嘆のプロセスとグリーフケア 5. 大切なもの	講義
	臨死期のケアの基礎	1. 臨死期のケア 2. 死体現象 3. 死後の処置(エンゼルケア)	
8	心と体の調和を生むケア	看護に使う補助的／代替的療法 (マッサージ・指圧等)	演習
評 価 方 法	筆記試験		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ成人看護学⑦ 緩和ケア(MC メディカ出版)		
参 考 図 書	心とからだの調和を生むケア (へるす出版) がん看護 (医学書院) 基礎看護技術(メヂカルフレンド社)		
留 意 点			

老年看護学

1. 考え方

老年期は、人間の成長発達の最終段階である。老年期を生きる人は、長い人生経験と知恵を持った存在であり、そこから形成された価値観や生活、健康状態、家族関係の一つとして同じものはない。また加齢現象による心身の変化は、生活に影響を及ぼし、自分なりにこだわって生活してきたことを変化させなければならなくなる。

我が国は2007年に超高齢社会を迎え、今後さらに高齢化率は高くなることが予測されている。高齢者を取り巻く保健医療福祉制度は社会のニーズに合わせ変遷している。そして、飛躍的に長くなった老年期を迎え、高齢者には出来る限り自立した生活を送るための健康づくりが求められている。しかしながら、老年期の健康状態は個人差が大きく、保健医療福祉制度のサービスやケアを受けながら生活を送る場合もある。その為、あらゆる健康の段階にあっても本人(家族)が望む生活を実現する支援が必要である。

老年看護学では老年期を生きる人の特徴と生活・生活する社会を理解し、かけがえのない存在として尊重し健やかに老いること、その人が望む生活を送るための看護に必要な知識・技術・態度を学ぶことをねらいとする。

2. 目的

老年期を生きる人の特徴、加齢による生活への影響を理解し、あらゆる健康段階にあってもその人が望む生活を支える看護の基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) 老年期を生きる人の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。
- 2) 老年期を生きる人の保健・医療・福祉制度の動向と諸問題が理解できる。
- 3) 加齢に伴う生活の変化を理解し、生活を支えるための知識と技術が習得できる。
- 4) 老年期を生きる人の健康問題を理解し、あらゆる健康の段階に応じた看護を理解できる。
- 5) 老年期を生きる人の個人史について理解を深め、自己の老年観を持つことができる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
老年看護学概論	1	15	1 (15)		
老いることその支援	1	15		1 (15)	
老年期にある人の健やかな生活を支える看護	1	30		1 (30)	
老年期にある人の健康状態に合わせた看護	1	30		1 (30)	

科目名	老いることとその支援			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期		担当者	那須詠子、河野直美、高橋沙織			
設定理由	世帯の核家族化が進み、若者が老年期にある人と暮らす機会は減少している。老年期にある人をひとりのかけがえのない存在として、その人が生きてきた過程や価値観を尊重した関わりは、学生がもつ老年観に影響される。本科目では学生が高齢者や自らにもやがて訪れる老年期に興味を持ち老いの意味や価値について考え、老年観を養うことを目的とする。						
科目目標	1. 老化が人間に及ぼす影響について説明できる。(DP1、DP2) 2. 人生観や生活が老年観に影響を及ぼすことが分かる。(DP1、DP2) 3. 老いの意味や価値が考えることができる。(DP1、DP6) 4. 自己の老年観・人間観が深めることができる。(DP3、DP6) 5. 老年期にある人が生活しやすい社会について考えることができる。(DP1、DP4、DP5)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1	ガイダンス		1. ゼミナールとは 2. ゼミナールの進め方			講義	
2	ゼミナール 後半生のこころの事典 1		指定された各章を要約、考察し討議内容を決めそれをもとに討論する			GW	
3	ゼミナール 後半生のこころの事典 2		同上			GW	
4	ゼミナール 後半生のこころの事典 3		同上			GW	
5	ゼミナール 後半生のこころの事典 4		同上			GW	
6	自由研究発表準備		自由研究した内容をまとめる。			GW	
7・8	自由研究発表		自由研究の発表を行う。			GW 発表	
評価方法	ゼミナールの参加度、ゼミナールの記録、グループ調査及び発表内容等で総合的に評価する。						
使用テキスト	後半生のこころの事典 佐藤真一著 CCCメディアハウス出版						
留意点	講義が始まるまでに使用テキストを読み感想文を書く。講義はゼミナール形式で行う。自らが自分の考えや自分自身を発見し、自分らしさを発展させ想像して行く場や機会になるように主体的に取り組んでほしい。遅刻は欠課とみなす。						

科目名	老年期にある人の健やかな生活を支える看護			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期		担当者	高橋沙織、那須詠子、泉 祐介			
設定理由	老年期にある人の健康状態は加齢変化に加え、疾患、障害により個人差が大きい。そして、そのことは今までの生活や生活する場に影響及ぼす。本科目ではどのような健康状態にあっても、老年期にある人がいきいきと安寧に生活をするために、生活行動の視点でアセスメントし、その人それぞれに必要な看護について学ぶ。またこれまで生きてきた過程や価値が尊重され生活の質〈QOL〉を高めていくための看護について学ぶ。						
科目目標	1. 老年期にある人にとっての健康について説明できる。(DP1、DP4) 2. 加齢に伴う生活への影響が説明できる。(DP1、DP2、DP4) 3. 生活行動の視点からアセスメントしたことを述べるができる。(DP4) 4. 老年期にある人の生活を支えるための援助方法が習得できる。(DP4) 5. 老年期にある人の健康の保持に必要な援助方法について考えることができる。(DP4)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1～2	老年期にある人の生活体験		1. 高齢者疑似体験			演習	
3	老年期にある人の健康の特徴		1. 高齢者の健康状態の捉え方 2. 高齢者の健康の特徴 3. 高齢者のアセスメントの基本			講義	
4	老年医学		1. フレイル 2. フレイルを予防する栄養 3. 誤嚥性肺炎			講義	
5	コミュニケーションの特徴と看護		1. 加齢によるコミュニケーションの特徴 2. コミュニケーション障害のアセスメント 3. コミュニケーションを支える看護			講義	
6	「食べる」ことの特徴と看護		1. 「食べる」機能の加齢による特徴 2. 高齢者の「食べる」ことのアセスメント 3. 「食べる」ことを支える看護			講義	
7	「排泄する」ことの特徴と看護		1. 「排泄する」機能の加齢による特徴 2. 高齢者の「排泄する」ことのアセスメント 3. 「排泄する」ことを支える看護			講義	
8	尿失禁の看護		1. 尿失禁の分類と要因 2. 尿失禁のアセスメント 4. 尿失禁のケア：オムツの選択と交換の方法			講義・演習	
9	「からだを動かす」ことの特徴と看護		1. 「からだを動かす」機能の加齢に伴う特徴 2. 「からだを動かす」ためのアセスメント 3. 廃用症候群 4. 転倒・転落の要因と予防のための看護			講義	

回 数	学 習 内 容		学習形態
10	休息・睡眠の特徴と看護	1. 休息・睡眠の加齢に伴う特徴 2. 休息・睡眠のアセスメント 3. 休息・睡眠を支える援助	講義
11	「身体の清潔・身だしなみを整える」特徴と看護	1. 加齢による皮膚の変化 2. 清潔・整容のアセスメント 3. 入浴の危険性と看護 4. 陰部洗浄 5. 整髪・髭剃り 6. 口腔ケア・入れ歯の洗浄と管理	講義
12～14	アクティビティケアの企画	1. アクティビティケアとは 2. 実施上の留意点 3. アクティビティケアの企画	講義 GW
15	アクティビティケアの運営	グループ毎に発表し評価する	発表
評 価 方 法	筆記試験70点、アクティビティ企画書・発表内容・グループワーク参加度30点		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾病論 医学書院		
参 考 図 書	和泉キヨ子・小山幸代編著「看護実践のための根拠がわかる老年看護技術」メヂカルフレンド社 山田律子・井出訓編集「生活機能からみた老年看護過程」医学書院		
留 意 点			

科目名	老年期にある人の健康状態に合わせた看護			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期		担当者	高橋沙織、河野直美、那須詠子、認知症看護認定看護師			
設定理由	老年期にある人が健康障害を起こすと、加齢変化によって症状の現れ方が異なり、回復の遅延や二次的合併症の発生、日常生活動作やQOLの低下を招く可能性がある。本科目では老年期にある人の健康障害の特徴を理解し、起こる可能性のある合併症に対しての予防的関わりと起きた時の看護について学ぶ。また老年期にある人が生活する場は在宅、病院、施設など多様である。いずれの場においても必要となる基本的な観察、判断、援助の方法を学ぶ。						
科目目標	1. 健康障害によっておこる老年期にある人の特徴について説明できる。(DP1、DP4) 2. 健康の段階に応じたアセスメントについて説明できる。(DP4) 3. 老年期にある人の主な健康障害時の看護が説明できる。(DP4)						
回数	学 習 内 容						学習形態
1	薬物療法を必要とする老年期にある人の看護		1. 高齢者における薬物動態の特徴 2. 高齢者の薬物有害作用の発生 3. 服薬管理への援助				講義
2	周手術期にある老年期にある人の看護		1. 手術前の高齢者の特徴 2. 術前のアセスメントと看護 3. 術後の高齢者の特徴 4. 術後の看護				講義
3	リハビリテーションを必要とする老年期にある人の看護 (脳血管障害の回復期にある老年期にある人の看護)①		1. 高齢者のリハビリテーションの意義 2. 高齢者のリハビリテーションの特徴 3. アセスメントの視点 4. 高齢者へのリハビリテーションの看護				講義
4	リハビリテーションを必要とする老年期にある人の看護 (脳血管障害の回復期にある老年期にある人の看護)②						講義
5	パーキンソン病にある老年期にある人の看護		1. パーキンソン病とは 2. パーキンソン病にある老年期にある人の看護 1) ADLへの援助 2) 薬物療法と看護 3) 精神的援助				講義
6	大腿骨近位部骨折を受傷した老年期にある人の看護		1. 高齢者と骨折 2. 大腿骨近位部骨折時のアセスメント 3. 大腿骨頸部骨折の手術療法と看護 4. ADL拡大に向けた看護				講義

回 数	学 習 内 容	学習形態
7	変形性膝関節症の老年期にある人の看護 1. 変形性関節症とは 2. 変形性膝関節症のアセスメント 3. 変形性膝関節症の手術療法と看護 4. ADL 拡大に向けた看護	講義
8	認知症の理解 1. 認知症の定義 2. 認知症の診断と治療 3. 認知症疾患の病態と経過 4. 間違われやすい疾患や症状	講義
9	認知症を生きる老年期にある人の症状と看護 1. 認知症の症状 2. 保持されている力 3. アセスメントの視点 4. コミュニケーションの方法 5. 周辺症状の看護	講義
10 11	認知症を生きる老年期にある人と家族の理解 1. 認知症を生きる高齢者を体験 2. 場面を通してのロールプレイ 3. 認知症を生きるとは	GW 演習
12	脱水・熱中症の老年期にある人の看護 1. 脱水・熱中症をを起こしやすい要因 2. 脱水・熱中症の特徴 3. 脱水・熱中症の看護	講義
13	感染状態にある老年期にある人の看護 1. 感染を起こしやすい要因 2. 感染症状の特徴 3. 感染状態にある人の看護	講義
14	老年期にある人の人生の最終段階における看護 1. 高齢者にとっての死 2. 意思決定への支援 3. 高齢者のエンドオブライフケアの実際	講義
15	老年期にある人の看護過程 1. 老年期にある人の看護過程とは 2. 老年期にある人の看護過程の特徴	講義
評価方法	筆記試験85点、演習課題15点	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾病論 医学書院	
参考図書	和泉キヨ子・小山幸代編著「看護実践のための根拠がわかる老年看護技術」メヂカルフレンド社 社山田律子・井出訓編集「生活機能からみた老年看護過程」医学書院	
留意点		

小児看護学

1. 考え方

子どもは、自らのもてる力と環境との相互作用のなかで、社会的存在として人間への絶え間ない成長・発達を遂げる時期である。子どもは、食事や排泄、睡眠などの基盤となる生活習慣を家庭のなかで確立し、成長・発達には家族の関わりが大きく影響する。小児期に確立した健康観や生活習慣は、その後の生活に長期的な影響を及ぼす。しかし、近年子どもを取り巻く環境は急激に変化し、心と身体の健康問題や社会問題が増加している。子どもの養育環境はさまざまであり、それぞれの子どもと家族にとって最適な生活環境を整えるためには、そのときどきの社会情勢や教育機関、地域の医療・福祉サービスに着目し、社会全体で子どもと家族に目を向ける必要がある。

子どもの特性を十分に理解し、大切に育み、権利を守り、成長・発達を阻害する因子を可能な限り取り除くこと、子どもの体験の積み重ねや感じ方を尊重しながら成長・発達過程を支えることに小児看護の役割がある。小児看護学では、現代の子どもと家族の特徴を理解し、子どもの健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての子どもがより健康的な成長・発達を遂げられるよう子どもと家族に対する看護を学ぶ。

2. 目的

小児各期の特徴および対象とその家族を理解し、健康段階に応じて対象がその子らしい成長・発達を遂げるために必要な知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 小児各期の成長・発達の特徴を理解し、小児看護の役割を理解する。
- 2) 小児の健やかな成長・発達を支えるための、日常生活援助に必要な基礎的知識と技術を習得する。
- 3) 小児各期に特有な健康問題と健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。
- 4) 健康障害をもつ小児と家族に必要な看護援助を理解する。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
小児看護学概論	1	15	1 (15)		
子どもの健やかな成長・発達を支える看護	1	30		1 (30)	
小児の疾病と病態生理	1	15		1 (15)	
健康障害をもつ子どもの看護	1	30		1 (30)	
合 計	4	90	1 (15)	3 (75)	

科目名	子どもの健やかな成長・発達を支える看護			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期			担当者	高橋 衣、君島美雪、立花春香 他		
設定理由	ヒトは生まれてからすぐにひとりで生活を始めるのではなく、周囲の大人が子どもの未熟さを補い、養護する必要がある。しかしながら現代は、育児に関する不安や悩みを抱えている親も少なくない。子どもの健やかな成長・発達のためには、子どもの直接的な支援とともに、家族が安心して育児にあたれる環境を整える必要がある。疾病や事故を予防し、より健康的な生活が送れることを目指した健康教育を家族および段階に応じて子ども自身にも行う必要があるため、その知識を習得する。						
科目目標	1. 小児各期の健やかな成長・発達をとげるための生活とその援助が理解できる。(DP1) 2. 小児看護の場と看護の特徴が理解できる。(DP1) 3. 小児における疾病の経過と看護が理解できる。(DP1) 4. 小児と家族の援助に必要な基礎的知識・技術を習得する。(DP2、DP4)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1・2	乳児の健康増進と安全のための看護が理解できる。		1. 乳児期の生活行動の特徴 1) 栄養(授乳・離乳食) 2) 排泄 2. 親子関係 3. 事故防止と安全対策 4. 地域保健サービスの活用			講義	
3・4	幼児の健康増進と安全のための看護が理解できる。		1. 基本的生活習慣の確立にむけての看護 2. 食生活と栄養 3. 自我の発達と遊び 4. 予防接種 5. 事故防止と安全対策			講義	
5	学童の健康増進とセルフケアの発達を促進する看護が理解できる。		1. セルフケアと保健教育 2. 食生活と食育 3. 学校への適応 4. 事故防止と安全対策			講義	
6	思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立のための看護が理解できる。		1. セルフケアと保健教育 2. 親からの自立 3. 異性への関心 4. 小児の性意識の変化と逸脱行動			講義	
7	病気や入院が子どもと家族に与える影響を理解できる。		1. 子どもの病気の理解 2. 病気・障害に対する子どもの反応 3. 小児の病気や入院が家族に及ぼす影響 4. 入院中の子どもと家族の看護			講義	
8	外来における子どもと家族への看護ができる。		1. 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 2. 小児外来の特徴と看護 3. 外来における子どもと家族への看護			講義	

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容	学習形態
9	神経発達症群(発達障害)・精神疾患が理解できる。	1. 自閉症スペクトラム障害 2. 注意欠如・多動性障害 3. 限局性学習障害 4. 子どもの心の問題と精神疾患	講義
10	小児看護に必要な看護技術が理解できる。	1. コミュニケーション技術 1) 言語的コミュニケーション 2) 非言語的コミュニケーション 2. 小児各期にある子ども・家族へのコミュニケーション	講義
11	小児看護に必要な看護技術が理解できる。	1. フィジカルアセスメント 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測	講義 演習
12	小児看護に必要な看護技術が理解できる。	1. 治療に伴う小児看護技術① 1) 輸液管理 2) 与薬	講義
13	小児看護に必要な看護技術が理解できる。	1. 治療に伴う小児看護技術② 1) 検体採取(採血、採尿) 2) 腰椎穿刺・骨髄穿刺	講義
14	小児看護に必要な看護技術が理解できる。	1. 治療に伴う小児看護技術③ 1) 経管栄養法 2) 吸入・吸引 3) 酸素療法	講義
15	小児看護に必要な看護技術が理解できる。	1. プレパレーションの実際	講義 演習 GW
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床総論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド小児看護 照林社		
留意点			

科目名	小児の疾病と病態生理			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期			担当者	医師		
設定理由	子どもの疾病は、成人に比べて進行が速く、短時間で重篤な状態になることも少なくない。また、子どもは感染に対する抵抗力が弱く、感染症に罹患する危険性も高い。しかも子ども特に乳幼児期は、苦痛や不快などの自覚症状をことばで適切に表現できない場合があり、異常の発見が遅れる可能性がある。そのため、子どもの健康段階に応じた看護を学ぶにあたり、まずは小児期によくみられる疾患や症状についての病態生理も含めた基礎的知識をおさえる。						
科目目標	健康障害を持つ小児と家族を理解し、小児期に特有な健康問題を学ぶ。(DP1)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	子どもに特徴的な感染症の病態生理・治療が理解できる		特徴的な感染症			講義	
2	子どものアレルギー疾患の病態生理・治療が理解できる		アレルギー疾患			講義	
3	子どもの消化器疾患の病態生理・治療が理解できる		消化器疾患			講義	
4	子どもの血液疾患の病態生理・治療が理解できる		血液疾患			講義	
5	子どもの腎・尿路疾患の病態生理・治療が理解できる		腎・尿路疾患			講義	
6	子どもの免疫・膠原病の病態生理・治療が理解できる		免疫・膠原病			講義	
7	子どもの循環器疾患・染色体異常症の病態生理・治療が理解できる		循環器疾患 染色体異常症(ダウン症候群)			講義	
8	子どもの神経・筋疾患の病態生理・治療が理解できる		神経・筋疾患			講義	
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	小児看護学① 小児看護学概論／小児保健 メヂカルフレンド社 小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メヂカルフレンド社						
留意点							

科目名	健康障害をもつ子どもの看護			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期			担当者	立花春香 他		
設定理由	子どもの健康障害は、一時的な苦痛体験だけでなく生涯にわたる障害を残すこともあり、家族に与える負担も大きい。生命の危険から守り、その健やかな成長・発達を脅かす様々な苦痛や恐怖を早期に緩和するために必要な看護の知識を学ぶ。						
科目目標	1. 子どもと家族に起こりやすい・直面しやすい状況に応じた看護が理解できる。(DP4) 2. 子ども特有の疾患が子どもと家族におよぼす影響を理解し、健康障害を持つ子どもとその家族への援助方法を学ぶ。(DP1、DP4) 3. 小児期の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。(DP4)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	急性的な経過をたどる子どもと家族の看護が理解できる。		1 急性期の子どもと家族の特徴 2. 急性状態にある子どもと家族への看護 1) 発熱・脱水時の看護 2) 下痢・嘔吐時の看護 3) けいれん時の看護			講義	
2	手術を受ける子どもと家族の看護が理解できる。		1. 手術を受ける子どもの特徴 2. 手術を受ける子どもの心身の準備 3. 子どもの術後の看護			講義	
3	救急処置を必要とする子どもと家族の看護が理解できる。		1. 子どもの事故・外傷と虐待の特徴 2. 小児救急におけるトリアージと対応 3. 異物(気道・食道)に対する看護 4. 溺水に対する看護 5. 熱傷に対する看護 6. 救急処置を受ける子どもと家族へのケア			講義	
4	感染予防の必要がある子どもと家族の看護が理解できる。		1. 適切な感染予防策の考え方 2. 感染を受けやすい状態にある子ども 3. 子ども特有の感染症と看護			講義	
5	慢性的な経過をたどる疾患をもつ子どもと家族の看護が理解できる。		1. 慢性的経過をたどる子どもと家族の体験と思い 2. 小児慢性特定疾患治療研究事業 3. 子どもの発達とセルフケア獲得への援助 4. 地域との連携・調整			講義	
6	呼吸機能障害のある子どもの看護が理解できる。		1. 子どもによくみられる呼吸困難をきたす主な疾患 2. 子どもの呼吸困難時の看護			講義	
7	消化吸収機能障害のある子どもの看護が理解できる。		1. 子どもによくみられる消化器疾患 2. 主な症状と看護 1) 下痢・便秘 2) ストーマケア			講義	
8	腎機能障害のある子どもの看護が理解できる。		1. 子どもによくみられる腎・泌尿器疾患 2. 腎疾患をもつ子どもの看護			講義	

回数	単 元 目 標	学 習 内 容	学習形態
9	内分泌・代謝障害のある子どもの看護が理解できる。	1. 子どもによくみられる内分泌・代謝疾患 2. 内分泌・代謝疾患をもつ子どもの看護	講義
10	血液・腫瘍疾患をもつ子どもの看護が理解できる。	1. 子どもによくみられる血液・腫瘍疾患 2. 血液・腫瘍疾患をもつ子どもの看護	講義
11	終末期にある子どもと家族の看護が理解できる。	1. 終末期にある子どもの特徴 2. 終末期にある子どもの看護 3. 子どもが終末期にある家族の看護	講義
12～15	発達段階をふまえた看護過程が展開できる。	1. 事例紹介 2. 小児期の看護過程の展開の特徴 3. 展開の実際	演習 個人ワーク GW
評価方法	筆記試験(70点)、記録物(30点)		
使用テキスト	小児看護学① 小児看護学概論／小児保健 メヂカルフレンド社 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	こどもの病気の地図帳 講談社 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程 医歯薬出版株式会社 発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 第2・3版 医学書院		
留意点	本科目は小児の疾病と病態生理と連動しているため、復習してから講義に臨むこと。 発達段階をふまえた看護過程の展開では、事例を理解する上で必要と思われる事前学習を実施し、個人ワーク・グループワークに臨むこと。		

母性看護学

1. 考え方

母性の本質は、生命の創造と育成である。したがって、母性看護学において重要なことは、生命尊重の態度および生命誕生のすばらしさを学ぶことにある。また、この生命尊重の価値観や態度は看護師としてだけでなく、女性自らがその価値観や態度を有することが重要である。

そこで、母性看護学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基本に女性の生涯にわたる健康に目を向け身体的特徴や心理・社会的な特徴を理解し、健康の保持増進、疾病予防のためのセルフケアへの援助を中心とした看護の役割を学ぶ。近年、少子化が進み、母性を取り巻く社会も変化している。少子化となり、子を産む、育てることの価値観の変化や生命誕生に関わる倫理観の多様化など、母性としての役割、父性としての役割と考え方が時代とともに変化している。また、働く女性が増加し、母性機能を健全に果たすためにも妊娠・分娩・産褥・育児について、法律や制度の仕組みを理解する必要がある。このような社会の変化に即した看護のあり方についても考えられることを目的とする。

2. 目的

女性をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から全人的視点でとらえ、主として思春期から更年期までのライフステージにおける健康上の特性を理解し、健康の維持・増進を目標として、看護するために必要な知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) リプロダクティブ・ヘルス、母性の概念がわかる。
- 2) 母性看護の特性及び母性看護の意義がわかる。
- 3) 生殖及び周産期に関連する生理及び健康問題と対策が理解できる。
- 4) 妊娠・分娩・産褥期における母児の特性がわかり、健康問題解決のための方法が理解できる。
- 5) ライフサイクルに応じた健康問題の特性がわかり、問題解決のための方法が理解できる。
- 6) 社会資源の活用や健康教育を通して、母性看護の対象に対する母子保健支援システムの理解ができる。
- 7) 自己の母性性ならびに父性性を認識し、健全な母性ならびに父性の形成及び成熟のための学習機会とする。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
母性看護学概論	1	30	1 (30)		
生殖・周産期の基礎	1	15		1 (15)	
母子の健康と看護	1	30		1 (30)	
母子の看護技術演習	1	30		1 (30)	

科目名	生殖・周産期の基礎			単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期		担当者	山田恭輔 他			
設定理由	妊娠の成立、胎児の発育、妊娠時の母体の変化から妊娠の生理ならびに異常を理解し、さらに正常分娩の経過、母児に及ぼす影響またこれらを左右する異常について学ぶ。また、生殖に関連する形態学的・生理学的メカニズムについても学び、母性看護を論理的に考える基礎能力を育成する。						
科目目標	1. 女性生殖器の解剖・生理がわかる。 2. 妊娠・分娩の生理と経過がわかる。 3. 新生児の特徴と生理がわかる。 4. ハイリスク妊娠・分娩がわかる。 5. 女性生殖器の健康問題と診断過程・治療特性がわかる。 6. 性教育の意義と方法がわかる。						
回数	学 習 内 容						学習形態
1～8	1. 女性生殖器の解剖生理・女性生殖器に関わる検査・治療 2. 正常妊娠の生理・経過と正常分娩 3. 産褥期の経過と母体の変化 4. ハイリスク妊娠 5. ハイリスク分娩 6. 早期新生児の生理 7. 新生児の特徴・生理と異常 8. 女性生殖器特有の症状 1) 思春期・更年期の健康問題と治療 2) 不妊症、不育症 9. 女性生殖器の病態及び検査・治療特性						講義
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	母性看護学2 各論 医学書院 成人看護学10 女性生殖器 メヂカルフレンド						
留意点							

科目名	母子の健康と看護			単位数	1	時間数	30	
開講時期	2年次 前期			担当者	末延睦与			
設定理由	妊娠・分娩・産褥および新生児期の特徴を理解し、母子とその家族に対する看護を実践するための基礎的知識について理解する。							
科目目標	1. 周産期(妊娠・分娩・産褥)の身体的・心理的・社会的特徴と適応について理解できる。 2. 新生児の生理的变化に応じた看護の概要がわかる。 3. 対象とその家族が健康で快適な生活を送ることができるよう援助するための知識・技術・態度が理解できる。 4. 周産期におけるサポートシステムの意義と支援の実際がわかる。							
回数	単元目標		学習内容			学習形態		
1～2	妊娠期の看護		1. 妊娠の生理と妊婦の看護 1) 妊娠とは 2) 妊娠の成立 3) 妊娠の届け出と母子手帳 4) 妊婦健康診査の目的と時期			講義		
3～4			2. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠の経過と胎児の発育 2) 妊婦の心理 3) 妊婦と不快症状 4) 出産・育児・親役割の準備 5) 妊娠経過の健康逸脱と看護 (流産、早産、感染症、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、妊娠高血圧症候群)			講義		
5			3. 妊婦の保健指導の実際 1) 妊婦の日常生活とセルフケア 2) 母子健康手帳			講義		
6	分娩期の看護		1. 分娩の要素 1) 分娩とは 2) 分娩の3要素 3) 胎児と子宮および骨盤との関係 4) 分娩の機序			講義		
7			2. 分娩の生理と産婦の看護 1)分娩の経過と胎児の健康状態 2) 産婦の基本的ニーズと看護 3) 産痛緩和 4) 産婦と家族の心理			講義		
8			3. 産婦と胎児のアセスメント分娩経過の健康逸脱と看護 (前期破水、帝王切開術、産科出血と看護) 4. 胎児機能不全			講義		

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容	学習形態
9 ・ 10 ・ 11	産褥期の看護	1. 産褥期の生理と褥婦の看護 1) 産褥とは 2) 産褥の経過：退行性変化と進行性変化 3) 褥婦の日常生活とセルフケア 4) 褥婦の心理 5) 親役割への支援 2. 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の健康逸脱と看護 2) 帝王切開術後の看護	講義
12 ・ 13	新生児の看護	1. 新生児の生理と看護 1) 新生児の生理 2) 新生児の適応と看護 3) 親子関係 2. ハイリスク新生児の看護 1) 早産児、低出生体重児の看護 2) 死産、先天異常、障害をもつ新生児を出産した親の看護	講義
14～15	周産期におけるサポートシステムの意義と支援の実際	施設退院後の看護 1) 育児不安と育児支援の場 2) 職場復帰	講義
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	母性看護学各論 母性看護学② 医学書院		
参考図書	母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 病気がみえる VOL10 産科、マタニティアセスメントガイド新訂		
留意点	30分を過ぎての遅刻は欠課とする。		

科目名	母子の看護技術演習			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期			担当者	末延睦与		
設定理由	正常な経過をたどる妊娠・分娩・産褥および新生児期にある母子の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに母子とその家族への看護を展開していく上で必要とされる看護の基礎的知識と基礎的な看護技術について理解する。						
科目目標	1. 周産期(妊娠・分娩・産褥)の看護に必要な看護技術の目的と手技がわかる。 2. 新生児の看護に必要な看護技術の目的と手技がわかる。 3. 周産期の対象に対する問題解決技法がわかる。 4. 女性生殖器の健康問題に対する看護の概要がわかる。						
回数	単元目標		学 習 内 容			学習形態	
1～2	妊産褥婦の看護に必要な看護技術の目的と手技		1. 妊婦への看護技術 1) 腹帯 2) 腹囲と子宮底の測定法 3) レオポルド触診法 4) 胎児心拍の確認			講義 演習	
2. 産婦への看護技術 1) 分娩期の産婦へのケア 2) 産痛緩和			講義				
3			3. 褥婦への看護技術 1) 子宮復古促進へのケア 2) 母乳栄養確立へ向けたケア 3) 全身の観察と疼痛緩和			講義 演習	
4～5							
6～7	女性生殖器の健康問題に対する看護の概要		1. 月経の周期とホルモン 2. 更年期障害と看護 3. 男女の性反応 4. 婦人科疾患と看護			講義	
8～9	新生児の看護に必要な看護技術の目的と手技		1. 出生直後の新生児のケア 2. 入院中の新生児の状態理解とアセスメント			講義	
3. 沐浴・バイタルサイン計測・身体計測			演習				
10～11							
12～13	周産期の対象に対する看護過程の展開		産科の特殊性を踏まえた看護過程の展開 1) ガイダンス 2) 情報用紙の整理 3) アセスメント			講義 GW	
4) 分析(アセスメントの結論・全体像) 5) 看護計画(目標・行動計画)			GW 提出				
14～15							

母性看護学

評価方法	筆記試験60% 看護過程30% 記録物10%
使用テキスト	母性看護学各論 母性看護学② 医学書院
参考図書	母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 病気がみえる VOL10
留意点	30分を過ぎての遅刻は欠課とする。

精神看護学

1. 考え方

人間の認識はその人の発達段階・生活過程のあり方に規定され、対象を尊重するためには、その人の表現の意味を発達段階・生活過程から捉え、認識を想像する必要がある。

ストレッサーは常に私たちのまわりに存在し、ストレスは誰にでも起こり得ることである。現代は、学校のスケジュールの過密化や雇用システムの変化がある中、社会構造の変化によってコミュニティが減り、ストレスに対処する力が減ってきている。そのため、学校や職場におけるメンタルヘルスケアが必要とされている。精神疾患の患者数は増加し、今や5大疾病の1つと言われている。患者の回復を支える援助の基盤として、患者-看護師関係が重要である。精神病床数の削減と社会的入院の解消がなかなか進展していないことや、障害の有無に関わらずすべての人々が地域の一員として社会に参画していく権利があるという考えが浸透したことによって、地域を基盤とした精神保健福祉への転換が強化されている。

そこで、精神看護学では、その人の認識や表現の意味を捉え、情報化する力を養いつつ、現代社会に生きる人々の心の健康について理解し、心の健康の保持・増進および回復を支える看護に必要な知識・技術・態度を学ぶことをねらいとする。

2. 目的

その人の認識や表現の意味をふまえ、心の健康の保持・増進および回復を支える看護に必要な知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 心の発達と健康について理解できる。
- 2) 精神保健医療の変遷を学び、現状や課題が理解できる。
- 3) 精神障害をもつ人の地域における支援が理解できる。
- 4) その人の認識や表現の意味を捉え、対象を尊重できる。
- 5) 患者-看護師関係を構築する技術を修得できる。
- 6) 精神障害とその治療を理解し、精神障害をもつ人の看護が理解できる。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
精神看護学概論	1	15	1 (15)		
精神看護の基本技術	1	30		1 (30)	
精神障害と治療	1	15		1 (15)	
精神障害を持つ人の看護	1	30		1 (30)	
合 計	4	90	1 (15)	3 (75)	

科目名	精神看護の基本技術				単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期			担当者	岡田陽子、荒井志世			
設定理由	人間の認識はその人の発達段階・生活過程のあり方に規定され、対象を尊重するためには、その人の表現の意味を洞察し、発達段階・生活過程から認識を推測する必要がある。また、患者の回復を支える援助の基盤として、患者-看護師関係が重要である。そこで、対象を尊重するために必要な考え方や、患者-看護師関係を構築する方法を学ぶ。							
科目目標	1. 対象を尊重するために必要な考え方がわかる。(DP 1、DP 2、DP6) 1) 認識論における観念的二重化がわかり、日常において、観念的二重化するための考え方ができる。 2) 精神看護における生活歴を読み解く意義がわかる。 2. 患者-看護師関係を構築する方法が理解できる。(DP 1、DP2、DP6) 1) 看護におけるカウンセリングの基礎が理解できる。 2) 看護場面の再構成により自己を知り、患者-看護師関係を構築する手がかりとすることができる。							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1	認識論における観念的二重化がわかり、日常において、観念的二重化するための考え方ができる。	1) 観念的二重化(自分の他人化)とは、観念的二重化するための考え方、のぼりおり 2) 観念的二重化が完璧に近い状態とは、わかるとは	(1) 認識とは(復習) (2) 認識そのものにはたらきかける技術とは(復習) (3) 観念的二重化(自分の他人化)とは (4) 事例を通した「自分の像を自覚する(のぼり)」「相手の表現の意味を洞察する」「近似的な像を描くために、認識を発展させる(おり)」という考え方 (5) 自分の身近な現象から、「自分の像を自覚する(のぼり)」「相手の表現の意味を洞察する」「近似的な像を描くために、認識を発展させる(おり)」 (6) 個人ワーク課題紹介による、観念的二重化するための考え方の学びあい、「観念的二重化が完璧に近い状態とは」「わかるとは」			講義 ↓ 個人ワーク ↓ 講義		
2	看護場面の再構成により自己を知り、患者-看護師関係を構築する手がかりとすることができる。	1) 患者-看護師関係の構築	(1) 患者-看護師関係の目指すこと (2) 患者-看護師関係を理解するための手がかり (3) 関係構築にあたっての基本的な態度：①相互の尊敬、②信頼する (4) 患者との関わりで起こり得ることと対処			講義		
3		2) プロセスレコードとは、プロセスレコードの方法	(1) 振り返ることの意味 (2) プロセスレコードとは (3) プロセスレコードの変遷 (4) プロセスレコードの方法			講義 ↓ 個人ワーク		

回数	単元目標	学 習 内 容		学習形態
4		3) プロセスレコード のカンファレンス	(1) 一般的なカンファレンスについて (2) 事例を通したプロセスレコード、プロセスレコードのカンファレンスの理解 (3) 関係構築にあたっての基本的な態度：③共感、④誠実性、⑤現実社会との適合性	講義
5		4) 観念的二重化、 プロセスレコードの 実際	(1) 事例紹介 (2) 演習のオリエンテーション (3) 認識論を用いて、「しばらく放置していた」という行動(表現)の意味を洞察し、相手の認識を予測する。	個人ワーク
6・7			(1) 事例に基づいた模擬患者との関わり (2) 他者と比較した、自己の相手の認識の推し測り方(対象として相手のどんな表現をひろっているか、相手の表現から相手の像をどう描きやすいか)の自覚 (3) プロセスレコードを用いた、相手の表現の意味と、自分(相手)の表現が相手(自分)の認識にどう働いたか、自己の対人関係(相手の認識の推測の仕方、表現の仕方)の特徴、看護の意味の振り返り	演習 ↓ GW・個人ワーク
8	精神看護における生活歴を読み解く意義がわかる。	精神看護における生活歴を読み解く意義、生活歴の読み解き方	(1) 精神看護における生活歴を読み解く意義 (2) 生活歴の読み解き方(その人らしさ、発達過程の特徴)(知るレベル)	講義
9			(1) 生活歴をふまえた症状・行動(表現)の意味の考え方(知るレベル) (2) 事例から抽象化した、精神看護における生活歴を読み解く意義	
10	精神障害を持つ人の看護が理解できる	看護過程のガイダンス ①	1) 看護過程の授業行程、事前学習、記録管理方法、記録提出について 2) 事例紹介	
11	看護におけるカウンセリングの基礎を理解できる。	1) 臨床心理学からみる精神看護の基本		講義
12		2) 心理アセスメント		講義
13		3) 自己理解		講義
14		4) 心理検査、心理療法		講義
15		5) 関係性の理解		講義
評価方法	講義・演習の課題、プロセスレコード、レポート			
使用テキスト	改訂版 科学的看護論 薄井担子 日本看護協会出版会 精神看護学① 精神問学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社			

科目名	精神障害と治療				単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期			担当者	谷井一夫 他			
設定理由	精神疾患の患者数は増加し、今や5大疾病の1つと言われている。そこで、精神障害を持つ人の看護を行うために必要な基礎的知識として、精神障害とその治療を理解する。							
科目目標	精神障害の分類と特徴およびその治療について理解する。(DP1)							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1・2	1) 精神を病むとはどういうことか理解できる 2) 統合失調症とその治療について理解できる	1. 精神科総論 2. 統合失調症とその治療	1) 精神科総論 (1) 精神を病むとは (2) 精神疾患に関する統計 (3) 精神疾患の診断について (4) 自殺について (5) 精神医療の課題 2) 統合失調症とその治療 (1) 統合失調症 (2) 統合失調症の病期と治療方針 (3) 抗精神病薬 (4) 電気けいれん療法				講義	
3	気分障害とその治療について理解できる	気分障害とその治療	1) うつ病 2) 双極性障害 3) 抗うつ薬 4) 気分安定薬 5) 睡眠薬 6) 認知行動療法				講義	
4	人格障害、摂食障害とその治療について理解できる	1. 人格障害とその治療 2. 摂食障害とその治療	1) 境界性人格障害 2) 自己愛性人格障害 3) 反社会性人格障害 4) 回避性人格障害 5) 神経性やせ症／神経性過食症 6) 精神療法				講義	
5・6	神経症、心的外傷およびストレス因関連障害とその治療について理解できる	1. 神経症とその治療 2. 心的外傷およびストレス因関連障害とその治療	1) 強迫性障害 2) 社交不安障害 3) 全般性不安障害 4) パニック障害 5) 解離性障害 6) 心的外傷後ストレス障害 7) 抗うつ薬 8) 抗不安薬 9) 認知行動療法 10) 森田療法				講義	

回数	単元目標	学 習 内 容		学習形態
7	物質関連障害および嗜癖性障害とその治療について理解できる	物質関連障害および嗜癖性障害とその治療	1) アルコール依存症 2) 薬物依存症 3) ギャンブル依存症 4) インターネットゲーム障害 5) 自助グループについて	講義
8	精神療法について理解できる	精神療法	1) 精神療法とは 2) 精神療法における関わり 3) 各精神療法	講義
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社			

科目名	精神障害を持つ人の看護				単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期		担当者	成増厚生病院(師長及び認定看護師・専門看護師)、山田病院(師長)、慈恵医大葛飾医療センター(精神看護専門看護師) 岡田陽子				
設定理由	精神科看護における基本的なケアのあり方を学ぶと同時に、精神障害を持つ対象や、その人と家族への看護を学ぶ。精神病床数の削減と社会的入院の解消がなかなか進展していないことや、障害の有無に関わらずすべての人々が地域の一員として社会に参画していく権利があるという考えが浸透したことによって、地域を基盤とした精神保健福祉への転換が強化されている。そこで、地域における精神看護を学ぶ。							
科目目標	精神障害をもつ対象を理解し、援助の方法が理解できる。(DP 1、DP 4)							
回数	単元目標	学 習 内 容				学習形態		
1	精神看護における対象の理解、治療的関わりの考え方が理解できる	精神看護における対象の理解、治療的関わりの考え方	(1) 対象を理解するために必要な情報整理 (2) 精神・情緒の把握 (3) セルフケア・対人交流パターンの把握 (4) 病識について (5) コミュニケーションに影響を与える因子				講義	
2	入院環境と治療的アプローチ、日常生活行動の援助が理解できる	入院環境と治療的アプローチ、日常生活行動の援助	(1) 入院のメリット・デメリット (2) 精神科の看護の観察の意味 (3) 日常生活行動の影響、日常生活の世話の意味 (4) 急性期・回復期・慢性期における身体ケアの意味 (5) 隔離・拘束時の看護				講義	
3	急性期にある統合失調症を持つ人と家族への看護が理解できる	急性期にある統合失調症を持つ人と家族への看護	(1) 急性期にみられる症状、症状のアセスメント、セルフケアレベルの評価 (2) 急性症状があるときの看護(日常生活行動の援助を通し関わるきっかけ作り) (3) 家族のストレス軽減を図る対応				講義	
4	慢性期にある統合失調症を持つ人と家族への看護が理解できる	慢性期にある統合失調症を持つ人と家族への看護	(1) 慢性期にみられる症状、症状のアセスメント、セルフケアレベルの評価 (2) そばににいることの意味、家族の関わり				講義	

回数	単元目標	学 習 内 容	学習形態
5	物質関連障害および嗜癖性障害を持つ人と家族への看護が理解できる	物質関連障害および嗜癖性障害を持つ人と家族への看護	講義
		1) アルコール依存症がある人と家族への看護 (1) アルコール依存症の症状・アセスメント (2) 離脱期の看護 (3) アルコールリハビリプログラム (4) 断酒会、AAについて (5) 家族教育について 2) 薬物依存症がある人と家族への看護 (1) 薬物依存症の症状・アセスメント (2) ダルクについて(ダルクの方の話を聞き、依存症から回復するために必要な援助を考える)	
6	気分障害を持つ人と家族への看護が理解できる	気分障害を持つ人と家族への看護	講義
		1) うつ病がある人と家族への看護 (1) うつ病の症状・アセスメント (2) セルフケアレベルに応じた援助 (3) 回復期の看護(自殺防止) 2) 双極性障害がある人と家族への看護 (1) 双極性障害の症状・アセスメント (2) 活動を調整して休息を確保出来る援助	
7	神経症、心的外傷およびストレス因関連障害を持つ人と家族への看護が理解できる	神経症、心的外傷およびストレス因関連障害を持つ人と家族への看護	講義
		1) パニックを持つ人と家族への看護 (1) パニック障害について(不安のレベル) (2) パニック障害の症状(広場恐怖症) (3) パニック発作時の看護 2) 強迫性障害を持つ人と家族への看護 (1) 強迫障害の症状・アセスメント (2) 強迫障害時の看護 3) 心的外傷後ストレス障害を持つ人と家族への看護	

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容		学習形態
8	摂食障害、人格障害を持つ人と家族への看護が理解できる	摂食障害、人格障害を持つ人と家族への看護	1) 摂食障害を持つ人と家族への看護 (1) 摂食障害の特徴 (母子関係、愛着関係) (2) 体重増加期の看護、関わり (3) 家族への関わり(家族会) 2) 境界性人格障害を持つ人と家族への看護 (1) 境界性人格障害の特徴 (見捨てられ不安) (2) 境界性人格障害の看護 (治療契約) (3) 看護する上で気をつけること (巻き込まれること、転移・逆転移)	講義
9	治療を継続しながら地域で生活するための精神看護が理解できる	治療を継続しながら地域で生活するための精神看護	1) 地域の精神看護の対象 2) 地域での精神看護の場と対象への対応 3) 精神科外来看護師の役割 4) 看護師の視点と実際のケア 5) 抗精神病薬の主な有害反応 6) 薬物療法における看護	講義
10	リエゾン精神看護が理解できる	リエゾン精神看護	(1) 看護師のメンタルヘルスへの支援 (2) 身体疾患がある患者の精神保健 (3) コンサルテーション	講義
11	森田療法における看護が理解できる	森田療法における看護	1) 森田 療法 (1) 森田療法の考え方 (2) 森田療法の治療対象 (3) とらわれの規制 (4) 森田療法の治療目標、治療段階 (5) 森田療法における看護	講義
12	精神障害を持つ人の看護過程が展開できる	看護過程の展開のガイダンス②	1) 事例紹介 2) アセスメント(健康障害の種類・健康の段階、発達段階・生活過程等) 3) 情報内容を確認し、GWで共有し意見交換する。 4) 事例の情報整理に対する疑問を解決する	講義 GW
13～15		看護過程の展開	実際に看護過程を展開する。	講義 GW
評価方法		筆記試験、看護過程		
使用テキスト		精神看護学① 精神問学概論 精神保健 メデカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メデカルフレンド社 精神疾患・高齢者の精神障害と理解と看護 新ナーシングレクチャー		

看護の統合と実践

1. 考え方

「看護の統合と実践」では、既習の学習を統合し、より実践に近づけて看護実践力の向上を図り、生涯にわたって継続して看護を探究するための素地を養う。これらの学びをとおして、社会に貢献できる看護師としての基礎的能力を身につけることをねらいとする。従って、科目の構築にあたっては、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ内容、臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ内容、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容、医療安全の基礎的知識を含む内容、災害の基礎的知識を含む内容、諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解する内容、看護技術の総合的な評価を行う内容で構成する。統合実習では、専門分野での実習を踏まえて、対象の状況に応じて、既習の知識・技術を引き出して統合し、臨床判断を用いて看護実践力をより高めることを目指す。また同時に、チーム医療や医療安全の理解、看護のマネジメントの必要性など各領域実習での学びを再確認し統合することもねらいとする。そこで、統合実習はすべての臨地実習の最後に位置づけ、より実務に即した実習を行う事とする。

2. 目的

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人・集団・社会に対して対象の状態に応じた看護を実践する能力を養う。

3. 目標

- 1) 看護の役割を理解し、看護をマネジメントできる基礎的知識を習得する。
- 2) 災害看護、医療安全についての基礎的知識を習得する。
- 3) 国際社会での諸外国における保健・医療・福祉の課題について考えることができる。
- 4) 看護学発展のための研究の重要性を理解し、看護研究の基礎的能力を身につける。
- 5) 多重課題に対して、総合的に判断し解決する能力を養う。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
看護実践マネジメントと医療安全	1	30			1 (30)
災害時看護と国際協力	1	30		1 (30)	
看護研究	1	30			1 (30)
臨床看護の実践	1	30			1 (30)

科目名	災害時看護と国際協力			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期		担当者	挟間しのぶ、崎本聖美 救急看護認定看護師 李 祥任 他			
設定理由	人々の健康と生活の向上に向けた社会への支援として、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術と看護の国際貢献についての基礎的な理解を深める。						
科目目標	1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。(DP5) 2. 国際社会での諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解する。(DP5)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	災害概論		1. 災害の特徴 2. 定義 3. 分類 4. 災害医療と災害時看護 5. 代表的な災害の特徴と疾病構造			講義	
2	災害に関わる制度と支援システム		1. 活動の原則 2. CSCATTT 3. 法制度			講義	
3	災害時のこころのケア 災害各期の看護1 急性期		こころのケアを必要とする人々 トリアージ 応急処置、他			講義	
4	災害各期の看護2 亜急性期		1. 亜急性期の看護 2. 避難所における看護 3. 災害関連死の予防 4. 被災者特性に応じた看護			講義	
5	災害各期の看護3 慢性期		1. 慢性期の看護 2. 仮設住宅における看護			講義	
6	災害支援ナースとしての活動		1. 災害支援ナースの活動 2. DMATの活動 3. 派遣時の活動の実際			講義	
7 8	災害発生時の技術1		災害発生時の技術： トリアージVR演習			演習	
9 10	災害発生時の技術2		災害発生時の技術(大学病院救護所設置訓練参加) 見学(トリアージ、搬送、応急処置)			講義認定 看護師	
11	国際保健概論		国際看護とは 1. 国際機関 2. 国際協力 3. プライマリーヘルスケア			講義	

回数	単 元 目 標	学 習 内 容	学習形態
12	母子保健	母子保健 国際看護活動の実際	講義
13	国際社会の現状と国際看護活動の課題	異文化理解と国際協力活動	講義
14 15	国際協力と看護	世界の感染と取り組み 日本における移民・外国出生者への保健医療	講義
評価方法	災害看護：70点 国際協力：30点 筆記試験、参加状況、レポート等で総合評価する		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学 医学書院		
参考図書	看護の統合と実践② 災害看護学 メヂカルフレンド社看護の統合と実践③ 国際看護学 メヂカルフレンド社		
留意点	授業を受けるにあたっては、世界各地で起きている紛争や災害、日本各地で起きている災害の報道に意識を向けて生活してください。無関心では学べません。		

3 年次（34期生）

基礎分野

1. 考え方

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野である各看護学を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力・ICT活用能力を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをととして、看護を学ぶための資質を培い、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。

2. 目的

人間を統合的に理解するための知識を学ぶとともに、科学的・論理的思考力、コミュニケーション能力を身につけ、豊かな感性育み、自ら学修し成長し続ける能力を養う。

3. 目標

- 1) 看護に応用できる科学的思考の基礎を身につける。
- 2) 思考の形成、法則を学び、論理的思考や文章表現力を養う。
- 3) 国際化・情報化社会に対応できる能力及びICTを活用するための能力を養う。
- 4) 人格の形成、発達心理などについて学び、人間への理解を深める。
- 5) 人間の生活や社会的役割を知り、社会的存在としての人間を理解する。
- 6) 人間の存在、価値観、ものの見方を理解し、自己理解を深める。

4. 科目構成

	科 目	単位数	時間数	学 年 別		
				1 年	2 年	3 年
科学的思考の基盤	人間関係論	1	15	1 (15)		
	日本語表現法	1	15	1 (15)		
	自然科学総論（生物・化学の基礎）	1	30	1 (30)		
人間と生活、社会の理解	生活と科学	1	30	1 (30)		
	情報科学	1	15	1 (15)		
	情報リテラシー	1	15	1 (15)		
	社会学	1	30	1 (30)		
	教育学	1	15		1 (15)	
	哲学	1	15	1 (15)		
	心理学	1	30	1 (30)		
	医療に関する英会話	1	30	1 (30)		
	医療に関する英文読解	1	30			1 (30)
	文化人類学	1	15		1 (15)	
	パフォーマンス論	1	30	1 (30)		

科目名	医療に関する英文読解			単位数	1	時間数	30
開講時期	3年次 前期		担当者	バリー・ミラー			
設定理由	国際社会における日本の役割が増し、世界の多くの人々から注目を浴びている今、医療の分野でも国際共通語としての英語をコミュニケーションの手段として使える日本人が求められています。外国人の患者さん、その家族への対応、海外での医療援助などの機会は今後ますます増えてくるでしょう。 学生の英語に対する苦手意識をできるだけ取り除き、読み、書き、話すといった基本的な能力を伸ばし、英語圏の文化や海外の諸事情などの紹介により、視野がより広がることを目指します。						
科目目標	英語の総合力を高め、医学・看護についての文献を理解する能力を養う。(DP1、DP2)						
講義内容	英語の授業では、医療、看護、介護に焦点を置いた“English for Manner and Hospitality”という教科書を使い、外国人の患者さんとの会話、接し方が身につくよう指導をします。授業では積極的に英語を話し、英語に慣れることに重点をおき、適宜、プリントを使いながら、英作文、英語の歌、ビデオ、国際協力と医療の講義などを盛り込んでバラエティーにとんだ授業をしていきます。						
評価方法	筆記試験、出席状況、授業参加態度にて総合的に評価する。						
使用テキスト	なし						
備考							

専門基礎分野

1. 考え方

専門基礎分野は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。

2. 目的

人体の構造と機能を学び、看護ケアに必要な日常生活行動の仕組みと意味を理解する。また、健康から疾病に至る変化のプロセスと回復を促進させるメカニズムを理解するとともに、対象の健康生活を支える保健医療福祉についての理解を深め、看護実践に必要な基礎的知識を養う。

3. 目標

- 1) 人体の構造と機能および機能障害と回復の促進について理解する。
- 2) 系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。
- 3) 保健医療福祉の動向と制度を理解し、保健医療福祉に関係する職種の役割を理解する。
- 4) 医療従事者に関する法律を知り、医療従事者としての義務と責任を理解する。

4. 科目構成

	科 目	単位数	時間数	学 年 別		
				1 年	2 年	3 年
人体の構造と機能	人体の構造	1	30	1 (30)		
	生命の維持機能	1	30	1 (30)		
	生体の調節機能	1	30	1 (30)		
	生活過程を整えるための形態機能学	1	15	1 (15)		
	生化学	1	30	1 (30)		
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床生理Ⅰ	1	15	1 (15)		
	臨床生理Ⅱ	1	15	1 (15)		
	病理学	1	15	1 (15)		
	微生物と生体防御	1	30	1 (30)		
	生命の維持機能の障害と治療	1	30		1 (30)	
	生体の調節機能の障害と治療Ⅰ	1	30		1 (30)	
	生体の調節機能の障害と治療Ⅱ	1	15		1 (15)	
	薬物療法の基礎	1	30	1 (30)		
	麻酔と手術療法	1	30		1 (30)	
	リハビリテーション治療の基礎	1	15	1 (15)		
	栄養と食事療法	1	15		1 (15)	
健康支援と社会保障制度	医療のあゆみ	1	15	1 (15)		
	公衆衛生の基本と法制度及び保健活動	1	30		1 (30)	
	社会保障制度と社会福祉活動	2	30			1 (30)
	医療と法律	1	15			1 (15)
	医療マネジメント	1	15			1 (15)

科目名	社会保障制度と社会福祉活動			単位数	2	時間数	30
開講時期	3年次 前期		担当者	勝部雅史			
設定理由	高齢者人口の増加に伴う「寝たきり」「痴呆」などの高齢者問題の増加、「児童虐待」「障害の重度化・重複化」などの児童・障害者分野における問題が山積しているなか、看護と社会福祉の「連携」は、ますます必要となってくる。看護専門職が社会福祉との「連携」を行っていくためには、社会福祉の動向に関する正確な知識と共に、動向を支える原理についての理解が必要とされる。 生活する人々が、社会資源の活用ができるように、社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解し、法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題を理解する。						
科目目標	1. 社会福祉の語義・基本要素、歴史的展開、思想、概念構成、対象、供給体制等の社会福祉を支える基本的な考えについて学ぶ。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP5、DP6) 2. 介護保険法、国民健康保険等の医療保障制度、国民基礎年金等の所得保障制度など、具体的な制度がどのように構成されているかについて理解する。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP5、DP6)						
講義内容	1. 生活と福祉 2. 社会保障・社会福祉の概念と制度体系 1) 社会保障の諸制度と施策 ① 介護保険法 ② 国民健康保険等の医療保障制度 ③ 国民基礎年金等の所得保障制度 2) 社会福祉の諸制度と施策 ① 生活保護制度 ② 児童福祉 ③ 障害者福祉 ④ 高齢者福祉 3. 社会福祉行政のしくみ福祉の専門職と職種 4. 社会保障・社会福祉改革の動向						
評価方法	出席状況、授業への積極的参加度、筆記試験						
使用テキスト	系看 専門基礎 社会保障・社会福祉 医学書院						
備考	基本的には講義形式で行うが、受講者の関心に合わせて、ロールプレイやディベートによる学習も取り入れたいと考えている。また、受講者の社会福祉への認識を深める一環として、簡単なレポート課題の提出を求める可能性もある。						

科目名	医療と法律			単位数	1	時間数	15
開講時期	3年次 前期			担当者	小澤隆一、葛谷辰枝		
設定理由	衛生法規・厚生行政・保健医療関係法規を学び医療従事者の責務を遂行できる能力の素地を養う。						
科目目標	1. 衛生法規・厚生行政・保健医療関係法規の基礎知識が理解できる。(DP5) 2. 保健師助産師看護師法について理解できる。(DP5)						
講義内容	1. 衛生法規・厚生行政・保健医療関係法規(10時間) 1) 法の基礎知識・衛生法規・厚生行政 2) 衛生法規・厚生行政・医療過誤 3) 医療法・医師法・薬務法など 4) 社会福祉法・社会保険法 5) 労働法 2. 保健師助産師看護師法(5時間) 看護師の人材確保の促進に関する法律						
評価方法	レポート及び筆記試験						
使用テキスト	系看 専門基礎 看護関係法令 医学書院						
備考							

科目名	医療マネジメント			単位数	1	時間数	15
開講時期	3年次 前期～後期		担当者	慈恵大学 理事 慈恵実業メディカルサービス 部長 第三病院 総合医療センター センター長 第三病院 業務課 課長 東京都医療政策部 看護人材課長			
設定理由	日本の医療には多額の税金が投入されているが、「経済」と「医療」を意識しながら従事している看護師は少ない。現在日本では超高齢社会に突入し、医療費を含む社会保障費が急激に増加し続け、国の財政のにとって大きな負担となっている。将来、医療従事者となる看護学生一人ひとりが医療の現場と経済の関係について学び、費用対効果の考え方をもち、社会や組織の一員として質の高い医療を提供することが、保健・医療・福祉の経済的効率性につながることを学ぶ。						
科目目標	1. 日本の医療保険制度及び医療費の現状を知る。(DP5) 2. 病院のマネジメントに必要な基本的知識を習得する。(DP5) 3. 医療制度・診療報酬制度・DPCについて基本的知識を身につけ、看護のあり方について考えることができる。(DP5) 4. 医療職人材確保及び東京都の特徴を踏まえた東京都医療施策を知る。(DP5)						
回数	学 習 内 容					学習形態	
1	医療政策と医療の質 学校法人慈恵大学 理事 浅野晃司		医療の現状と問題点 医療保険、国民皆保険制度、医療費増加要因 医療制度の国際比較			講義	
2			慈恵大学の理念・経営戦略・BSC・医療の質評価			講義	
3	慈恵実業メディカルサービス 石黒礼生		コストマネジメント 医材物流管理・特材と消耗品・材料比率			講義	
4	総合医療支援センター 花岡一成		医療連携			講義	
5・6	医療制度と病院経営 業務課課長 金子文成		医療制度のしくみ 診療報酬制度とは・看護必要度と評価 DPC(診断群分類)とは 地域医療連携とは			講義	
7・8	東京都医療施策 東京都保健福祉局 医療政策部 看護人材課 課長		東京都医療施策 看護人材確保対策			講義	
評価方法	講義出席状況、講義後レポートなど総合的に行う。						
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 健康支援と社会保障制度 医学書院						
参考図書							
留意点							

看護の統合と実践

1. 考え方

「看護の統合と実践」では、既習の学習を統合し、より実践に近づけて看護実践力の向上を図り、生涯にわたって継続して看護を探究するための素地を養う。これらの学びをとおして、社会に貢献できる看護師としての基礎的能力を身につけることをねらいとする。従って、科目の構築にあたっては、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ内容、臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ内容、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容、医療安全の基礎的知識を含む内容、災害の基礎的知識を含む内容、諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解する内容、看護技術の総合的な評価を行う内容で構成する。統合実習では、専門分野での実習を踏まえて、対象の状況に応じて、既習の知識・技術を引き出して統合し、臨床判断を用いて看護実践力をより高めることを目指す。また同時に、チーム医療や医療安全の理解、看護のマネジメントの必要性など各領域実習での学びを再確認し統合することもねらいとする。そこで、統合実習はすべての臨地実習の最後に位置づけ、より実務に即した実習を行う事とする。

2. 目的

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人・集団・社会に対して対象の状態に応じた看護を実践する能力を養う。

3. 目標

- 1) 看護の役割を理解し、看護をマネジメントできる基礎的知識を習得する。
- 2) 災害看護、医療安全についての基礎的知識を習得する。
- 3) 国際社会での諸外国における保健・医療・福祉の課題について考えることができる。
- 4) 看護学発展のための研究の重要性を理解し、看護研究の基礎的能力を身につける。
- 5) 多重課題に対して、総合的に判断し解決する能力を養う。

4. 構成

科 目	単位数	時間数	学 年 別		
			1 年	2 年	3 年
看護実践マネジメントと医療安全	1	30			1 (30)
災害時看護と国際協力	1	30		1 (30)	
看護研究	1	30			1 (30)
臨床看護の実践	1	30			1 (30)

科目名	看護実践マネジメントと医療安全			単位数	1	時間数	30
開講時期	3年次前期～後期		担当者	小澤かおり、山下正和、朝倉真奈美 岩尾亜希子、挟間しのぶ、高橋直美 大井田亘、木村さとみ、葛谷辰枝			
設定理由	看護師として働くためには、看護管理能力が求められている。病院や看護部門の理念に合わせ、患者満足度を高める環境づくりの考え方や看護管理のサービスの管理について学ぶ。そして、卒後に臨床で働く素地として安全な医療と確実な看護を提供するための能力を養う。人は必ず間違えるものであるが、看護師は多様な業務を担当し、日常的に危険に関わる職業である。国や医療現場での取り組み、事故発生のメカニズムや発生防止の考えなどを学び、主体的に安全を守る方法を習得する。						
科目目標	1. 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。(DP5) 2. 医療安全の基礎的知識が理解できる。(DP5)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	看護におけるマネジメント		1. マネジメントとは 2. 看護におけるマネジメント			講義	
2	情報のマネジメント		1. 看護と情報 2. 医療における看護記録の位置づけ 3. 医療情報の電子化 4. 医療情報の取り扱い			講義	
3	医療チームにおける看護マネジメント		1. 看護師のチームワークとコミュニケーション 2. 指示と報告の基本 3. 看護業務におけるチームワークとリーダーシップ 4. 看護チームでの情報伝達・共有			講義	
4	薬物・物品の管理		1. 薬物・物品の管理 2. 薬剤の請求・受領・保管の方法と留意点 3. 血液製剤の請求と実施 4. 医療機器の安全管理			講義	
5	医療安全マネジメント		1. 看護マネジメントと医療安全 2. 医療安全の仕組みと医療安全管理者と看護管理者の協働 3. 医療事故と医療安全			講義	
6	災害対策・防災管理		1. 災害医療の基本 2. 災害看護の役割			講義	
7	看護師とキャリア		1. キャリアについての考え方 2. 生涯学習 3. ジェネラリストとスペシャリスト			講義	
8	チーム医療の中のソーシャルワーク		1. ソーシャルワーカーとは 2. チームにおけるソーシャルワーカーの役割 3. 事例から学ぶソーシャルワークとチーム医療とは			講義	

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容	学習形態
9	医療事故と医療安全の定義	1. 医療安全とは 2. 安全とは 3. 医療安全の歴史 4. 医療安全に関する用語	講義
10	国の医療安全対策	1. 医療安全対策推進の背景 2. 厚生労働省の医療安全の取り組み	講義
11	組織の医療安全対策と看護職の法的責任	1. 組織として取り組むことの意義 2. 医療機関における医療安全管理の組織体制 3. 医療事故に伴う看護職の法的責任	講義
12	医療安全対策①	1. 看護業務の特徴的な環境とリスク 2. 医療事故の種類と安全対策	講義
13	医療安全対策②	1. 医療安全の推進に向けて 1) 安全な医療のために 2) テクニカルスキルとノンテクニカルスキル 3) TeamsSTEPPS(チームステップス)の理解と経験	グループワーク
14 15	医療安全の実践①②	1. KYTとは？ 2. KYTの実践 3. 事例検討	グループワーク
評価方法	筆記試験100点		
使用テキスト	新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 メディカルフレンド社 セーフティマネジメントマニュアル		
参考図書	医療におけるヒューマンエラー 第2版 なぜ間違える どう防ぐ		
留意点	医療安全 グループワーク行うにあたって ① グループリーダー、GWの司会・書記を決定しておく ② KYTの発表については、演習室で行う。発表時は事前に演習室の準備をしておく。		

科目名	看護研究			単位数	1	時間数	30
開講時期	3年次 前期～後期			担当者	加邊隆子、専任教員(全員)		
設定理由	看護に対する考えを深められるように研究の概念やプロセスの理解と共に、看護を多角的視点から深く考察し、質の高い看護を探究する能力を養う。						
科目目標	1. 看護における研究の意義がわかる。 2. 研究に必要な基本的方法がわかる。 3. 研究計画書を作成することができる。 4. 看護研究論文の書き方がわかる。 5. 看護研究をまとめる上でのマナー、態度がわかる。 6. 看護研究の一連の過程を経験できる。						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	看護研究の意義		1. 研究とは 2. 看護における看護研究の意義 3. 研究の構成要素とプロセス 論文の種類			講義	
2	看護研究のプロセス 文献検索と文献検討		1. 研究テーマの決め方 1) 問題点の把握、リサーチクエスチョン 2. 文献検索の意義 1) 文献の種類 2) 論文のクリティーク			講義	
3	文献検索の実際		1. 文献とは 2. 文献の種類 3. 文献検索の方法 4. 文献検討の方法			講義・演習 国領図書 PC室	
4	研究計画立案 看護研究の倫理的配慮		1. 研究計画立案 1) 研究デザインの決定 2) 研究計画書の書き方 2. 看護研究の倫理的配慮 1) 指針となる倫理原則 2) 倫理的配慮の方法			講義	
5	研究デザイン		1. 研究デザイン 1) デザインの種類と特徴 2) 量的研究と質的研究 3) データ収集と分析			講義	
6	事例研究の方法		1. 事例研究の特殊性 2. 事例研究の種類 3. 事例研究の方法 4. 事例研究のまとめ方			講義	
7	研究発表する意義 抄録・論文の書き方・発表の仕方		1. 研究成果を発表する意義と方法 2. 抄録・論文の書き方、発表の仕方 *研究計画書の提出			講義	

回 数	単 元 目 標	学 習 内 容	学習形態
8	看護研究の進め方 GW の意義	1. 看護研究の実際の進め方 2. グループワークの意義と方法 3. 論文提出に関する期限と留意事項 * 担当教員の発表	講義 GW
9～12	データの分析と整理	データの分析と整理グループ討論	GW 担当教員
13	東京都看護研究発表会	研究発表の仕方・座長の役割・質問の仕方 領域別実習時の看護実践を振り返る	学会参加
14・15	看護研究発表	看護研究発表会の実際の運営	発表会運営
評価方法	評価表（授業にて配布）に沿ってグループワークの参加度、研究をまとめる上でのマナー、論文、発表など総合的に判断する。		
使用テキスト	看護研究 医学書院		
留意点	看護研究は自ら疑問を持ち、考える、自分の看護実践を振り返りながら主体的に臨むことを期待する。 提出期限と場所：提出期限はガイダンス時に告知、提出場所は学内の提出ボックス ① 論文と抄録の提出箇所は別々なので注意する ② 一度提出したら差し替えしない ③ 論文提出カードと抄録はクリップでとめる		

科目名	臨床看護の実践			単位数	1	時間数	30
開講時期	3年次 後期			担当者	齋藤友紀子 他		
設定理由	昨今の臨床の現場では看護実践能力の低下が問題視されている。新卒看護師の多くはリアリティショックを体験する。そこで、基礎教育から臨床での看護実践が円滑に進めるためには、卒業前により臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行の疑似体験をし、複数課題での総合的な判断と対応を学ぶことが必要である。						
科目目標	1. 複数患者に実施すべき看護業務遂行計画ができる。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP5) 2. 複数患者への看護業務が実践できる。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP5) 3. 自己の能力に応じ、チームメンバーと連携を図ることができる。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP5) 4. 複数患者への看護実践を振り返り考察できる。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP5)						
回数	単元目標		学習内容			学習形態	
1	オリエンテーション		1. オリエンテーション 1) 複数患者を受け持つ際の看護の組み立て(講義) 2) 演習オリエンテーション			講義	
2	受け持ち患者の看護計画		2. 3人の患者への看護 1) 3人の患者に必要な看護の検討			GW	
3							
4	1日のスケジュールの組み立て		2) 3人の患者受け持ち日のスケジュールの組み立て			GW	
5							
6	受け持ち患者に必要な看護技術練習		3) 受け持ち患者に必要な看護技術の練習 4) 技術を踏まえたスケジュールの修正			GW	
7							
8	複数患者への看護実践		5) 夜勤の申し送りを踏まえた1日のスケジュールの修正 6) 3人の受け持ち患者への看護実践 7) 看護実践の評価			演習 GW	
9							
10							
11							
12	評価・発表準備		3. 複数患者への看護計画と看護実践の評価			GW	
13							
14	評価・学びの発表		4. 複数患者への看護の評価と学びの発表、意見交換			発表会	
15							
評価方法	課題、提出物、発表、レポート等から総合的に評価する						

使用テキスト	新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 メヂカルフレンド社
参 考 図 書	
科 目 履 修 上 の 条 件	履修にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしていること 統合実習以外の全ての臨地実習

V. 臨地実習概要

臨地実習

構成

科 目		単位数	時間数	学 年 別		
				1 年	2 年	3 年
基礎看護学	生活過程を整える実習Ⅰ	1	45	1 (45)		
	生活過程を整える実習Ⅱ	2	90		2 (90)	
地域・在宅 看護学概論	地域で生活する人と生活を知る実習	2	90		2 (90)	
	在宅看護論実習	2	90			2 (90)
成人・老年 看護学	生活過程を整える実習Ⅲ－1	2	90			2 (90)
	生活過程を整える実習Ⅲ－2	2	90			2 (90)
	生活過程を整える実習Ⅲ－3	2	90			2 (90)
小児看護学	小児看護学実習	2	90			2 (90)
母性看護学	母性看護学実習	2	90			2 (90)
精神看護学	精神看護学実習	2	90		2 (90)	
看護の統合 と実践	つなぐ～多職種連携・地域包括ケア～実習	2	90		2 (90)	
	統合実習	2	90			2 (90)

科目名	生活過程を整える実習Ⅰ		単位数	1	時間数	45
実習時期	1年次	担当者	専任教員全員			
実習目的	1. 看護が行われている場および対象を理解し、対象に合わせた日常生活の援助を実施する。 2. 看護者としての基本的姿勢がわかる。					
実習目標	【看護見学実習】 1. 看護師の患者との関わりを知る。 2. 患者の療養環境および生活を知る。 3. 看護者としての基本的姿勢を知る。 【日常生活の援助実習】 1. 患者の生活過程を観察できる。 2. 患者に合わせた日常生活の援助が実施できる。 3. 患者の療養生活を支える施設および多職種を知る。 4. 看護者としての基本的姿勢がわかる。					
実習内容・方法	【看護見学実習】 1. 看護師と行動し、患者との関わりや患者の療養環境および生活を見学する。 2. 実習期間：1年次 前期(1日間) 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 【日常生活の援助実習】 1. 患者を受け持ち、日常生活の援助を実施する。 2. 実習期間：1年次 後期(5日間) 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	1. 日常生活の援助実習にあたり次の科目の単位を修得していること。 看護学概論、日常生活の援助技術、日常生活の援助技術の実践、看護基本技術 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。 3. 看護見学実習を欠席した者は、予備日に出席をする。					

科目名	地域で生活する人と生活を知る実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 前期	担当者	専任教員全員			
実習目的	地域で生活するあらゆる人々と生活の場と生活のあり様を知り、その人らしく生活するための看護について考える					
実習目標	1. 地域で生活する人を知る。(DP1、DP2、DP3) 2. 地域で生活する人の生活の場と生活のあり様を知る。(DP1、DP2、DP3) 3. 地域での生活を支える人とその役割を知る。(DP5) 4. 地域で生活をする人のその人らしさを支える看護について考える。(DP1、DP2、DP3) 5. 看護者としての基本的姿勢を意識して行動できる。(DP2)					
実習内容・方法	1. フィールドワークや地域の施設での見学を通し、地域で生活する人と生活のあり様を知る。 2. 実習期間：4月 3. 実習場所 ① 子育て支援センター：狛江市子育て支援センター「たんぽぽ」、調布市児童館「子育てひろば」 ② 重症心身障害児施設：島田療育センター ③ クリニック：染谷クリニック、かじわらハートクリニック、やまだ総合内科クリニック、はく整形外科運動器エコークリニック、国領めいようクリニック、にゅうむら医院 ④ 就労継続支援施設：クッキングハウス、三鷹ひまわり作業所(第一・第二・第三共同作業所)、創造農園 ⑤ 多世代・多機能型拠点：ふらっとなんぶ、野川のえんがわ こまち ⑥ 社会福祉協議会事業：調布市社会福祉協議会 ⑦ デイサービス：ときわぎ国領、よつや苑 ⑧ 介護老人福祉施設：いなぎ正吉苑、よつや苑、こまえ正吉苑、きたざわ苑、ときわぎ国領、こまえ苑 その他：フィールドワーク					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・GW発表・レポート等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	1. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。					

科目名	生活過程を整える実習Ⅱ		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期	担当者	専任教員全員			
実習目的	1. 問題解決思考に基づき、患者の看護過程の展開をする。 2. 患者の療養生活を支える施設および多職種の役割がわかる。 3. 看護者としての基本的姿勢を意識して行動できる。					
実習目標	1. 意図的・系統的に情報収集ができる。 2. 得られた情報を分析し、看護上の問題を明らかにできる。 3. 看護目標を設定できる。 4. 看護上の問題を解決するための計画が立案できる。 5. 計画に基づいて援助を実施できる。 6. 実施した援助を評価・修正できる。 7. 患者の療養生活を支える施設および多職種の役割がわかる。 8. 看護者としての基本的姿勢を意識して行動できる。					
実習内容・方法	1. 患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 実習期間：2年次 後期(12日間) 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしている(終講試験の受験資格を有している)こと。 生活過程を整える実習Ⅰ、看護過程の展開 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。					

科目名	つなぐ～多職種連携・地域包括ケア～実習			単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期		担当者	専任教員全員			
実習目標	さまざまな場で生活する対象の切れ目のない支援を実現するために多職種連携・協働に必要な基礎的能力を養う						
実習内容・方法	1. 保健・医療・福祉に関わる多職種の支援を必要とする対象が理解できる。(DP1) 2. 保健・医療・福祉に関わる多職種の役割が理解できる。(DP5) 3. 多職種連携・協働の必要性がわかる。(DP5) 4. 保健・医療・福祉に関わる多職種の連携、協働を通して看護師の役割が理解できる。(DP1、DP2、DP3、DP5) 5. 看護職として、自覚と責任のある行動について考えられる。(DP5)						
実習内容・方法	1. 実習方法 慈恵第三病院および各施設の専門職と共に行動し、多職種連携および地域包括ケアの実際を知る 1) 医療機関における多職種連携実習 2) 介護老人保健施設における多職種連携実習 3) 地域における多職種連携実習 2. 実習期間：12月～2月 3. 実習場所 1) 東京慈恵会医科大学附属第三病院 2) 介護老人保健施設：虹ヶ丘リハケアセンター、ふれあいの里、デンマークイン若葉台、よみうりランドケアセンター、いなほ 3) 認知症デイサービス：こまえ苑、こまえ正吉苑、デイプラス狛江のいずみあざれあ 認知症グループホーム：ニチイのほほえみこまえいずみ、わらく、愛の家、木下の介護						
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。						
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしている 地域・在宅看護概論、老年看護学概論、成人看護学概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である。						

科目名	生活過程を整える実習Ⅲ－１		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員			
実習目的	成人期・老年期の特徴を踏まえ、クリティカルケア看護や周手術期看護を必要とする対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。					
実習目標	1. 成人期・老年期の特徴を踏まえ、クリティカルケア看護や周手術期看護を必要とする対象を理解できる。(DP1、DP2) 2. 手術・麻酔侵襲による生体反応や手術操作・術式によって生じる術後合併症が理解できる。(DP4) 3. 手術によって生じる形態変化や機能障害が患者へ及ぼす影響が理解できる。(DP4) 4. 術後合併症予防や回復を促進するための援助ができる。(DP4) 5. 患者の問題に対し優先順位を踏まえて看護目標が設定できる。(DP4) 6. 術後の身体状況・セルフケア能力を踏まえ、退院後の生活に向けた援助ができる。(DP4) 7. クリティカルケア看護の場における看護の特徴と看護師の役割がわかる。(DP4) 8. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 9. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3)					
実習内容・方法	1. 実習方法 1) 周手術期にある患者を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する。 2) 手術室・集中治療室・救急室の看護師と共に行動し、あらゆる場でのクリティカルケア看護の実際を知る。 2. 実習内容：クリティカルケア・周手術期にある人の看護 3. 実習期間：5月～7月、9月～10月 4. 実習場所：東京慈恵会医科大学付属第三病院					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること フィジカルアセスメント・生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である					

科目名	生活過程を整える実習Ⅲ－２			単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期			担当者	専任教員		
実習目的	成人期・老年期の特徴を踏まえ、セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。						
実習目標	1. 成人期・老年期の特徴を踏まえ、セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象が理解できる。(DP1、DP2) 2. セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象の身体的問題が理解できる。(DP1、DP4) 3. 疾病や障害・治療によって生じる形態変化や機能障害が患者へ及ぼす影響が理解できる。(DP4) 4. 患者の問題に対し優先順位を踏まえて看護目標が設定できる。(DP1、DP2、DP4) 5. セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な対象に合わせた援助ができる。(DP2、DP3、DP4) 6. 検査や治療が対象に与える影響と看護の役割が理解できる。(DP1、DP4) 7. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 8. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3)						
実習内容・方法	1. 実習方法 1) セルフマネジメントやセルフケア再獲得を必要とする患者を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する。 2) 透析室・内視鏡室等の看護師と共に行動し、治療や検査をうける対象の理解と必要な支援の実際を知る。 2. 実習内容：セルフマネジメントやセルフケア再獲得を必要とする人の看護 3. 実習期間：5月～7月、9月～10月 4. 実習場所：東京慈恵会医科大学付属第三病院						
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。						
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること フィジカルアセスメント・生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である						

科目名	生活過程を整える実習Ⅲ－3			単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期		担当者	専任教員			
実習目的	成人期・老年期の特徴をふまえ、緩和ケアまたは終末期看護を必要とする対象に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。						
実習目標	1. 成人期または老年期の特徴をふまえ、緩和ケアや終末期看護を必要とする対象を理解できる。(DP1、DP2) 2. 疾病や治療が全身に及ぼす身体的問題が理解できる。(DP1、DP4) 3. 疾病や治療による全人的苦痛が理解できる。(DP1、DP2) 4. 患者の問題に対し優先順位をふまえて看護目標が設定できる。(DP4) 5. 症状のコントロールおよび回復に向けたQOLを高める援助ができる。(DP4) 6. 全人的苦痛の緩和、その人らしく生きることを支えていく援助ができる。(DP4) 7. 自己の死生観を深めることができる。(DP3、DP6) 8. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 9. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3)						
実習内容・方法	1. 実習方法 1) 緩和ケアまたは終末期看護を必要とする患者を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する。 2) 外来化学療法室・緩和ケアチームの看護師と共に行動し、対象の理解と必要な支援の実際を知る。 2. 実習内容：緩和ケアや終末期看護を必要とする人の看護 3. 実習期間：5月～7月、9月～10月 4. 実習場所：東京慈恵会医科大学付属第三病院						
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。						
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること フィジカルアセスメント・生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である						

科目名	在宅看護論実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任教員			
実習目的	地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解し、在宅における看護についての基礎的な能力を養う					
実習目標	1. 健康上の問題をもちながら在宅で療養している人々が理解できる。(DP1、DP2) 2. 地域で療養しながら生活する人々とその家族の健康状態や価値観に合わせた援助が理解できる。(DP1、DP2、DP5) 3. 患者・家族の持つ療養上の問題とそれに応じた支援のあり方と、シームレスな看護について理解できる。(DP1、DP5) 4. 地域で療養しながら生活する人々とその家族の生活や健康を支援する社会資源の活用について理解できる。(DP5) 5. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 6. 看護者の自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3)					
実習内容・方法	1. 訪問看護師に同行し、療養者・家族へ必要な援助を実施する。 2. 外来・総合医療支援センター等での見学を通して、療養者・家族への支援のあり方について考える。 3. 地域包括支援センターでの見学を通して、利用者・家族への支援のあり方について考える。 4. 実習期間：5月～7月、9月～10月 5. 実習場所：狛江市医師会訪問看護ステーション 訪問看護ステーションこまえ正吉苑 調布市医師会訪問看護ステーション ケアプロ訪問看護ステーション東京 中野ステーション 訪問看護ステーションエルハートナースケア 東京慈恵会医科大学附属第三病院(総合医療支援センター、外来等) 地域包括支援センター(狛江市、調布市、府中市)					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること 生活過程を整える実習Ⅱ・地域・在宅看護概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である					

科目名	小児看護学実習			単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期			担当者	専任教員		
実習目的	子どもの成長発達を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康段階にいる子どもと家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う						
実習目標	1. 発達段階に応じた成長・発達の特徴が理解できる。(DP1) 2. 健康を障害された子どもとその家族の特徴が理解できる。(DP1) 3. 健康を障害された子どもの回復を促す援助ができる。(DP4) 4. 子どもの成長・発達を促す援助ができる。(DP4、DP2) 5. 子どもおよび養護者・家族との相互関係を通して自己の子ども観を発展させることができる。(DP1) 6. 地域で生活する子どもと家族における支援のあり方を理解できる。(DP1) 7. 子どもと家族を取り巻く医療・保健・福祉・教育の連携・協働について理解できる。(DP5) 8. 看護者として自覚と責任を持った行動ができる。(DP3、DP6)						
実習内容・方法	1. 病棟実習では、小児期にある患児を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 小児科外来実習では、外来看護の実際を見学する。 3. 保育所実習では、地域の保育所に行き、健康な子どもの成長・発達の特徴および特徴に応じた保育活動の見学と参加をする。 4. 重症心身障害児施設に行き、施設の特徴や患児・家族と看護師の関わり方、患児の日常生活の実際、看護師と多職種の連携の場面を見学し、状況に応じてケアの場面に参加をする。 5. 実習期間：5月～7月、9月～10月 6. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 小児病棟・小児科外来 狛江市内の保育所 重症心身障害児施設：島田療育センター						
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。						
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること 生活過程を整える実習Ⅱ・小児看護学概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である						

科目名	母性看護学実習			単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期			担当者	専任教員		
実習目的	周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、母性および新生児に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う						
実習目標	1. 妊娠の経過を理解し、妊娠が順調に経過するための援助ができる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 2. 分娩の経過を理解し、安全安楽な分娩のための援助が考えられる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 3. 産褥の経過を理解し、褥婦の健康生活の維持と健康回復への援助ができる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 4. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応についての援助ができる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 5. 生命の尊さがわかり、親性観について考えることができる。(DP3) 6. 保健・医療・福祉に関わる多職種の連携について理解できる。(DP5) 7. 看護者として自覚と責任を持った行動ができる。(DP3、DP6)						
実習内容・方法	1. 原則として一人の受け持ち対象を中心に看護を展開する。 ・病棟実習では、新生児室実習と褥婦室(分娩室含む)実習をする。 ・産婦人科外来では、妊婦・褥婦を対象とした実習をする。 2. 実習期間：5月～7月、9月～10月 3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 産科病棟・産婦人科外来 わこう助産院						
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。						
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること。 母性看護学概論、生活過程を整える実習Ⅱ 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である						

科目名	精神看護学実習			単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期		担当者	専任教員			
実習目的	精神に障害をもつ対象に必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。						
実習目標	1. 精神に障害をもつ対象を身体的、精神的、社会的側面から総合的に理解できる。(DP1、DP2) 2. 精神に障害をもつ対象の看護上の問題を抽出し看護目標が設定できる。(DP4) 3. 看護上の問題を解決するために必要な看護を計画・実施・評価できる。(DP1、DP2、DP4) 4. 精神に障害をもつ対象とより良い関係を築くことができる。(DP1、DP2、DP3) 5. 精神に障害をもち地域で生活する対象への支援がわかる。(DP1、DP5) 6. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解できる。(DP5) 7. 看護者としての自覚と責任を持った行動ができる。(DP2、DP3)						
実習内容・方法	1. 実習方法 1) 精神障害をもつ対象を受け持ち、看護過程を展開し、看護を実践する。 2) プロセスレコードで場面を再構成し、自分が行った関わりの治療的意味や、自己の認識や表現(対象を尊重した)の傾向を振り返る。 3) 精神科外来、精神科デイケア、就労支援施設において地域で生活するための支援の実際を知る。 2. 実習期間及び場所：12月～2月 1) 精神科病院： 医療法人社団翠会 成増厚生病院、 医療法人社団薫風会 山田病院 特定医療法人研精会 稲城台病院 2) 精神科デイケア：医療法人社団薫風会 山田病院 特定医療法人研精会 稲城台病院 慈友クリニック こころのクリニックなります 3) 就労支援施設： クッキングハウス 三鷹ひまわり第一・第二・第三共同作業所 創造農園 4) 精神科外来： 医療法人社団薫風会 山田病院 東京慈恵会医科大学附属第三病院 特定医療法人研精会 稲城台病院						
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。						
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること 生活過程を整える実習Ⅱ・精神看護学概論 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である						

科目名	統合実習			単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 後期			担当者	専任教員		
実習目的	あらゆる対象の状況に応じて、既習の知識・技術を統合し、臨床での実践能力を養う						
実習目標	1. 複数患者を受持ち、多重課題のなかで対象の状態と優先度を判断し看護が実践できる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 2. 夜間の患者の様子を知り、療養生活とその援助方法について理解できる。(DP1、DP2、DP3、DP4) 3. 看護をマネジメントする基礎的能力とその必要性が理解できる。(DP5) 4. 看護チームの一員としての役割と協働、メンバーシップ、リーダーシップが理解できる。(DP5) 5. 医療安全のための基礎的知識と技術が理解できる。(DP3、DP4) 6. 保健・医療・福祉における多職種との連携・協働について理解し、実践できる。(DP5) 7. 看護師としての自己の看護観を考えることができる。(DP6) 8. 看護者としての自覚と責任をもった行動ができる。(DP2、DP3、DP4)						
実習内容・方法	1. 実習方法 1) 小児期・成人期・老年期にあるさまざまな健康の段階にある対象を複数受け持ち(2名)、看護チームの中で看護を実践する。 2) 夜間帯の看護業務を担当看護師と行動を共にし、必要な援助を実施する。 3) 看護管理者にシャドーイングし、看護管理の実際を知る。 2. 実習期間 11月 3. 実習時間 日勤帯・夜勤帯に実習する 4. 実習場所 東京慈恵会医科大学附属第三病院						
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス等から総合的に評価する。						
科目履修上の条件	1. 実習にあたり次の科目を履修していること 統合実習以外のすべての実習 2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の2/3以上の出席が必要である						



慈恵第三看護専門学校
Nursing School of The Jikei